

平成 20 年

2008 年

三重県立総合医療センター一年報

目 次

運営方針

1. 病院の概要

(1) 沿 革	1
(2) 施設整備の状況	5
(3) 学会認定状況	9
(4) 組 織 図	10
(5) 職種別定数及び現在員数	11

2. 各セクションの状況

(1) 平成 20 年診療実績	12
(2) 中央放射線部	35
(3) 中央検査部	36
(4) 薬 剤 部	37
(5) 看 護 部	38
(6) 機能訓練グループ	41
(7) 栄養グループ	42
(8) 地域連携室	44
(9) 医療安全管理部	52
(10) 学会・研究会発表及び論文発表実績	72

3. 統計データ

(1) 患者統計	87
(2) 図書蔵書統計	89
(3) 病歴管理室統計	92

県立総合医療センターの基本理念・基本方針

基本理念

救命救急、高度、特殊医療等を提供することにより、県の医療水準の向上に貢献します。
安全・安心で互いにささえあう社会の実現に向けて医療面から貢献します。

基本方針

- 1 患者の皆様の権利を尊重し、信頼と満足の得られるチーム医療を提供します。
- 2 県の基幹病院として医療水準の向上に努め、安全で質の高い医療を提供します。
- 3 県内医療機関との連携を強化し、地域医療の充実に努めます。
- 4 職場環境を改善し、職員のモチベーションの向上に努めます。
- 5 公共性と経済性に配慮した健全な経営を行います。

受診される皆様の権利

- 1 人として尊重され最善の医療を受ける権利があります。
- 2 医療行為についての情報提供と説明を受ける権利があります。
- 3 患者の皆様の理解と同意に基づいた医療を受ける権利があります。
- 4 診療情報の保護により、プライバシーを尊重される権利があります。

守っていただく事項

- 1 心身の健康状態などの必要事項については、正確で詳細な情報をお伝えください。
- 2 医療行為は、理解と合意のうえを受けてください。
- 3 お互いに、礼儀正しく社会的ルールをお守りください。
- 4 医療費の支払い請求を受けたときは、速やかにお支払いください。

1. 病院の概要

(1) 沿革

- 昭和23年 8月 三重県医師会より旧海軍燃料廠附属病院を継承し三重県立医学専門学校・三重県立医科大学附属塩浜病院として発足
初代院長 渡辺 篤 病床数 113 床
- 24年 6月 二代院長 高安 正夫
- 25年 4月 塩浜病院乙種看護婦養成所を設立
12月 病床数 134 床 (普通病床 99 床・結核病床 35 床) 許可
生活保護法に基づく保険医療機関指定
- 27年 借用中の国有財産(土地 7,270 坪・建物 18 棟、1,809 坪)を譲り受ける
- 28年 2月 第6病棟(木造平屋建)竣工
4月 県立大学医学部附属塩浜病院准看護婦学校に推移
5月 「総合病院」の名称使用承認。
- 30年 7月 鉱工業の医学に及ぼす影響及び産業従事者の特殊疾患の研究を目的として病院敷地内に産業医学研究所設立
- 31年 7月 第1病棟(鉄筋コンクリート2階建)竣工
- 32年 3月 第3病棟(鉄筋コンクリート2階建)竣工
8月 病床数 307 床 (一般 220 床・結核 87 床) 許可
健康保険法に基づく保健医療機関指定
- 33年 10月 基準看護(一般・結核)、基準給食承認
11月 病床数 307 床 (一般 208 床・結核 87 床・伝染病 12 床) 許可
- 34年 1月 東5病棟(鉄筋コンクリート4階建)竣工
国民保険法に基づく保険医療機関指定
9月 病床数 465 床 (一般 354 床・結核 99 床・伝染病 12 床) 許可
11月 中央治療棟(鉄筋コンクリート3階建)竣工
- 35年 1月 県立大学行政機構改革に伴い三重県立大学医学部附属塩浜病院、県立大学医学部附属准看護婦学校へ改称
- 36年 10月 手術室、ボイラー室及び変電室竣工
- 37年 5月 病床数 465 床 (一般 354 床・結核 91 床・精神病 8 床・伝染病 12 床) 許可
8月 病床数 465 床 (一般 354 床・結核 99 床・伝染病 12 床) 許可
- 38年 3月 外来診療B棟(鉄筋コンクリート2階建)竣工
- 39年 3月 外来診療A棟(鉄筋コンクリート2階建)竣工
7月 基準寝具承認
12月 看護婦宿舎(鉄筋コンクリート4階建)竣工
- 40年 4月 三代院長 藤野 敏行
第5病棟2階に公害患者のための空気清浄室設置

- 41年 2月 病床数 465 床（一般 354 床・結核 52 床・精神病 47 床・伝染病 12 床）許可
5月 「救急病院等を定める省令」に基づき救急病院の告示
- 44年 4月 四代院長 宮地 一馬
- 48年 3月 院内保育所（木造平屋建）竣工
- 49年 4月 五代院長 高崎 浩
県立大学の国立移管により三重県立大学医学部附属塩浜病院を廃止し、三重県立中央病院として発足
県立大学の国立移管により県立大学医学部附属准看護婦学校を廃止。塩浜高等看護学院を設立
- 9月 病院名称を三重県立中央病院から三重県立総合塩浜病院に改名
- 50年 6月 六代院長 森 幸夫
- 51年 4月 解剖霊安棟（木造）を鉄筋 2 階建に改築
5月 給水、ボイラー、焼却及び電気設備を改修
- 52年 4月 第 5 病棟西棟（木造 2 階建）を鉄筋コンクリート 4 階建に改築
- 53年 4月 第 1 病棟 1 階を検査室と薬品倉庫に改修
- 54年 3月 防災設備（スプリンクラー等）を改修
- 54年 9月 病院群輪番制病院に
- 55年 8月 外来棟冷房設置及び駐車場を整備
- 57年 8月 基準寝具承認
- 58年 1月 医事業務の電算化
3月 第 3 病棟の病床を第 5 病棟に移設（7 看護単位とする）
塩浜高等看護学院廃止
6月 X線コンピューター断層診断装置を設置
- 59年 3月 第 6・7 病棟、第三宿舎、倉庫 2 棟の木造建築を解体撤去
8月 結核病床 52 床、精神病床 47 床、伝染病 12 床を廃止、一般病床 354 床許可
- 60年 3月 食器洗浄棟を設置
- 61年 12月 県立総合病院整備基本計画策定
- 62年 3月 注射用与薬車を全病棟へ導入
錠剤自動分包機導入
- 平成 2年 3月 高周波加速電界発生機器収納施設（ライナック治療棟）設置
3年 3月 県立総合医療センター建設用地取得
4月 七代院長 杉山 陽一
4年 1月 県立総合医療センター建設工事着工
3月 県立総合医療センター（一般 350 床、救命救急センター 30 床）開設許可
7月 県立総合医療センターヘリポート設置許可承認
- 5年 4月 夜間看護等加算の承認
6月 県立総合医療センター医師公舎、看護婦宿舎、院内保育所建設工事着工
- 6年 3月 県立総合医療センター医師公舎建設工事完成
4月 医事課を医事経営課に改める

- 6月 総合医療センター建設工事完成
- 9月 県立総合塩浜病院閉院
- 10月 県立総合医療センター開院
 - 救急病院の指定
 - 身体障害者福祉法による更生医療指定病院の承認
 - 結核予防法指定病院の承認・生活保護指定病院の承認
 - 母子保健法による養育医療指定病院の承認
 - 臨床研修指定病院の承認
 - 保険医療機関の指定承認
 - 労災保険指定病院の変更承認・労災保険義肢採型指導医の指定変更承認
 - 労災アフターケア実施医療機関指定変更承認
- 7年 4月 NICU施設承認
- 8年 2月 エイズ拠点病院の選定
 - 4月 八代院長 宗行 万之助
- 9年 1月 災害拠点病院の指定
- 11年 4月 九代院長 鈴木 宏志
 - 適時適温給食導入
- 12年 1月 西棟・手術棟完成
- 13年 3月 6階東病棟改修完了
 - 4月 第二種感染症病床指定医療機関の指定
 - 病床数（一般412床、救命救急センター30床、感染症病床4床）許可
 - 7月 セミオープンベットの開設
- 14年 8月 地域がん診療拠点病院の指定
 - 10月 十代院長 小西 得司
- 15年 3月 地域周産期母子医療センターの選定
 - 8月 新オーダーリングシステム導入
 - 9月 救命救急センター HCU、ICU、CCU に分離
 - ICU、CCU 7床→6床
- 16年 2月 （財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定
 - 3月 パーキングシステム設置
 - 4月 患者相談窓口を設置
 - 6月 化学療法室を開設
- 17年 11月 太陽光発電システム設置
- 18年 1月 緩和外来開設
 - 8月 電子カルテ稼動
- 20年 3月 放射線治療システム(ライナック)の更新
- 20年 4月 十一代院長 高瀬 幸次郎
 - クレジットカード決裁開始
 - 災害用地下水供給システム稼動

- 7月 セカンドオピニオン外来開設
- 10月 化学療法室の移転・増床（7床→10床）
- 11月 自治会との災害給水協定締結
血管造影撮影装置(心臓・頭腹部アンギオ)の更新
- 21年 4月 DPC(医療費定額支払制度)開始

(2) 施設設備の概要

所在地 四日市市大字日永 5450 番の 132

●病床数

一般……………	412 床
感染症病床……………	4 床
救命救急センター……………	30 床
計	446 床

●診療科目

内科	脳神経外科	眼科	循環器科
小児科	耳鼻いんこう科	呼吸器科	産婦人科
精神科	消化器科	整形外科	神経内科
外科	リハビリ科	放射線科	心臓血管外科
皮膚科	麻酔科	呼吸器外科	泌尿器科

●本館敷地・建物概要

敷地面積……59,450.90 m²

建物規模……地下1階、地上7階、塔屋2階

建物構造……高層部SRC造、低層部RC造

建築面積……9,549.15 m²

延床面積……29,176.89 m²

駐車台数……約700台

●附属施設

医師公舎 R C 2階建、延床面積： 517.86 m² (12戸)

看護師宿舎 R C 3階建、延床面積： 1,758.99 m² (68室)

院内保育所 R C 平屋建、延床面積： 233.40 m²

●厚生施設

食堂(7階)、売店、喫茶、自販機コーナー、授乳室(1階)

●付帯設備

電子カルテシステム

医療情報システム(オーダーリングシステム)

院外処方FAXステーション

災害備蓄倉庫

●電気設備

受変電設備受	電電圧 6.6k V 変圧器容量 3,800 k V A
非常用発電機設備	ガスタービンエンジン 3 相 3 線 6.6 k V 1,000 k V A × 1 台 ディーゼルエンジン 3 相 3 線 220V 200 k V A × 1 台 ディーゼルエンジン 3 相 3 線 220/100V 150 k V A × 1 台
非常用発電機燃料設備	地下タンク 40,000L (A 重油)
無停電電源設備	医療用定格出力 75 k V A リニア搬送設備用定格出力 30 k V A × 1 台 15 k V A × 1 台
電気時計設備	親時計 1 台、子時計 268 台
電話交換設備	電子交換機中継台方式 一般電話機、多機能電話機、コードレス電話機、PHS
放送設備	非常・業務兼用定格出力 1,320W 系統 50
ナースコール	ベッド単位方式同時通話 PHS 対応
自動火災報知設備	GR 型複合型受信機 (2 系統、832 回線)
その他	照明制御装置、避雷設備、中央集塵設備、投薬表示設備、電気錠、 防犯カメラ設備、太陽光発電装置

●空気調和設備

主熱源	空気熱源スクルーヒートポンプ冷凍機 2 台、ガス焚冷温水発生機 1 台 合計約 610 冷凍トン
主空調方式	空気調和機、ファンコイルユニット、パッケージエアコン
空調制御設備	中央監視設備による自動制御 (病室用パッケージエアコンを除く)
換気設備	給気設備、排気設備

●給排水衛生設備

給水設備	上水受水槽 216,000L × 1 台 井水受水槽 102,000L × 1 台 上水高架水槽 60,000L × 1 台 井水高架水槽 40,000L × 1 台
排水設備	厨房・洗濯排水系、人工透析・解剖室排水系、生活排水系、検査系の 4 系 統処理能力 712 m ³ /日 R I 排水処理設備処理能力 0.2 m ³ /日
ボイラー設備	炉筒煙管式ボイラー 2 基最高使用圧力 10kg/cm ² 最大蒸発量 2.4t/h
医療ガス設備	液体酸素、気体酸素、笑気、窒素、圧縮空気
エレベータ設備	一般用 2 台業務用 3 台配膳用 1 台ヘリポート搬送用 1 台検体搬送用 1 台

●リニア搬送設備

	21 ステーションキャリア・コンテナ各 40 台 走行レール全長 1,031 メートル
--	--

- ヘリポート設備 陸上ヘリポート (屋上) 耐重量6.4t
着陸帯22メートル (長さ) ×18メートル (幅)

●高額備品一覧

資産名称	メーカー	構造規格	数量
患者監視装置(医療用テレメタ)	フクダ電子	DS-7640	1
患者監視装置	日本光電	CNS-9303	1
心臓超音波診断装置 (NICU)	フィリップス	SONOS5500	1
フィールドアナライザー	カールツァイス	HFA II 750	1
眼科レーザー光凝固装置	トーマー	MD S 1000	1
超音波白内障手術装置	アルコン	レガシー2000	1
救急X線撮影装置	シーメンス	ベルチックス3D-3	1
患者監視装置システム	日本光電		1
心臓超音波診断装置(救命センター)	フィリップス	SONOS5500	1
鼻マスク式人工呼吸器	ゾ・レスピロニクス	BiPAPVision	1
外科用超音波診断装置	GE横河	LOGIQ200MDpro	2
ガンマ線検出システム	センチュリーメテikal	NE02000	1
頭腹部アンギオ装置	東芝	スーパーG	1
脳機能検査装置	日本光電	EEG4524/BF	1
免疫測定装置	バイエルメテikal	ケミル ADVIA Centaur	1
長時間心電図記録解析装置	フクダ電子	SCM-6000	1
脳波計	日本光電工業	EEG-1714	1
一般検査システム	シスメックス	UF-100 他	1
全自動輸血検査装置	オリンパス	ID-GelStation 他	1
全自動細菌検査装置	日本ビオメリュー	バイテック2システム	1
生化学自動分析装置	日本電子	JCA-BM1250	2
総合肺機能検査システム	チェスト	CHESTPkc-8800 BDN型	1
総合血液検査システム	シスメックス	XE-A1phaN	1
血液ガスシステム	バイエルメテikal	フレットポイント405	1
産婦人科用超音波診断装置	持田製薬	MEU-1585	2
分娩監視装置	フィリップス	OBトレスビュー、M1351A 他	1
超音波診断装置	GE横河	LOGIQ400MD	1
患者監視装置(モニタリングシステム)	日本光電	M1166A	1
移動型外科用X線装置	フィリップス	BV Libra	1
筋電計	ニコレー	バイキングIV	1
内視鏡下血管採取システム	バイタル	バイビュエントスコープ	1
X線テレビ装置	東芝	DBA-300A	1
膝関節鏡視下手術セット	ストラッカー、ジンマー他		1

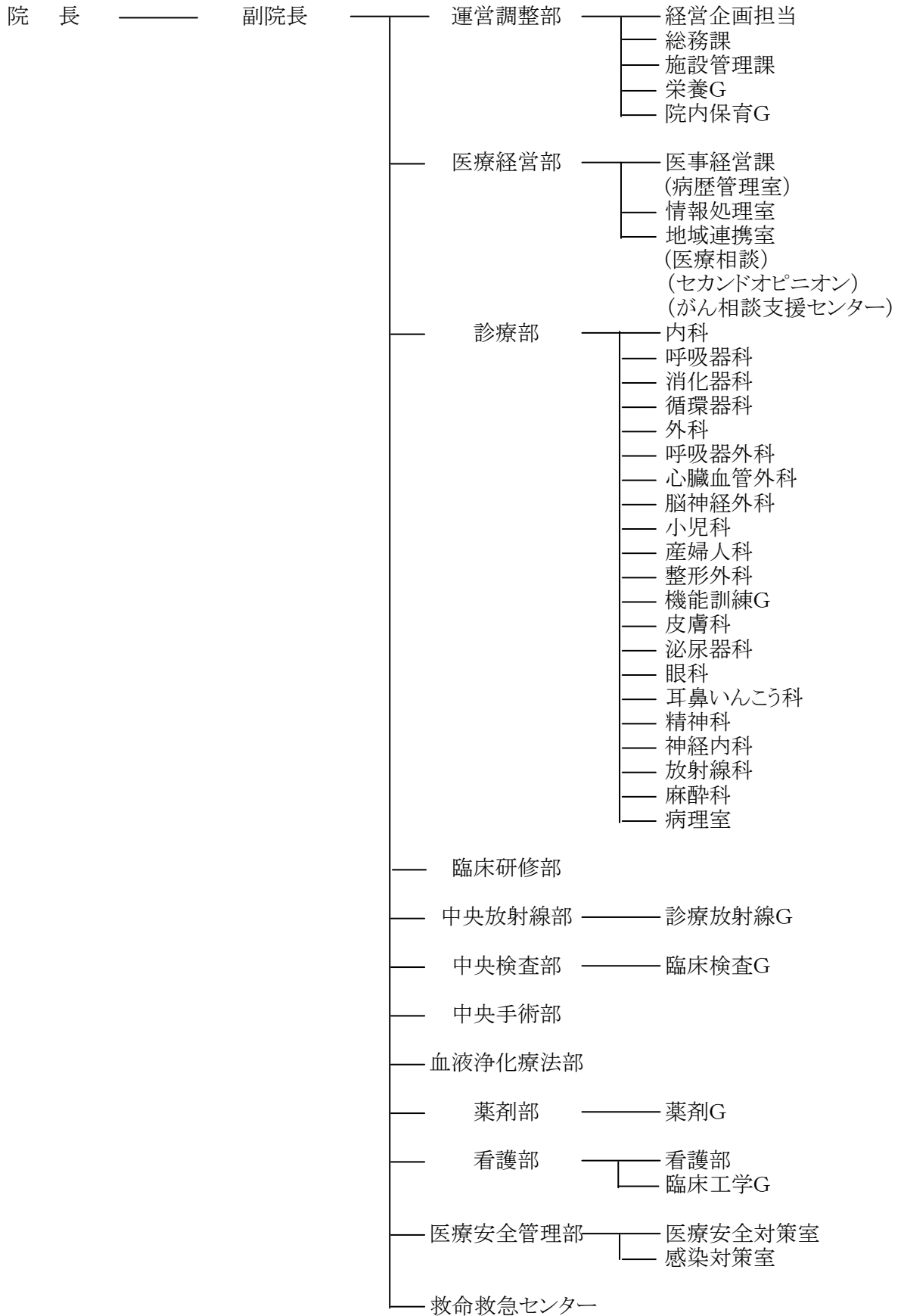
資産名称	メーカー	構造規格	数量
診断用 X線撮影装置	東芝	KOX-50F	2
多軌道断層撮影装置	島津	HLZ-110	1
心アングロ装置	シーメンス	コロスコプ HS	1
C T装置	東芝	X Vision	1
ライナックシステム	三菱	EXL-15SP	1
ガンマーカメラ	東芝	GCA-7200	1
内照射装置(マイクロレプトン)	千代田テクノル	HDR 1 9 2 1 r	1
誘発電位・筋電図検査装置	日本光電	MEB-2208	1
X線テレビ撮影装置	東芝	DBA-300 A	1
超音波診断装置 (心エコー室)	フィリップス	SONOS5500	1
乳房X線撮影装置	インスツルメンタル・イメージング	アルファ R T型	1
腹部超音波診断装置	シーメンス旭メデテック	ソラインアンタレス	1
X線コンピュータ断層撮影装置	東芝メディカル	AquilionMULTI(16列)	1
磁気共鳴診断装置	シーメンス旭メデテック	MAGNETOM Symphony	1
腹部超音波診断装置(中央放射線部)	東芝メディカルシステムズ	nemio-10	1
X線テレビ装置	東芝	Winscope5000	1
腹部超音波診断装置	東芝メディカルシステムズ	AplioSSA-770A 他	1
一般撮影システム	フジフイルム	F C R	1
内視鏡ビデオシステム	オリンパス	OTY-SX2C 他	1
電子内視鏡システム	オリンパス	EVIS LUCERA CV-260	2
超音波内視鏡システム	オリンパス	EU-M2000	1
脳神経外科用手術顕微鏡	カールツァイス	OMUNI Pentero	1
泌尿器科用超音波診断装置	アロカ	ProSound SSD-4000	1

(3) 学会認定状況

- ・日本内科学会認定医制度教育病院
- ・日本小児科学会小児科専門医研修施設
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本外科学会認定制度修練施設
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本脳神経外科学会専門医訓練施設（A項施設）
- ・日本医学放射線学会専門医修練協力機関
- ・日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設
- ・日本呼吸器外科学会専門医認定制度指定関連施設
- ・日本循環器学会専門医研修施設
- ・日本腎臓学会研修施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本神経学会教育関連施設
- ・日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本消化器内視鏡学会認定指導施設
- ・日本大腸肛門病学会専門医修練施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期新生児専門医暫定研修施設
- ・日本ペインクリニック学会認定指定研修施設
- ・日本透析医学会専門医制度教育関連施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- ・日本心血管インターペンション学会認定研修関連施設
- ・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- ・呼吸器外科専門医合同委員会・関連施設
- ・日本乳癌学会認定医・専門医関連施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設

(4)三重県立総合医療センター組織図

平成20年4月1日現在



業務委託 医事業務、夜間休日警備、電話交換業務、施設管理中央監視、検体検査業務、医療用具等の滅菌消毒業務、患者給食業務、患者搬送業務、医療機器の保守点検業務、寝具等の洗濯業務、施設の清掃業務、医療ガス供給設備の保守点検業務、感染性廃棄物の処理業務

(5) 職種別定数及び現在員数

平成20年4月1日

職種		区分			
		定員	現在員	過不足	嘱託・業務補助
一般職	一般事務職	21	22	1	13
	電気技師	1	1	0	
	情報技師	1	1	0	
	保育士	4	4	0	9
	医師	93	83	-10	
	薬剤師	15	14	-1	2
	管理栄養士	3	3	0	1
	臨床検査技師	21	21	0	1
	診療放射線技師	18	16	-2	1
	理学療法士	4	3	-1	
	作業療法士	2	1	-1	
	言語聴覚士	1	1	0	
	臨床工学技士	3	3	0	
	看護師	308	292	-16	44
	准看護師	0	0	0	7
	医療福祉技師	3	2	-1	
	診療情報管理士	2	2	0	
	司書				1
	保健師	1	1	0	
	保育専門指導員				1
小計	501	470	-31	80	
現業職	病院施設管理員	4	4	0	
	看護助手	4	4	0	9
	看護補助				20
	労務員				1
	小計	8	8	0	30
合計		509	478	-31	110

2. 各セクションの状況

(1) 平成20年診療実績

循環器科

当科は心臓血管疾患および高血圧等循環器疾患を広く担当しております。

心臓血管疾患では、虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、ペースメーカー植込み、先天性心疾患、肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症、大動脈疾患などを扱い、さらに救急診療としましては、心不全、急性心筋梗塞、不安定狭心症、不整脈、大動脈解離、肺血栓塞栓症などの循環器救急に迅速に対応すべく待機医を配しております。また心臓血管外科医と密な連携をとり対処しております。

虚血性心疾患の方には、非侵襲的な核医学検査とともに必要と思われる患者さんには積極的に心臓カテーテル検査を行っております。左心カテーテルの穿刺部位は肘の動脈(上腕動脈)、手首の動脈(橈骨動脈)、太ももの動脈(大腿動脈)を使用しておりますが、なるべく患者さんの負担にならないよう肘か手首の血管を選択するようにしております。冠動脈疾患の場合、患者さんの背景、重症度、年齢、糖尿病の有無などに応じて、内科的保存療法(投薬観察)か、バルーン、ステントなどによる冠動脈形成術か、冠動脈バイパス術かを厳密に選択しております。冠動脈インターベンション(冠動脈形成術)では、穿刺部位は手首の血管をほとんどの例で使用していますので、侵襲が少なく術後安楽にお過ごしいただけます。また再狭窄の少ない薬剤溶出性ステントを必要と判断される患者さんには積極的に使用するようにし、再狭窄の減少とともに確実な治療成果を目指しています。

高齢化に伴い種々の心疾患を基礎とする心不全患者さんが激増しており、必要性および重症度に応じて入院投薬治療、補助循環装置の利用等手段を駆使して病態に則した治療を行い、また再入院を減らすよう努めております。

不整脈疾患に対しては、確実な診断と、投薬やペースメーカーによる治療にあたっています。より高度な不整脈治療を希望される場合は、大学病院の専門医に紹介させていただく場合もあります。

肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症に対しては、下肢静脈エコー、静脈造影、心エコー、マルチスライスCT、肺血流シンチ、肺動脈造影などを使用して、正確な診断と適正な治療(抗凝固療法、血栓溶解療法、回収可能型下大静脈フィルター留置術など)を行っております。

大動脈疾患に関しては、当院の血管外科との綿密な連携により、迅速かつ最も安全で確実な治療を提供しています。

以上、循環器疾患は緊急性が高いため、当科は24時間、365日体制で複数の医師が当直または待機にて診療させていただいております。当院にかかりつけの患者さんのみならず、近隣遠隔を問わず、他医、他院よりの紹介患者さんにおいても病診連携の意味から、幅広く対応させていただいております。

◆入院疾患の概要

疾患名	事例数
狭心症	255
心不全	226
急性心筋梗塞	52
慢性虚血性疾患	166
肥大型心筋症	9
拡張型心筋症	9

◆主疾患を含む治療成績

冠動脈造影総数 539 例

経皮的冠動脈形成術数 150 例

初期成功率 95% (142/150 例)

ステント挿入 130 例 (内 薬剤溶出ステント 117 例)

POBA (拡張のみ) 20 例

ペースメーカー植え込み術 22 例(新規 17 例 交換 5 例)

◆主疾患プロトコール

冠動脈造影検査 経皮的冠動脈形成術 急性心筋梗塞

急性大動脈解離 ペースメーカー植込み・電池交換

呼吸器科

主な疾患について記します。

<肺癌>

がん拠点病院の指定を受け、肺癌に対する集学的治療を最大のテーマとしています。患者さんの人間性を尊重し、病名はもちろん、病状、治療法、予後についても患者さんご本人及びご家族に説明し、理解していただいたうえで、一緒に癌と向き合う姿勢をとっています。たとえ進行癌や高齢者であっても、本人の治療希望があり、化学療法に耐えうるところが判断した場合には、延命を目指して積極的に化学療法を行っています。また生活の質を重視し、外来化学療法を推進することで、入院日数の短縮や在宅期間の延長に努めています。局所麻酔下胸腔鏡や超音波気管支鏡導入により診断率もさらに向上してきています。

<気管支喘息>

急性期病院として大発作による呼吸不全に対しては、人工呼吸管理を含む集中治療を行っています。慢性安定期には吸入ステロイドを主体とした治療とピークフローメーターや喘息日記を用いた自己管理指導を行っています。

<慢性閉塞性肺疾患 COPD>

かつて肺気腫と呼ばれていた「タバコ病」です。長時間作動型吸入抗コリン薬などによる治療や呼吸リハビリテーションにより労作時息切れなどの改善を目指します。重症例には在宅酸素療法や在宅人工呼吸管理を行っています。また、本疾患は肺炎併発リスクが高く、インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンによる感染予防を推奨しています。急性増悪による呼吸不全にはマスク型人工呼吸器を用い救命を目指しています。

<肺炎>

抗生物質の進歩した現在においても肺炎は日本人の死因の第4位であり、高齢者や進行した慢性疾患を有する患者さんにおいてはしばしば致命的となります。当科では学会ガイドラインに基づいた正確な肺炎重症度評価を行ったうえで治療を行っています。その一方、非高齢者や基礎疾患のない患者さんに対しては、不要な入院は避けて経口抗菌薬による通院での治療を推奨しています。

<その他、留意していただきたいこと>

1. 気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患などの慢性疾患については、その増悪時には管理・治療を行います。急性期を過ぎれば地域の開業医さんを紹介させていただいておりますので、ご理解をお願いいたします。
2. 当院には結核病棟がありませんので、排菌性結核の方は他病院を紹介させていただくこととなります。
3. 睡眠時無呼吸症候群に関しては、検査機器の関係でスクリーニング検査しか行っていません。
4. 禁煙外来は開設していません。
5. 訪問診療はおこなっていません。

◆平成 20 年入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
肺癌	298例	
肺炎	212例	41例はCOPD
慢性閉塞性肺疾患 COPD	107例	
自然気胸	47例	
間質性肺炎	13例	
気管支喘息	31例	

◆主疾患（悪性疾患）を含む治癒成績（5年生存率など）

肺癌は治療成績がよくない癌の一つです。長年の喫煙で肺機能が損なわれている高齢者に多いことや、進行例での発見が多いことなどが、その理由です。

手術可能例は呼吸器外科にて手術を行っていますが、手術不能進行例や術後再発例は当科にて化学療法や放射線照射を行っており、平均を上回る治療成績を出しています。

◆主疾患治療プロトコール（クリパスを含む。）

クリニカルパス

- 1) 呼吸リハビリテーション：対象は慢性閉塞性肺疾患。12日間。
- 2) 睡眠時呼吸検査：1泊2日。スクリーニングのみ。

◆その他

当科は日本呼吸器学会および日本呼吸器内視鏡学会の認定施設です。
また、日本アレルギー学会の準認定施設でもあります。

消化器科

◆診療方針

消化器科は消化器疾患全般について診療しております。

胃十二指腸潰瘍に対して、内視鏡的止血術、ピロリ菌感染の診断と除菌治療。また、消化管悪性腫瘍に対して、内視鏡検査を中心に、早期診断・内視鏡的治療・外科手術が必要な場合は外科との連携による的確な紹介を行っています。

また、B型あるいはC型肝炎ウイルスによる慢性肝炎、肝硬変に対するインターフェロンによるウイルス排除、肝癌に対する動脈塞栓術・リザーバ動注療法を行っています。またラジオ波焼灼療法や肝移植が適応となる患者様については三重大学病院等と密に連絡をとり適切に御紹介させていただいています。

今後は、消化器癌の症例増加を踏まえて、これまでの治療方針に加えて、さらに、大腸内視鏡検査数の増加・超音波内視鏡検査による癌診断の充実・進行癌に対する抗癌剤治療さらに、末期癌症例に対する緩和医療などにも取り組んでいきたいと考えています。

◆平成20年診療実績

肝癌	124
大腸ポリープ	105
胆石症	92
胃癌	36
胃・十二指腸潰瘍	91
腸閉塞	152
炎症性腸疾患	20
胃腸炎	45
消化管出血	35
食道静脈瘤	22
食道癌	17
大腸癌	30
胆膵癌	45
肝硬変・肝不全	78

◆主疾患治療プロトコール

胃・大腸ポリペクトミークリパス

ウイルス肝炎に対するインターフェロン治療クリパス

肝癌に対する動脈塞栓術、エタノール局注、ラジオ波焼灼療法のクリパス

食道静脈瘤内視鏡的治療クリパス

などがあります。

◆その他

平成 20 年年間消化器検査及び処置施行数（下記は当院全体の施行数です）

上部消化管内視鏡	2,371 例
上部消化管内視鏡的ポリープ切除術	5 例(うち ESD 2 例)
食道静脈瘤硬化療法/結紮術	18 例/17 例
下部消化管内視鏡	1,064 例
下部消化管内視鏡的ポリープ切除術	218 例
超音波内視鏡	13 例
内視鏡的逆行性膵胆管造影	310 例
内視鏡的胃ろう造設術	73 例

神経内科

診療方針（特徴）

神経内科は「内科的な神経疾患」を中心に診療を行います。

脳卒中を始め、頭痛、めまい、手足のしびれなど日常的な症状から、筋肉・末梢神経の疾患やパーキンソン病・脊髄小脳変性症・多発性硬化症・痴呆症などの各種変性疾患や専門疾患などを担当します。

CTやMRIなどの画像検査を始め、神経の機能を調べる神経生理検査や高次脳機能検査などの専門検査での評価・治療を行います。

特殊治療では、眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸へのボツリヌス局所療法も行っています。脳卒中に対しては、当院では脳卒中ユニットによるチーム医療を特徴とし、脳神経外科との合同診療を行っています。

◆主疾患を含む治療方針と概要

- ・ **脳卒中**：脳神経外科との合同チーム医療(脳卒中ユニット)を形成。
年間 200 から 250 人、主に虚血性脳血管障害中心に担当
毎日 24 時間迅速なる対応が可能としています。急性期脳血管障害の判定を行い、可能例には血栓溶解療法を始め、最適な治療方法を選択し加療を行います。
- ・ **超急性期加療**：脳梗塞発症 3 時間以内の超急性期加療として当院では脳卒中学会ガイドラインに基づき t-PA を用いた加療を行っており、その症例数は常に県内では上位に位置しています。
- ・ **ボツリヌス局所療法**
眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸に対しての局所注射療法
短時間で外来で可能。併行して頭蓋内画像検査、神経生理検査で評価を施行
年間 50 人から 70 人ほど施行
研修医にも研修中に資格取得してもらっております。
- ・ **変性疾患**：代表的なパーキンソン病で毎年、新規診断例が 10-15 人ほど見つかри、50 - 60 例が通院加療中。地域の医療機関と連携し在宅医療も充実させ、必要例にはレスパイト入院も受け容れている。
- ・ **認知症**：専門外来を設置し、病型診断、初期加療の開始を行い、在宅医療に向け地域医療機関と連携パスを作成中

◆主疾患治療プロトコール

- ①脳梗塞：三重脳卒中医療連携研究会の急性期基幹病院として登録され、統一連携パスを使用。
- ②眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸：ボツリヌス局所注射療法
- ③物忘れ外来：水曜日に専門外来、必要例に精査入院
- ④多発性硬化症へのインターフェロン導入コース
- ⑤γグロブリン大量両方(IVIg 療法)
- ⑥他

日本内科学会認定医 2 名・指導医 1 名

日本神経学会専門医常勤 2 名 非常勤 1 名

日本脳卒中学会専門医 1 名

日本臨床神経生理学会認定医 1 名

日本神経学会教育関連施設

日本脳卒中学会研修教育病院

ボツリヌス施行有資格者 当科 2 名

◆その他

逆紹介制度：基本的に外来・入院を問わずに、病状が安定した後にはかかりつけ医の医療機関へ逆紹介させていただきます。

外科

常勤 9 人、研修医 2～3 人で消化器疾患、乳腺疾患を中心に外科診療に携わり、平成 20 年の全手術症例は 650 例と昨年比で 15%増加しています。

特徴：

消化器癌の治療は個別化医療の臨床応用など著しい進歩を認め、当科も日々積極的に治療を更新しています。その中でも直腸癌は集学的治療が発展している分野であり、三重大学消化管・小児外科学講座との連携により、当院の放射線治療医の指導のもと、術前化学放射線療法を施行し癌腫を縮小させ、局所再発の軽減をはかり肛門を温存する治療を実施しています。個々の患者さんの病態に応じた治療であり大変好評です。肛門括約筋の温存術(ISR)も癌の位置や大きさ、深達度により可能です。

さらに当科では胃癌、大腸癌、胆石症、虫垂炎、腸閉塞、副腎腫瘍を対象に、腹腔鏡下手術を積極的に行っており、平成 20 年では 168 例と昨年比 20%増加しています。結腸癌は第一選択が腹腔鏡下手術です。上述した直腸癌の術前化学放射線療法後に腹腔鏡下手術を施行することも実施しています。胃癌も腹腔鏡下胃切除を積極的に行っており、術後機能を重視し幽門保存胃切除術も腹腔鏡下で施行しています。胆嚢炎では、炎症の程度、開腹の既往の有無にかかわらず全例腹腔鏡下手術の適応とし、開腹移行率は 1%前後と良好な結果をおさめています。総胆管結石症には、消化器内科医と共同で腹腔鏡下胆嚢摘出術と同時に内視鏡下で総胆管結石を採石する「ランデブー・メソッド」を取り入れています。虫垂炎の腹腔鏡下虫垂切除は、在院日数の短縮のみならず遺残膿瘍、創感染の軽減などの大きなメリットを認めています。

乳癌治療では、乳房温存療法、センチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清省略をとりいれ、毎年症例数が増加しています。さらに術前化学療法により乳房温存率が向上し、手術の縮小化がはかられています。

抗癌剤治療は外来化学療法室にて通院で行い、各癌腫の術後(術前)化学療法のほか、進行再発癌に対する QOL 改善、延命を目指す治療を行っています。月 1 回の化学療法安全運営会議をもち、治療レジメンの吟味・処方内容の院内統一を行い、一定の安全管理システムと適切な支持療法のもとに実施されています。

緩和ケアは、緩和治療医 2 名、薬剤師 1 名、看護師 2 名、臨床心理士 1 名にて構成される緩和ケア・チームが週 2 回の外来と院内回診を行い、精神的・肉体的・社会的緩和のための支援を行っています。

◆手術症例の概要

県立総合医療センター 手術内訳 2008年

疾患名	症例数
食道癌根治術	5
食道良性手術	0
胃十二指腸良性手術	13
胃十二指腸悪性手術	45
イレウスを除く小腸手術	8
イレウス手術	20
虫垂炎手術	49
大腸肛門悪性根治術	86
大腸良性手術	14
肛門良性手術	27
胆道良性手術	91
胆道悪性手術	3
肝切除術	9
膵良性手術	2
膵悪性腫瘍根治術	4
門脈、脾手術	2
乳癌根治術	88
乳腺良性手術	15
甲状腺手術	0
外傷手術	2
ヘルニア手術	103
その他	64
計	650

◆治療成績等

- ・手術症例 650 のうち在院死亡(退院できずに死亡)は 5 例 (全手術症例の 0.76%)、5 例中 4 例は癌死。術死 (30 日以内の死亡) は 3 例 (全手術症例の 0.46%)、全例癌死。
- ・腹腔鏡補助下幽門側胃切除術の経口摂取の平均は 3.5 日、在院日数の平均は 12 日であり、術後疼痛の軽減、早期退院に貢献しています。
- ・腹腔鏡下胆嚢摘出術は胆嚢炎に対しても施行し、開腹移行率は 1%です。
- ・大腸癌も結腸を中心に腹腔鏡下切除を施行しています。腹腔鏡下大腸切除では術後 3 日目より食事開始し、術後 7 日前後で退院可能です。

◆主疾患治療プロトコール

主疾患治療プロトコール（クリニカルパスによる術後入院期間）

胃癌	胃全摘術	術後 14 日間
	幽門側胃切除術	術後 12 日間
大腸癌	大腸癌手術	術後 10 日間
乳癌手術	乳房切除又はリンパ節廓清を伴う手術	術後 7 日間
	乳腺部分切除かつセンチネルリンパ節生検	術翌日退院（2泊3日）
	腹腔鏡下胆嚢摘出術	術後 3 日間

◆その他

当科は日本外科学会・日本消化器外科学会の専門医修練施設、日本乳癌学会専門医制度関連施設、大腸癌研究会の会員施設に認定されています。

救命救急センターに外科医が1名（日本救急医学会救急科専門医）常勤し、救急診療体制が確立しています。

心臓血管外科

私たちの心臓血管外科は、三重県立総合医療センターが開設された1994年10月に発足しました。心臓・大血管・末梢血管などの疾患を対象として、外科治療を行っています。

狭心症や心筋梗塞に対しては、からだに優しい心臓手術として、off pump(オフポンプ)による冠動脈バイパス術を行っております。従来、心臓手術は体外循環(人工心肺とも言います=人工の肺で血液を酸素化し、心臓の代わりにポンプで血液を全身に送り出す装置)を用いて、かつ心停止下に行っておりました。一方、心臓の表面の冠動脈に行うバイパス手術では、心拍動下、さらに体外循環を用いない(ポンプを用いないためオフポンプと言います)で手術可能となっており、当科では冠動脈バイパス術にはオフポンプ手術を第一選択としております。体外循環を用いず、心臓も止めないため、手術による身体への負担が軽く、脳血管障害、呼吸機能障害、腎機能障害などの合併症を有する患者さんや、高齢者でも、より安全に術後合併症を起こすことなく手術が可能となっております。自己血輸血(詳細は後述)のみで手術可能で、手術翌日から食事もでき、入院期間も短くなりました。昨年までで、緊急手術も含めた全単独冠動脈バイパス術患者さんの94.1%で、待機手術では98.0%でオフポンプにて手術を行っております。

バイパスに用いるグラフトは、遠隔成績が良好である(長持ちする)内胸動脈を主に、多くの患者さんに動脈グラフトのみを用いており、何らかの理由で動脈グラフトが用いられない場合に静脈グラフトを用いております。しかし近年は重症例が多く(年々増加傾向にあります)、静脈グラフトを用いる場合も増加しているのが現状です。

心臓弁膜症に対しては、人工弁で置き換える手術のほか、僧帽弁閉鎖不全症におきましては可能な限り弁形成術を行い、抗凝固療法を必要としない手術治療を目指しています。また、心房細動を合併している患者さんには積極的に不整脈手術(MAZE手術)を併施し、正常の心調律に復するよう努めております。そして飲み薬をできる限り少なくし、手術後の生活のレベルアップを図っています。

大動脈瘤や大動脈解離に対しては、人工血管で大動脈を置き換える手術を行っております。閉塞性動脈硬化症に対する血行再建術、下肢静脈瘤に対する手術も積極的に行っております。

予定手術の場合、患者さん自身の血液を前もって採取して病院内に貯めておき、手術の時に戻すという自己血輸血を積極的に行っております。この自己血輸血は、他人の血液を輸血することに伴う合併症や副作用を防ぐ意味で、非常に有効な輸血方法です。冠動脈バイパス術や弁膜症の手術では原則として800mlの自己血を貯めて手術に臨み、その結果、他の人からの輸血を受けることなく退院していただいております。現在、自己血を前もって採取可能であった患者さんの多くの方で、自己血輸血のみで経過しております。

私たち心臓血管外科は、機能を再建する外科で、術前より良い状態にすることを目的として取り組んでおります。皆さんの日常生活のレベルアップに貢献できるように努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

◆入院手術症例の概要（平成20年1月1日～平成20年12月31日）

疾患名	例数	平均入院期間(術後入院日数)	
虚血性心疾患	29	27.5	(21.7)
弁膜症・先天性心疾患等	22	31.6	(25.5)
大動脈疾患（胸部）	9	34.3	(32.1)
大動脈疾患（腹部）	14	23.5	(15.9)
末梢動脈疾患	16	22.5	(16.2)
静脈疾患	22	8.0	(5.5)

術後入院日数は糖尿病などの持病や合併症の治療も含めた日数です。ちなみに虚血性心疾患で術後の心臓カテーテルを済ませて外科的治療が終了し、退院可能な状態となった術後日数は平均16.2日でありました。胸部大動脈疾患緊急手術の患者さんでは、合併症のため入院治療が長期化する場合があります、平均在院日数が長くなります。

◆ 主疾患の治療成績（平成20年1月1日～平成20年12月31日）

1) 単独冠動脈バイパス術：29例

・ off pump 手術：27例（93.1%）

・ 平均バイパス本数：3.5本/人

・ 緊急手術：1例（3.4%）、準緊急手術：4例（13.8%）

・ グラフト開存率：95.1%（97/102本）

・ 死亡：1例

2) 大動脈瘤手術：23例

・ 胸部：9例

死亡：3例（破裂1、急性解離1）

・ 腹部：14例

死亡：3例（破裂2）

呼吸器外科

私たちの呼吸器外科は、三重県立総合医療センターが開設された1994年10月に発足しました。肺・縦隔などの疾患や胸部外傷を対象として、外科治療を行っています。

肺癌に対しては、癌病巣が存在する肺葉を切除するとともに、関係するリンパ節を取り除き、完全切除手術を目指しています。原発性肺癌に対しては直視下での手術を基本方針としておりますが、病期に合わせて胸腔鏡補助下の小開胸直視下手術も積極的に取り入れております。また、術前・術後を通し呼吸器内科と連携し、病期や年齢・全身状態に合わせた最適な補助療法（抗癌剤・放射線治療）を行っています。

自然気胸に対しては胸腔鏡下での手術を積極的に行っており、患者さんの痛みを和らげ早期の社会復帰ができるよう努めています。ただし、当施設に多い高齢者の難知性気胸に対しては、完全治癒を目標として、小開胸下の手術を行っており、最近は上記例が増える傾向です。

◆入院手術症例の概要（平成20年1月1日～平成20年12月31日）

患名	例数	平均入院期間(術後入院日数)
肺癌（原発性＋転移性）	50	18.1 (14.1)
肺癌・気胸以外の肺疾患	22	18.8 (14.9)
縦隔腫瘍・その他の縦隔疾患	5	12.5 (10.5)
自然気胸	17	10.1 (7.7)

◆主疾患の治療成績（平成20年1月1日～平成20年12月31日）

原発性肺癌手術：42例

- ・完全切除：40例（95.2%）
- ・非完全切除：2例（4.8%）
- ・死亡：2例（4.8%）

他の肺疾患手術：39例

- ・死亡：2例（5.1%）（悪性中皮腫2）

脳神経外科

頭部外傷、脳血管障害などの救急疾患にたいする迅速な診断、治療はもちろんのこと、脳腫瘍や頸椎、腰椎の変性疾患（椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、後縦靭帯骨化症）を中心に治療をおこなってきました。最近では、虚血性脳血管障害（脳梗塞）の患者に対する、t-PAの急性期静脈投与による治療や、血行再建術などの積極的な治療が増えてきております。また、特殊外来として脊椎・脊髄外来を開いており、脊椎、脊髄疾患の手術症例が増えております。

◆入院疾患の概要

年間手術総数 249例

主な手術内訳		事例数
脳腫瘍		15例
脳血管障害	脳動脈瘤	32例
	脳動静脈奇形	1例
	頸動脈内膜剥離	10例
	バイパス手術	5例
	高血圧性脳内出血 開頭血腫除去術	38例
	定位手術	10例
外傷	急性硬膜外血腫	2例
	急性硬膜下血腫	4例
	減圧開頭術	1例
	慢性硬膜下血腫	16例
水頭症	脳室シャント術	18例
	内視鏡手術	0例
脊椎・脊髄	脊髄腫瘍	1例
	変形性脊椎症	24例
	椎間板ヘルニア	19例
	後縦靭帯骨化症	9例
血管内手術	未破裂脳動脈瘤	2例
	閉塞性脳血管障害	6例
脳定位的放射線治療		0例

◆その他

地域医療に対しては、救急患者の積極的な受け入れのみならず、早期のリハビリテーション、早期の退院およびかかりつけ医師への紹介を心がけております。高齢者に対しても、＜生活の質＞の向上を目指して、積極的な手術治療をすすめております。平成20年8月からは脳卒中患者における地域連携クリニカルパスの運用開始により、急性期を経過した患者様のすみやかな回復期リハビリテーション施設への移行などをはかっております。

小児科

地域周産期母子医療センターの指定を受け、北勢地区基幹病院としての小児医療を目指しております。

以下に各部門の概略を記し、皆様方のご批判、ご教示を賜りながら県立病院として、地域医療のみならず、三重県全県にわたる小児医療に貢献すべく精進します。

1) 周産母子センター（3階東病棟）

本院開院時に県下で初めてNICU（未熟児新生児集中治療室）の認可を受け、多くの未熟児および病的新生児の診療が行われています。退院後のフォローは未熟児新生児専門外来（通称すくすく外来）にて発達のフォローを行っております。

2) 小児科病棟（3階西病棟）

感染症等の一般小児疾患に加え、精査を必要とする各種疾患に対応しております。重篤な急性疾患については当院に設置されている救命救急センターと連携をとり集中治療を行います。また、特殊疾患にて精査を要する患者さんについては、県内外の各分野の専門医と連携を取りながら診断治療を行います。

3) 外来診療

一般の急性期疾患等に加え、心疾患、神経疾患（てんかん等）、アレルギー疾患、内分泌疾患等の専門性の高い疾患については、一般外来とは区別して院外からの専門医の協力を受け、専門外来を開設しております。

4) 救急外来

当院は本来は2次、3次救急を担うべき施設ではありますが、小児救急の特殊性、必要性を考慮して対応しております。特に、紹介いただいた患児の場合は原則24時間お断りすることなく対応させていただいております。

産婦人科

当科では、産婦人科疾患全般を診療対象としていますが、地域癌拠点病院および地域周産期母子医療センターの指定を受けています。婦人科悪性腫瘍の治療、ハイリスク妊娠の治療、腹腔鏡手術を中心に診療を行っています。

◆ 平成20年診療実績

入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
産科手術（帝王切開）	127例	
ハイリスク分娩	83例	全分娩数 364例
婦人科手術	360例	
腹腔鏡手術	106例	

主疾患（悪性疾患）を含む治癒成績（5年生存率など）

子宮頸部悪性腫瘍	27例（上皮内癌を含む）
子宮体部悪性腫瘍	16例
卵巣悪性腫瘍	11例
その他婦人科悪性腫瘍	2例

主疾患治療プロトコール（クリパスを含む。）

婦人科癌化学療法 卵巣癌・子宮体癌を中心に、3週1回投与を基準にして3日間入院コースをクリパスで運用しています。また外来化学療法を積極的に行っています。

腹腔鏡手術 19年度から婦人科疾患の腹腔鏡手術を積極的に行っています。

手術実績

腹式単純子宮全摘術	36例	腹式良性卵巣腫瘍手術	40例
膣式単純子宮全摘術	21例	腹式悪性卵巣腫瘍手術	11例
準広汎子宮全摘術	5例		
広汎子宮全摘術	5例	円錐切除術	118例
腹腔鏡手術	106例	子宮鏡下手術	20例

◆ その他

高齢化に伴う疾患として子宮脱、子宮下垂の症例が増加傾向にあり、保存的治療（外来）・手術（入院）を行います。20年は17例の根治術を行いました。

整形外科

隔日に定期検討会を開き、各患者さんごとに、原因、症状、経過、種々検査結果、そして治療法と予測される治療結果につきスタッフ全員で検討した上で、患者さんの希望を第一とし、可能な限りより侵襲が少なくかつ最も効果的な治療法を選択しております。

◆入院疾患の概要

入院患者数： 845名 手術総数： 831例

疾患名	事例数
四肢骨折手術	339例
人工関節置換術	89例
関節鏡視下手術	266例
断裂靭帯形成術	32例

◆治療の実際

骨折：骨折の状態により種々最新の手術方法を積極的に採用し、早期社会復帰を目指しております。また、患者さんの希望によっては、治療結果に影響のない範囲で、保存的治療や外来での手術も行っております。

変形性関節症：高齢化社会に伴い、変形性関節症は増加傾向にあります。当院では専用の無菌室(クリーンルーム)での人工関節手術や人工関節を用いない骨切り術を中心に組み合わせており、安定した治療成績を得ております。また、関節鏡視下手術も低侵襲のため積極的に行っております。

スポーツ整形：膝の十字靭帯損傷、半月板損傷、反復性肩関節脱臼、足関節の靭帯損傷等に積極的に治療を行い、スポーツへの復帰に取り組んでおります。関節鏡視下および併用手術は年間平均250例を超え、自家腱移植による靭帯形成術は年間32例となっております。

◆主疾患治療プロトコール

人工股関節置換術：術後6週間にて退院

人工膝関節置換術：術後3週間にて退院

単顆置換型人工膝関節置換術：術後2週間にて退院

大腿骨頸部骨折：術後2週間前後で地域連携クリニカルパスにて近隣病院へ転院

半月板切除術：3泊4日にて退院

前十字靭帯再建術：術後2週間にて退院

◆その他

第三次救急病院及び基幹病院として、あらゆる分野の整形外科的疾患の治療を行っておりますが、病状によってはより専門の医療機関を紹介させていただいております。

当科では他院との病診連携に力を入れており、他院からの紹介も多く、紹介患者さん優先で診察を行っております。また、症状の落ち着いた方に関しましては積極的に近隣の信頼できる整形外科の先生方にご紹介申し上げております。

泌尿器科

診療方針

当科では主として尿路性器悪性腫瘍(前立腺癌、膀胱癌、腎癌、精巣癌など)の診断・治療を中心に行っております。治療としては手術のみならず、放射線療法や抗癌剤を使用した全身化学療法なども積極的に行っております。その他、前立腺肥大症・尿失禁などの女性泌尿器疾患・神経泌尿器疾患も増加しており、適宜対応しています。なお、尿路結石においては、四日市社会保険病院泌尿器科と連携し、治療を行っています。

◆入院疾患の概要

疾患名	手術名	H13-20年の件数	H20年の件数
前立腺癌	根治的前立腺摘出術	40例	9例
膀胱癌	膀胱全摘術、尿路変向術	39例	5例
膀胱癌	経尿道的膀胱腫瘍切除術	427例	57例
腎癌	根治的腎摘出術/部分切除術	53例	4例
腎盂癌・尿管癌	腎尿管全摘術	41例	4例
精巣癌	高位精巣摘出術	25例	0例

また、良性疾患では前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺切除術を21例施行しました。経尿道的前立腺切除術や経尿道的膀胱腫瘍切除術などの内視鏡的治療法である経尿道的切除術(TUR:transurethral resection)では電解質溶液下で良好な切開性能が得られるTURis(TUR in saline)システムを採用し、良好な成績を得ております。

◆主疾患治療プロトコール(クリパスを含む。)

症例数の多い経尿道的膀胱腫瘍切除術をはじめ、各手術ではクリナルパスを用いています。また、疾患別標準資料・説明書を作成し、患者さんの説明に用いています。

一方、悪性疾患(癌)に対する化学療法も積極的に行っております。進行膀胱癌の全身化学療法として標準的治療とされるMVAC療法が無効となった症例ではタキサン系抗癌剤やゲムシタピンを中心とした化学療法を行っています。少量の抗癌剤を併用した化学放射線療法も行っています。また、内分泌療法抵抗性となった再燃前立腺癌でもタキサン系抗癌剤を用いた化学療法を積極的に行っております。前立腺癌を診断する経直腸的前立腺生検は前立腺体積にもよりますが、初回生検であれば少なくとも10-12ヶ所以上の多数ヶ所生検を行っています。

◆その他

当科では患者さんとの十分な説明と話し合いの結果、治療法の選択を行い、最善の治療を行うことを目指しております。

皮膚科

現在、皮膚科専門医1名が診療を行っています。外来は、月曜日は、大学よりの非常勤医師が第1診、常勤医師が第2診を、火から金曜日は常勤医師のみが診察を担当しています。湿疹皮膚炎群、皮膚感染症、皮膚良性腫瘍、一部の皮膚悪性腫瘍、膠原病、自己免疫疾患（水疱症）など、皮膚科一般の診療を行っています。治療は外用療法や内服療法が中心ですが、化膿部の排膿処置、ヤケドなどの創傷処置、イボや腫瘍への冷凍凝固療法、小腫瘍の摘出術、感染性皮膚疾患の点滴療法なども行っています。あわせて局所処置方法の指導やスキンケア指導、生活環境指導を行うとともに、近年高齢化社会により増加している皮膚癌の早期発見などにも努めています。

◆入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
带状疱疹	10	
自己免疫性水疱症	7	
熱傷	6	
蜂窩織炎	5	
丹毒	2	
かぶれ水痘さん発疹	2	
水痘	2	
その他	5	

入院患者 39 件／年

◆主疾患（悪性疾患）を含む治癒成績

検査処置・手術領域では、診断及び治療方針決定のための皮膚生検、比較的簡単な局所麻酔下での皮膚腫瘍の切除術などを行っています。

年間手術・処置件数 128 件/年（皮膚生検・外来小手術 71 件、手術室手術 57 件）

表皮嚢腫 21 件、母斑 13 件、線維腫 13 件、基底細胞腫 6 件、角化腫 5 件など

◆主疾患治療プロトコール

皮膚感染症の入院治療

带状疱疹 抗ウイルス剤点滴 5～7日間

蜂窩織炎 抗生剤点滴 7～10日間 など

耳鼻咽喉科

当科は耳鼻咽喉・頭頸部外科全般の診療を行っていますが、特に頭頸部腫瘍（鼻・副鼻腔、口腔、咽頭、喉頭、甲状腺、唾液腺の良性腫瘍や悪性腫瘍）の手術、副鼻腔炎の内視鏡下手術に力を注いでいます。

また、めまいの診断と治療（良性発作性頭位眩暈症の理学療法、運動療法を含む）、耳鼻咽喉科的な立場からの摂食・嚥下障害の検査（嚥下内視鏡・嚥下造影検査）ならびに治療（嚥下改善手術を含む）、いびきの精査といびきの改善手術も行っております。喉頭癌術後の音声機能喪失に対し、音声回復手術（ボイスプロテーゼ留置術）や、外来においてのボイスプロテーゼの交換術も行っております。

◆入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
咽頭、頸部膿瘍切開排膿	17例	
口腔・頸部手術	42例	
鼻・副鼻腔手術	55例	
扁桃手術・鼓膜換気チューブ留置	43例	
喉頭腫瘍	4例	
いびき	2例	

◆主疾患（悪性疾患）を含む治療成績

頭頸部腫瘍の治療は、手術を含め、積極的に行っています。慢性副鼻腔炎の内視鏡下鼻内副鼻腔手術を行い、良好な成績が得られています。

◆主疾患治療プロトコール（クリパスを含む。）

入院診療におけるクリニカルパス適用率は90%以上であり、診療内容の充実と在院日数の短縮に努めております。

精神科

当科は統合失調症、躁うつ病、不安障害など精神障害全般に対する外来診療を行っております。診察日は毎週月曜から金曜までですが、初診、再診共に予約制となっております。なお当科には入院設備がありませんので、入院治療が必要な方などは他の精神科施設に紹介させていただく場合もあります。

◆平成20年診療実績

外来延患者数 6,262人
一日平均外来患者数 25.8人

放射線科

CT, MRI, 血管造影、IVR (interventional Radiology) ,核医学検査の施行と画像診断を行っている。放射線治療では、LINAC(直線加速器)を使用した治療を行っている。四日市医師会等との病診・病病連携システムにより、地域医療機関からの画像診断を行うと共に、院内では中央放射線部門の一員として、各臨床科との密接な連携の元に診療を行っている。

◆平成 20 年度診療実績

入院疾患の概要 (: 当科は入院病床を持っていません)

主疾患 (悪性疾患) を含む治癒成績 (: 各診療科の成績を参照下さい)

放射線治療患者の内訳 (2008 年度)

新規登録患者数	106 例	129 例(治療患者総数)
治癒目的の照射	22 例	22 例
姑息的照射	38 例	56 例
術後照射	41 例	46 例
術前照射	5 例	5 例

疾患 (原発) 別症例数

脳	頭頸部	肺	乳腺	食道	肝 ・胃	大腸 ・直腸	腎膀胱	婦人科	骨軟部	不明
1 例	1 例	32 例	38 例	9 例	0 例	6 例	9 例	8 例	1 例	1 例
1%	1%	30%	36%	8%	0%	6%	8%	8%	1%	1%

当院の放射線治療の特徴は、肺癌・乳癌で全体の 66% を占める。

肺癌では呼吸器内科主導で化学療法を併用した放射線治療が行われている。

乳癌では、当院外科を中心に、近隣の病院からの依頼を含め、乳房温存術後の照射 (39 例 : 乳腺照射件数の 58%) が多い。2008 年 6 月より新しいリニアックで治療を開始している。

麻酔科

手術を受ける患者さんが、安全に手術を受けることが出来るよう麻酔を担当しています。
手術中は患者様のそばで、手術部位以外の全身状態を管理しています。

◆平成20年診療実績

手術症例数

平成20年全手術症例数 2,947件

うち麻酔科管理症例数 1,443件

麻酔法	件数
全身麻酔	810
全身麻酔+硬膜外麻酔	497
硬膜外・脊髄くも膜下麻酔・硬脊麻	136
緊急手術	248

◆その他

全例とはいきませんが、全身麻酔、重症の方を中心に術中管理しています。

麻酔科担当外の手術でも、手術中に問題が起こった場合は麻酔科医が対応し、全ての方が安全に手術を受けることが出来るよう努力しています。

(2) 中央放射線部

2008年(平成20年)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均/月	集計
一般撮影	2,415	2,231	2,459	3,330	3,373	3,165	3,500	3,035	3,220	3,522	3,034	3,345	3,052	36,629
透視	171	166	189	294	302	338	353	262	282	366	288	286	275	3,297
血管造影 頭腹部	18	21	14	20	19	27	24	19	19	22	11	32	21	246
心臓	46	48	49	52	51	43	54	49	27	64	40	49	48	572
放射線治療 体外照射	243	115	0	0	0	26	200	303	252	352	266	226	165	1,983
ラジオオージェリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
セレクトロン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C T 単純	1,059	1,027	1,131	1,033	1,144	1,107	1,214	1,048	1,106	1,201	1,107	1,047	1,102	13,224
造影	235	227	218	238	220	241	212	207	187	255	214	199	221	2,653
パーフエーション	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
3D	47	48	43	33	33	36	39	35	40	49	47	25	40	475
☆C T 総計	1,294	1,254	1,349	1,271	1,364	1,348	1,426	1,255	1,293	1,456	1,321	1,246	1,323	15,877
病診連携	42	37	61	52	50	76	70	41	58	60	58	35	53	640
R I	127	116	117	127	113	118	121	111	101	110	101	99	113	1,361
MR I 単純	184	209	204	334	315	322	333	310	287	317	259	270	279	3,344
造影	82	77	98	99	90	87	90	79	84	111	79	94	89	1,070
MR A	83	106	85	93	75	76	94	85	77	89	77	77	85	1,017
MR C P	11	10	13	13	11	23	14	14	22	18	13	9	14	171
☆MR I 総計	360	402	400	433	405	409	423	389	371	428	338	364	394	4,722
診連携	22	38	33	37	40	39	33	36	30	47	29	26	34	410
超音波検査 腹部	324	289	285	444	427	430	452	440	380	425	367	348	384	4,611
心臓	352	345	327	371	379	401	418	366	356	396	304	342	363	4,357
血管等	186	208	196	212	199	202	211	181	202	229	186	175	199	2,387
コピー	42	52	58	56	36	45	42	49	52	63	49	85	52	629
合計	5,451	5,131	5,326	6,483	6,555	6,434	7,103	6,348	6,454	7,323	6,204	6,498	6,276	75,310

	1-3	4-6	7-9	10-12	総計
病診連携/C T	3.59%	4.47%	4.25%	3.80%	4.03%
病診連携/MR I	8.00%	9.30%	8.37%	9.03%	8.68%

(3) 中央検査部

中央検査部概要

部門	中央検査部
部門長	草野五男(検査部長) ・ 上野尚幸(GL)
認定資格	細胞検査士 4 名 ・ 輸血認定技師 1 名 ・ 糖尿病療養指導士 5 名 NST 療養士 2 名 ・ 病理検査士 1 名
常勤技師	20 名 (育児休暇 1 名)
業務補助職員	3 名

外部精度管理参加状況

実施月	精度管理調査名称	主催
毎月	eQAP	シスメックス株式会社
8 月	三重県臨床検査精度管理調査	三重県臨床検査精度管理協議会
9 月	第 4 2 回臨床検査精度管理調査	日本医師会

診療支援

感染症レポート	週報、月報
外来採血	毎日 (午前中)
病棟採血管準備	毎日 (各病棟に配送)
病棟診察前検査報告	毎日 (1 時間早出)
外来迅速検査報告	24 時間勤務体制
チーム医療への参画	NST・ICT・心カテ 待機等
各種認定技師の育成	必要に応じて対応

病診連携検査件数

トレッドミル	7
ホルター心電図	4
脳波	46
尿素呼気試験 (ピロリ菌)	10
ABR	5
神経生理検査	2

検査件数

H20 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
尿・糞便	4,138	4,283	4,169	4,358	4,122	3,778	4,153	3,441	3,814	3,708	3,546	4,110	47,620
血液	14,764	15,230	14,741	15,669	14,447	14,756	16,289	13,494	15,019	15,148	13,425	15,001	177,983
生化 I	79,848	82,030	78,458	85,426	79,296	80,527	87,623	74,523	82,147	82,497	73,951	83,132	969,458
生化 II	1,974	2,007	2,016	2,161	1,967	1,938	2,179	1,948	1,908	1,911	1,823	2,305	24,137
負荷試験	22	13	13	26	28	10	11	4	8	9	17	27	188
免疫	7,357	7,760	7,309	7,911	7,885	7,627	8,401	7,243	8,145	8,029	7,127	8,087	92,881
検体合計	108,103	111,323	106,706	115,551	107,745	108,636	118,656	100,653	111,041	111,302	99,889	112,662	1,312,267
輸血	488	510	451	508	432	470	483	398	435	419	381	447	5,422
微生物	1,942	2,112	2,029	2,043	1,895	1,971	2,190	1,858	2,099	2,069	1,807	1,957	23,972
病理	766	757	819	767	686	740	871	716	774	735	697	754	9,082
生理	1,949	1,825	1,768	1,947	1,736	1,712	1,927	1,563	1,752	1,770	1,659	1,923	21,531
検査部合計	113,248	116,527	111,773	120,816	112,494	113,529	124,127	105,188	116,101	116,295	104,433	117,743	1,372,274

(4) 薬剤部

○投薬等に関わる収入

単位：千円	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
投薬収入	21,765	20,878	21,900	20,163	20,500	16,759	20,052	19,664	20,062	20,447	19,973	22,556
調剤料収入	658	600	629	579	601	524	552	548	532	588	576	595
調剤技術基本料収入	277	271	284	257	257	230	234	243	245	249	249	258

○薬剤管理指導等の件数

単位：件	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
薬剤管理指導料算定件数	186	183	189	164	163	211	199	183	137	200	136	177
薬剤情報提供料算定件数	1,563	1,189	1,210	1,122	1,108	1,050	1,119	1,104	1,047	1,128	1,080	1,218

○診療科別外来処方箋発行件数

院外処方箋	内科	外科	心外	脳外	小児	産婦	整形	皮膚	泌尿	耳鼻	精神	放射	神経	循環	呼吸	消化	呼外	合計
1月	168	374	97	194	664	245	369	407	328	366	365	3	212	828	508	513	17	5,658
2月	102	328	102	183	568	243	337	375	338	380	374	3	197	843	504	502	12	5,391
3月	71	384	81	202	593	241	336	390	323	414	363	1	218	807	490	520	16	5,450
4月	292	464	109	227	695	291	449	454	355	382	513	2	210	916	623	749	24	6,755
5月	103	375	91	183	571	283	352	429	323	355	373	0	225	899	568	671	19	5,820
6月	66	430	81	203	532	282	314	450	317	353	365	1	152	827	527	685	12	5,597
7月	72	434	99	228	494	330	362	455	338	400	387	0	246	954	535	709	13	6,056
8月	74	403	93	208	485	298	282	463	345	315	370	2	187	759	484	669	16	5,453
9月	71	454	95	208	489	288	353	434	297	280	379	1	199	835	494	716	16	5,609
10月	59	500	97	228	652	341	350	444	353	319	415	1	202	816	564	761	14	6,116
11月	69	395	94	162	556	270	283	420	289	240	325	1	164	742	478	622	10	5,120
12月	136	450	72	226	702	321	292	443	343	315	349	0	154	779	554	698	11	5,845
	1,283	4,991	1,111	2,452	7,001	3,433	4,079	5,164	3,949	4,119	4,578	15	2,366	10,005	6,329	7,815	180	68,870

全件処方箋

	内科	外科	心外	脳外	小児	産婦	整形	皮膚	泌尿	耳鼻	精神	放射	神経	循環	呼吸	消化	呼外	合計
1月	681	414	101	230	901	273	520	474	354	385	501	3	235	876	612	637	17	7,214
2月	373	368	107	213	733	273	480	427	372	385	501	3	216	892	627	621	12	6,603
3月	346	419	87	250	760	269	487	434	362	435	489	1	232	852	600	630	16	6,669
4月	292	464	109	227	695	291	449	454	355	382	513	2	210	916	623	749	24	6,755
5月	307	418	95	224	724	311	461	488	356	367	507	0	243	938	684	795	19	6,937
6月	271	455	84	232	668	308	430	516	351	372	490	1	161	859	621	826	12	6,657
7月	288	481	106	249	636	353	488	549	368	423	521	0	259	996	639	819	14	7,189
8月	316	451	99	238	615	319	408	527	379	329	496	2	202	793	574	794	20	6,562
9月	252	495	99	234	638	309	470	487	323	297	520	1	212	875	586	839	17	6,654
10月	244	542	104	256	784	373	480	508	394	330	549	3	221	866	678	883	18	7,233
11月	290	456	98	193	697	294	396	471	312	256	454	4	177	791	576	731	13	6,209
12月	423	503	76	260	885	351	397	500	380	336	479	0	164	824	650	812	11	7,051
	4,083	5,466	1,165	2,806	8,736	3,724	5,466	5,835	4,306	4,297	6,020	20	2,532	10,478	7,470	9,136	193	81,733

単位：％(休日・夜間を除く)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
院外処方率	78.0	81.6	81.7	83.3	83.9	84.1	84.2	83.1	84.3	84.6	82.5	82.9

(5) 看護部

看護部の理念

- 1、患者さんが満足した医療が受けられるよう、安全で質の高い看護を実践し、地域からの信頼を得ます。
- 2、看護師の資質（豊かな人間性、科学的根拠に基づいた知識と技術）を向上し看護師個々のキャリアアップと定着をめざします。

平成20年度看護部目標

『笑顔で病院機能評価に合格しよう』

専門職として対話と思いやりの気持ちで他部門と協働します。

平成20年度看護部実践報告

1. 看護職員の確保と定着

1) 確保について

(1) 募集活動；平成21年4月1日採用者39名

学校訪問；①県内13校を副師長中心に訪問。

②スタッフによる卒業校訪問。

実習生；①指導者からのメッセージ

②実習終了日に茶話会の実施

③実習終了1週間以内での看護部からの手紙送付

ナースセンター・ハローワークとの連携 募集広告（新聞折込チラシ187,400枚）

内定者；①時節ごとの挨拶状・年賀状・看護部活動・医療センターニュースなどを送付

②『内定者のつどい』

(2) 就職説明会

相談会；県立看護大学で実施

説明会；ナース専科・ナースセンター主催の就職説明会へ参加（院内2回実施）

参加者へオリジナルグッズをつくりおみやげにした

(3) オリジナルグッズの活用

看護部ファイル・クリアファイル・看護部織時有る封筒の活用

季節感のある挿絵のメッセージカードを作成し、職員間のコミュニケーションに活用した

絵のメッセージカードを活用し、職員間のコミュニケーションに役立てた

(4) 広報活動

①助産師・看護師募集を新聞折込チラシで行なった

②適宜募集ポスターの変更を行い、ナースセンターにも掲示してもらった

③HP画面の適宜更新

④外来掲示板を活用し看護部の紹介を部署ごとに行なった

⑤地下エレベーターホールを看護部掲示板として活用した

(5) 事業庁主催のチャレンジ研修（潜在看護師復帰支援）の実施

(6) 看護学生の職場体験を目的とした夏休みアルバイトのうけいれを行なった

(7) 講師派遣

看護学校への派遣 66回 研修会への派遣 58回

(8) 看護実習生との実習期間中の懇親会をセクションごとの実施

(9) お昼休みに支援室の看護学生への開放

2) 定着について

①中途採用者への職場適応支援（電子カルテ操作訓練・業務量の調整など）

②支援室の運営・・・ラウンドと対応 活用人員数（4～8月） 77名
採血練習・休憩・気分転換など

③副師長会の小集団活動（職場環境・職場風土・明日葉）での取り組み
（前年度定着アンケート結果からの取り組み）

④KAIZEN 委員会活動による『自然に笑顔が出る病院』への取り組み

⑤セクション面談によりセクション運営支援

⑥看護職員の随時面談によるメンタルサポート

⑦看護職員の小さな気づき提案の活用、やりがい感への支援

⑧産休・育児休暇中の看護職員へ病院の今を知る近況情報や看護部長からの季節
の手紙を送付

⑨看護部長のフリートークを開催し看護職員との対話重ねた

⑩中途採用者の集いを正規・業補・介助士に関係なく実施し意見交換を行なった

2. 看護職員への育成支援

1) スタッフへの支援目的で副師長を中心にした明日葉作戦の継続

新規採用者にはプリセプター・アソシエイトが主に支援する

2) 師長・認定看護師の BSC シート作成、シートに沿った実践活動

3) スタッフは『私の目標管理シート』を作成し看護部目標達成の役割を担う
キャリアステップ登録をし、看護職員個々のスキルアップを図る

4) 看護部長から看護職員の『私の目標シート・キャリアアップシート』へのメッセージと評価

5) 師活動と副師長看護管理>業務の実践

6) TQM 活動への支援・指導、TQM 発表会への協力

院内 TQM 大会発表 16 題 病院事業庁 TQM 大会発表 4 題

3. 看護業務の整理と改善

1) 5 東病棟 2 チームから 3 チームへチーム編成を変更し時間外の 1 人平均 75 時間の短縮ができた

2) リーダー業務の見直し、ノー残業デーの実施、記録場所の移動、時間外短縮標語の掲載

3) 業務量の増大、病欠時における応援機能体制の充実

4) 各セクション、小さな気づきからの業務改善に取り組んだ（69 件）

5) 外来部門で『ひまわり』『コスモス』を開設し看護師が常駐した。
患者説明・指導の強化を図り、患者サービスの向上を目指した。

6) 外部講師の活用による職場改善への取り組み（KAIZEN 委員会）

7) リフレッシュ休暇、メモリアルデー取得への推進

4. その他の活動

- 1) 派遣研修の受け入れ（松阪市民病院）看護師 2名 5東
- 2) 院外施設への派遣研修（三重中央病院 NICU 2名）
- 3) 三重看護協会チャレンジ研修受け入れ 2名
- 4) 三重看護協会中堅看護師研修受け入れ 5名
- 5) 国立がんセンター派遣研修 2名
（がん専門分野 I 1名、がん看護研修企画指導者 1名）
- 6) 三重県健康福祉部主催『がんにおける質の高い看護師育成研修』 1名派遣
- 7) 院内・院外防災訓練の指導・協力・参加
- 8) 広域災害支援 DMAT の召集待期 2回
- 9) 病院事業庁企画チャレンジ研修（10/22・10/23・10/27・10/30）の実施。
（10名の参加者、研修終了後、当院業務補助職員採用 4名）
- 10) 看護学生の夏季アルバイトの受け入れ（7/20～8/31） 5名
- 11) 随時採用試験の実施
採用総数 正規 54名+業務補助 18名（中途採用者数 正規 15名）
- 12) 1日看護体験の実施 8月7日 参加者数 21名
- 13) 中学生職業体験 2校 参加者数 7名

5. 実習

実習受け入れ状況（延べ人数）

学校名	人員（人）	割合
三重県立看護大学	2,239人	53%
三重県立桑名高校専攻科	314人	7%
四日市医師会看護専門学校	1512人	36%
四日市医療大学	24人	1%
聖十字看護専門学校	134人	3%
合計	4,223人	100%

(6) 機能訓練グループ

平成20年(2008) リハビリテーション室 実施単位数

入院

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
運動器	300	416	337	359	370	400	514	488	337	500	396	551	4,968
脳血管疾病等	909	848	971	928	893	928	1,111	1,014	833	1,159	1,056	1,157	11,807
呼吸器	57	58	84	50	36	75	59	47	95	92	60	53	766

外来

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
運動器	378	373	387	386	362	375	425	433	409	427	349	358	4,662
脳血管疾病等	32	27	36	38	49	46	63	37	32	50	55	47	512
呼吸器	6	2	1	4	4	7	7	7	4	8	4	6	60

(7) 栄養グループ

平成20年 年間栄養指導件数

	入院外来合計人数	個別指導			集団指導		
		人数 (名)	入院 (名)	外来 (名)	人数 (名)	母親教室(外来)	
						(件)	(名)
1 月	81	69	42	27	12	1	12
2 月	82	62	40	22	20	1	20
3 月	89	77	45	32	12	1	12
4 月	92	81	43	38	11	1	11
5 月	87	74	41	33	13	1	13
6 月	78	64	40	24	14	1	14
7 月	69	62	38	24	7	1	7
8 月	70	60	35	25	10	1	10
9 月	56	48	24	24	8	1	8
10 月	106	90	43	47	16	1	16
11 月	65	54	31	23	11	1	11
12 月	65	56	27	29	9	1	9
合計	940	797	449	348	143	12	143

平成20年栄養指導件数(個別指導)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
腎臓病	4	1	1	1	0	3	3	2	1	0	1	2	19
高血圧症	10	10	12	13	15	11	8	10	9	11	8	10	127
心臓病	19	25	27	25	28	27	19	13	5	22	13	11	234
肝臓病	0	0	0	3	0	0	1	1	0	1	1	1	8
糖尿病	22	12	21	23	17	14	14	20	21	31	18	19	232
潰瘍	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3
膵臓病	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
高脂血症	6	4	8	7	6	4	6	7	6	12	3	4	73
肥満症	3	1	1	1	0	1	1	0	1	7	4	5	25
妊娠中毒症	0	1	1	3	2	1	2	1	0	0	1	0	12
炎症性腸疾患	1	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	5
貧血症	0	1	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	5
その他	4	6	5	4	4	3	6	4	3	3	5	4	51
合計	69	62	77	81	74	64	62	60	48	90	54	56	797

平成20年 給食食数実績

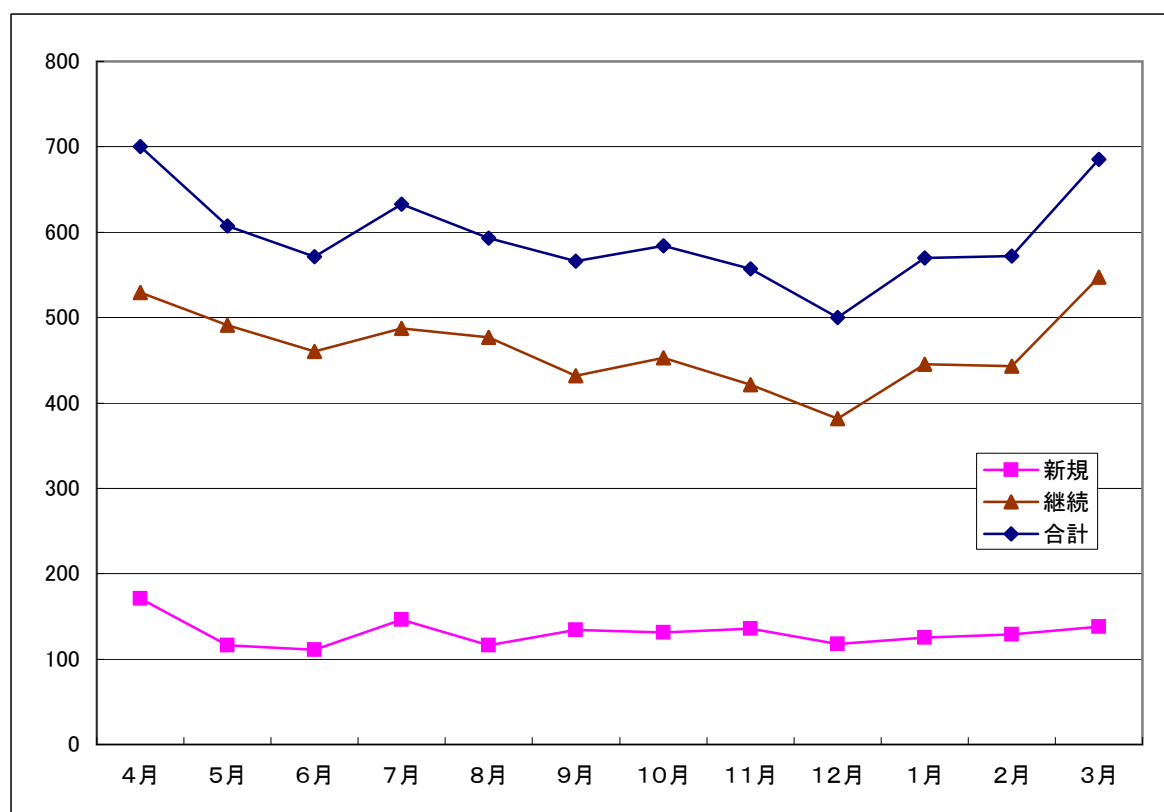
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一般食	10,883	10,906	11,898	10,783	11,334	10,605	10,390	10,981	9,720	12,137	11,043	11,679
常食	7,619	7,873	8,383	7,314	8,084	7,504	7,316	7,974	6,600	8,535	7,503	8,409
軟食	3,149	2,919	3,409	3,389	3,175	3,001	2,969	2,947	2,981	3,370	3,463	3,165
流動食	115	114	106	80	75	100	105	60	139	232	77	105
特別治療食	10,601	10,309	10,762	9,392	9,057	8,509	9,429	8,857	9,330	8,907	9,413	9,475
加算食	6,701	6,608	6,664	6,360	5,789	5,556	6,271	5,628	6,213	5,739	6,026	6,184
非加算食	3,900	3,701	4,098	3,032	3,268	2,953	3,158	3,229	3,117	3,168	3,387	3,291

腎臓食	331	410	375	246	229	279	415	184	135	172	361	286
糖腎食	332	425	401	571	239	96	160	350	513	278	243	299
透析食	65	75	1	142	55	99	16	13	45	32	182	153
妊娠中毒症食	118	212	183	168	87	2	30	29	62	114	36	64
減塩食	3,598	2,946	3,576	3,070	2,913	2,649	3,071	2,427	2,473	2,539	2,447	2,337
肝臓食	542	660	468	649	542	472	458	473	315	331	440	287
EC食	1,227	1,169	1,329	1,026	1,252	1,175	1,285	1,211	1,678	1,212	1,481	1,684
高脂血症食	0	4	68	21	19	2	7	25	29	0	0	115
貧血食	43	46	47	120	167	120	319	141	104	57	78	119
脂肪制限食	381	361	358	187	123	320	237	359	311	499	504	166
潰瘍食	132	62	19	33	21	0	28	8	97	23	80	1
炎症性腸疾患	28	0	7	26	0	0	0	0	29	52	0	0
濃厚流動食	1,081	1,246	910	873	900	508	469	508	649	864	1,232	954
術後食	236	531	406	373	390	347	395	277	260	348	452	661
易消化食	393	193	234	167	133	287	456	549	494	343	331	427
低残渣食	270	250	115	182	162	138	258	125	19	148	127	212
離乳食	379	216	323	179	195	311	107	137	191	159	141	169
検査食	7	0	5	4	9	5	2	4	0	3	0	0
その他	772	803	1,111	652	820	797	708	1,055	920	923	848	966
ミルク	666	700	826	703	801	902	1,008	982	1,006	810	430	575
合計	10,601	10,309	10,762	9,392	9,057	8,509	9,429	8,857	9,330	8,907	10,706	9,475

(8) 地域連携室

平成20年度医療福祉相談件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	入院	111	78	72	102	72	87	81	100	90	93	91	101	1,078
	外来	43	26	28	42	36	34	34	32	20	26	28	24	373
	その他	17	12	11	2	8	13	16	4	8	6	10	13	120
	計	171	116	111	146	116	134	131	136	118	125	129	138	1,571
継続	入院	459	413	392	387	405	350	388	358	307	396	371	448	4,674
	外来	47	56	40	56	46	57	49	42	57	38	57	63	608
	その他	23	22	28	44	26	25	16	21	18	11	15	36	285
	計	529	491	460	487	477	432	453	421	382	445	443	547	5,567
合計	入院	570	491	464	489	477	437	469	458	397	489	462	549	5,752
	外来	90	82	68	98	82	91	83	74	77	64	85	87	981
	その他	40	34	39	46	34	38	32	25	26	17	25	49	405
	計	700	607	571	633	593	566	584	557	500	570	572	685	7,138

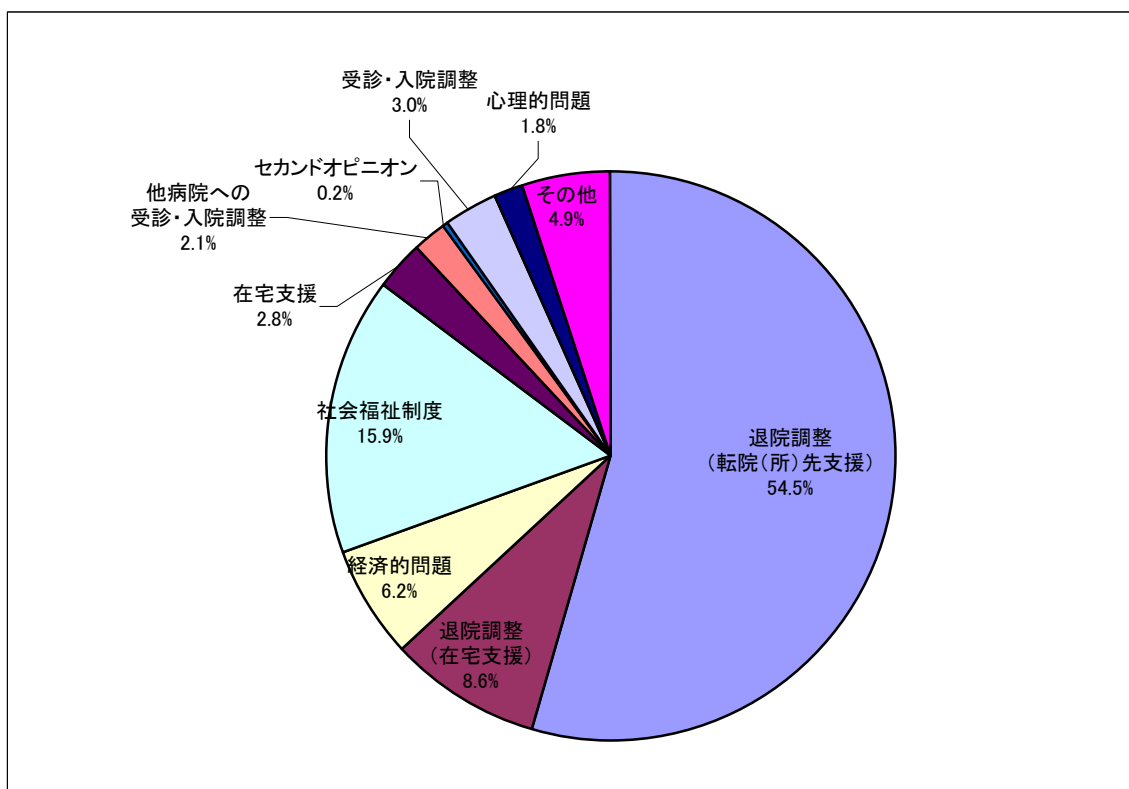


相談人数は、新規・継続とも19年度より若干減少した。また、通年の変化として例年増加する12月に減少したのが、特徴的である。

医療福祉相談内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退院調整（転院（所）支援）	499	387	353	389	422	361	395	379	332	354	370	439	4,680
退院調整（在宅支援）	52	63	86	67	47	70	61	51	53	80	65	43	738
経済的問題	48	36	53	44	37	32	33	38	38	58	41	70	528
社会福祉制度	132	125	80	138	95	123	103	105	86	120	119	133	1,359
在宅支援	19	14	20	21	17	24	15	22	23	14	17	30	236
他病院への受診・入院調整	13	26	18	21	12	21	11	18	11	7	14	11	183
セカンドオピニオン	0	3	2	0	0	5	2	1	0	1	0	1	15
受診・入院調整	17	24	22	19	27	25	25	14	16	25	13	30	257
心理的問題	9	12	11	18	25	11	11	10	13	14	12	9	155
その他	41	32	36	42	37	25	31	29	31	41	23	53	421
計	830	722	681	759	719	697	687	667	603	714	674	819	8,572

(重複あり)



相談人数が減少したにも関わらず、医療相談件数（重複相談あり）は年々増加傾向にあり、相談内容の内訳を見ると、退院調整、経済的問題がコンスタントに増えており、特に平成21年に入ってから不況の世相を反映したのか伸び率が大幅に増加している。

また、関係機関より入院患者以外の方の相談もあるなど、外来～入院～退院まで一連で関わることも増えてきた。このようなことから、地域連携の機能が地域に根差した病院の窓口として動いていることが伺える。

転院・在宅等 退院調整相談件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退院調整	転院先調整	389	299	270	307	322	266	300	282	220	259	271	316	3,501
	関係機関調整	110	88	83	82	100	95	95	97	112	95	99	123	1,179
在宅支援		52	63	86	67	47	70	61	51	53	80	65	43	738

退院調整相談の新規相談者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退院調整	転院先調整	55	37	35	43	37	46	44	53	37	41	54	38	520
	関係機関調整	7	3	6	5	6	5	7	8	17	14	6	7	91
在宅支援		20	10	3	10	8	13	10	11	12	11	9	14	131

退院調整の主な退院先

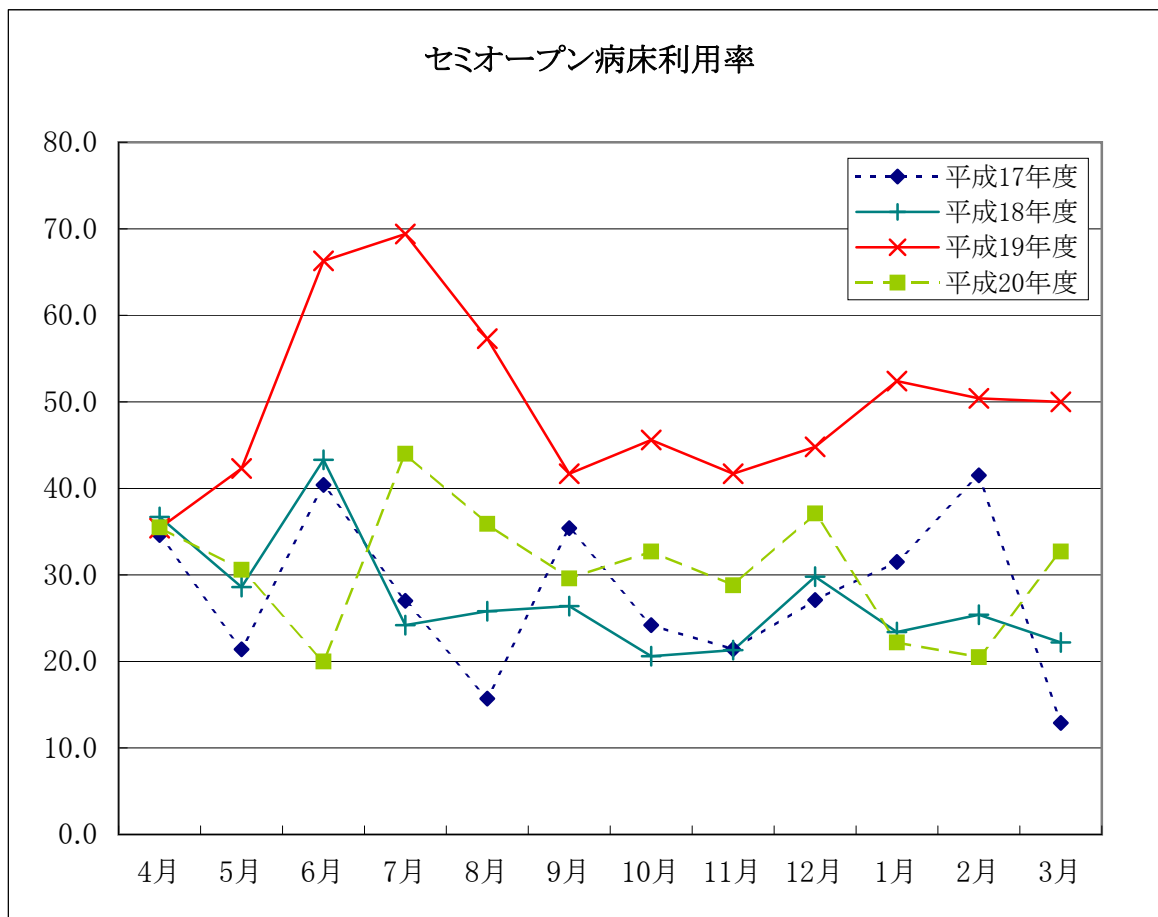
病院				診療所	在宅		施設	死亡	その他	計
一般	回復期	療養型	その他		在宅	自宅待機				
71	266	51	16	32	12	142	12	75	49	726

一般病棟への転院が前年度に比べ半減した。その要因として、医療機能の分化が進んできたことによる影響が考えられる。

また、主な退院先の病院の中で、「その他（51件）」が大幅に増えているが、その理由としてホスピスへの転院が増加したことが挙げられる。今まではターミナルの患者は療養型の病院で最期を迎えることも多かったが、「がん」に関する情報が一般市民も容易に入手できるようになり、「告知」→「緩和ケア」＝「ホスピス」という流れが世間一般に浸透しつつあることが伺える。

セミオープンベッド利用状況

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
4月	34.6	36.7	35.4	35.5
5月	21.4	28.6	42.3	30.6
6月	40.4	43.3	66.3	20.0
7月	27.0	24.2	69.4	44.0
8月	15.7	25.8	57.3	35.9
9月	35.4	26.4	41.7	29.6
10月	24.2	20.6	45.6	32.7
11月	21.4	21.3	41.7	28.8
12月	27.1	29.8	44.8	37.1
1月	31.5	23.4	52.4	22.2
2月	41.5	25.4	50.4	20.5
3月	12.9	22.2	50.0	32.7



20年度 病診連携・病病連携登録医(医療機関)数

病診連携登録医数(20年度末現在)						病病連携登録 医療機関数
いなべ医師会	桑名医師会	四日市医師会	亀山医師会	鈴鹿医師会	合計	
25	23	278	5	63	394	13
うち20年度新規登録数(内数)						うち19年度新規登 録病病連携機関数
いなべ医師会	桑名医師会	四日市医師会	亀山医師会	鈴鹿医師会	合計	
0	0	5	0	2	7	0

当院では、病診連携を積極的に進める方針から、近隣医師会と病診連携システムに係る合意を交わし、病診連携システムへの賛同を趣旨とする登録医制度を設けており、19年度は新規に8名の登録をいただいた。

また、それぞれの機能分担を図る観点から、周辺地域の病院との病病連携も推進しているところであり、19年度末現在で、13の医療機関と病病連携システムの合意を交わしている。

今後も、更なる登録医療機関の充実と共に、地域医療連携の推進を図りたいと考えている。

20年度 紹介患者数と紹介率

診療科	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	初診数	279	300	286	302	343	240	264	264	350	433	250	286	3,597
	紹介数	14	12	19	11	17	7	14	14	5	14	17	9	153
外科	初診数	113	119	107	134	83	110	141	105	93	97	92	91	1,285
	紹介数	33	42	46	58	39	48	63	35	42	38	33	30	507
心外科	初診数	6	6	10	12	8	10	15	14	11	9	9	14	124
	紹介数	3	4	7	7	4	10	8	7	9	7	5	8	79
脳外科	初診数	85	115	108	88	91	91	99	86	91	89	78	79	1,100
	紹介数	16	11	20	17	9	14	14	11	14	19	12	12	169
小児科	初診数	192	217	215	188	183	158	177	169	234	229	146	176	2,284
	紹介数	37	30	41	29	28	35	39	34	44	28	29	37	411
産婦人科	初診数	110	105	126	128	102	133	161	132	112	99	120	133	1,461
	紹介数	37	41	43	48	40	46	59	54	41	31	46	62	548
整形外科	初診数	239	243	251	257	245	245	249	196	217	231	194	186	2,753
	紹介数	61	57	64	60	59	58	65	34	55	60	59	58	690
皮膚科	初診数	77	98	100	120	121	75	73	66	53	63	56	69	971
	紹介数	15	18	17	11	21	16	13	9	9	14	11	14	168
泌尿器科	初診数	31	39	42	31	43	49	38	29	28	37	43	38	448
	紹介数	13	15	19	12	14	25	23	12	7	19	13	16	188
眼科	初診数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	紹介数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻いんこう科	初診数	90	89	73	93	82	75	69	69	78	70	77	75	940
	紹介数	36	20	23	29	15	18	32	15	14	18	25	23	268
精神科	初診数	3	2	3	4	2	2	4	3	0	3	4	3	33
	紹介数	2	1	2	3	2	0	3	2	0	1	1	2	19
神経内科	初診数	47	52	44	57	51	57	61	41	46	37	54	44	591
	紹介数	26	26	20	27	21	37	24	20	20	19	26	16	282
循環器科	初診数	80	84	79	91	85	62	81	58	72	75	60	76	903
	紹介数	43	46	43	60	42	29	36	26	37	25	32	42	461
放射線科	初診数	73	75	102	85	62	74	90	72	50	54	72	60	869
	紹介数	73	75	102	85	62	74	90	72	50	54	72	60	869
呼吸器科	初診数	81	99	95	91	64	94	107	86	98	73	68	82	1,038
	紹介数	43	45	51	44	31	55	60	47	53	38	33	41	541
消化器科	初診数	241	195	139	156	133	131	164	135	111	105	106	108	1,724
	紹介数	180	119	81	96	63	68	98	83	63	50	49	52	1,002
呼吸器外科	初診数	4	2	3	2	1	1	1	1	4	6	3	3	31
	紹介数	2	2	2	2	0	1	1	1	3	6	2	3	25
合計	初診数	1,751	1,840	1,783	1,839	1,699	1,607	1,794	1,526	1,648	1,710	1,432	1,523	20,152
	紹介数	634	564	600	599	467	541	642	476	466	441	465	485	6,380
	救急車搬送患者数	297	297	313	359	342	285	343	309	362	304	277	310	3,798
	紹介率	53	47	51	52	48	51	55	51	50	44	52	52	51

※ 紹介数＝初診である紹介患者数

※ 紹介率＝(初診患者数+救急車搬送患者数)/初診患者数(6歳未満時間外除く)

当院は急性期病院として、病診・病病連携に取り組んでおり紹介率は年々上昇している。また、救急救命センター併置病院としても救急搬送受け入れ患者数が増加しており、今後も引き続き地域医療機関と連携し適切な医療提供体制の充実に努めていきたい

20年度 病診連携検査 検査種類別件数

MRI	CT	胃透視	胃カメラ	心エコー	トレッドミル	ホルターEKG	脳波	ABR
408	631	0	95	47	7	4	46	5
ABI	頸動脈エコー	腹部エコー	甲状腺エコー	下肢静脈エコー	下肢動脈エコー	尿素呼気試験	マンモグラフィー	神経生理検査
0	5	24	5	1	1	10	4	2
							合計	1,295

当院では、外部医療機関からの依頼により検査のみを行うシステムである病診連携検査を実施している。

これは、大型医療機器等を地域で共同利用し、地域医療機関との機能分担を図る趣旨で実施しているものである。全体の件数としては、全体に占める割合が高いCTの減少に影響され、200件以上も減少する結果となった。

がん相談支援センター相談実績(H20.2～H21.3)

総相談件数	66件		相談内容 (事務的)	2次検診を受ける方法	0件
対応方法	面談	39件		検診を希望して受ける方法	1件
	電話	27件		ドックを受ける方法	0件
相談者	本人	40件		受診の方法	4件
	家族	24件		予約の方法	0件
	医療関係者	2件		緩和ケアへの入院方法	1件
				セカンドオピニオン受診の方法	7件
当院受診歴	なし	34件		当院へのアクセスの方法	1件
	あり	20件		診療科の案内	8件
	不明	12件		転医・転院の方法	1件
原発のがん部位	脳脊髄・眼	1件		PET検査を受ける方法	0件
	食道・胃	15件		パンフレット・カタログの持ち帰り	0件
	大腸・直腸	10件		FAX	0件
	肝・胆・膵	3件		逆紹介	0件
	肺	8件	その他	10件	
	乳房	9件	相談内容 (医療相談)	がん検診	0件
	子宮	3件		告知	2件
	卵巣	1件		がんの検査	2件
	前立腺	5件		がんの治療	22件
	腎・膀胱	1件		セカンドオピニオン	8件
	その他	2件		受診科	3件
	不明	3件		緩和ケア	3件
がんでない	5件	ホスピス		2件	
治療状況	治療前	10件		在宅医療	1件
	治療中	24件		転医・転院	7件
	治療後	8件		入院・入院生活	1件
	再発・転移	9件		日常生活	4件
	緩和ケア	1件	症状	5件	
	その他	4件	副作用	1件	
	不明	5件	医師との関係	5件	
	がんでない	5件	精神的問題	2件	
利用回数	初めて	65件	その他	11件	
	2回目以上	1件			

セカンドオピニオン外来実績(H20.7～H21.3)

診療科	件数
泌尿器科	1件
外科	2件
呼吸器科	2件
神経内科	1件
脳外科	1件

平成20年度 地域支援研修実績

開催日	講座名	テーマ	講師	担当部署
7月5日	学術講演会	胃癌治療の最前線	岐阜市民病院 外科副院長 種村 廣巳	外科 地域連携室
8月2日	地域支援 講習会	「誤嚥性肺炎 の予防ケア」	県立総合医療センター 集中ケア認定看護師 原 知江	地域連携室
9月6日	学術講演会	肺癌の画像診断	三重大学附属病院 像診断科講師 村嶋 秀市	放射線 地域連携室
9月14日	学術講演会	乳がん薬物療法 の実際	名古屋市立大学病院 乳腺内分泌外科副部長 遠山 竜也	外科 地域連携室
10月4日	学術講演会	転移性脳腫瘍に対する ガンマーナイフ治療の 有効性と限界	三重大学 脳神経科講師 塩川病院 三重ガンマーナイフセンター 堀 康太郎	脳外科 地域連携室
11月14日	学術講演会	膵癌と生活 習慣病薬について	金沢大学 癌局所制御学教授 太田 哲生	消化器科 地域連携室
11月22日	地域支援 講習会	「レクリエーション からリハビリテーション に・・・」	県立総合医療センター 作業療法部 富中 慎吾	地域連携室
12月6日	感染 セミナー	「抗菌薬の適正 使用を目指して」	名古屋大学医学部附属病院 難治感染症部助教 馬場 尚志	感染対策室
1月18日	地域支援 講習会	「高齢者のスキンケア」	県立総合医療センター 皮膚認定看護師 大川 恵美	地域連携室
1月25日	H I V /A I D S 講演会	「タイのH I V事情と 名古屋における 早期発見の取り組み」	国立名古屋医療センター 臨床研究センター 止血・血栓研究部長 浜口 元洋	H I V カンファレンス チーム
2月14日	学術講演会	すべての患者さん に睡眠を！	三重大学医学部附属病院 総合診療部準教授 竹村 洋	循環器 地域連携室
2月29日	感染 セミナー	「新しい院内感染 防止の考え方」	東京医療保健大学 医療保健情報学科 感染制御学教授 大久保 憲	感染対策室
3月13日	学術講演会	アスベスト関連疾患 の画像診断と治療	兵庫医科大学 内科学呼吸器・RCU科教授 中野 孝司	呼吸器科 地域連携室

(9) 医療安全管理部 感染対策室

院内感染対策チーム (Infection Control Team)

メンバー構成

リーダー：感染対策室長 (ICN 倉田)

メンバー：ICD (吉田、伊藤秀、西森)

ICD 薬剤師 (森) 薬剤師 (西出)

リンクナース (ICN 垣内、田上)

細菌検査技師 (森外、東)

施設管理 (中村)

実績

1. 職員の結核健診検査 (QFT - 2G) を開始

結核感染の有無を検査する方法として、従来はツ反検査が標準法であったが、既往の BCG 接種の影響を受けずに行う事ができる「クオンティーフエロン TB-2G」を本年より導入した。

2008 年は、医師・看護師を対象に計 330 人に実施した。

2. 職員の HBV 抗体価測定検査とワクチン接種の方法を変更した

抗体価測定実施対象者を以下の者とした。

- 新採用者全員、中途採用者全員
- 前年度の抗体価検査で 100 未満の者
- 前々々年度の抗体検査で 100 以上の者

ワクチン接種については抗体価 10 未満の者に 3 回接種

予防接種の既往があり、陽転したがその後陰性化した者については抗体価確認後 1 回接種とした

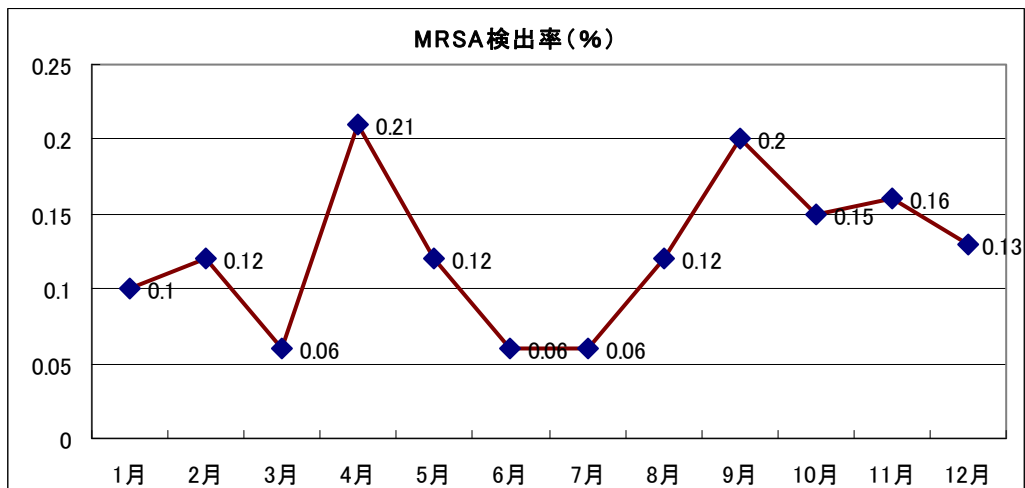
3. 抗菌薬適正使用ガイドラインを作成した

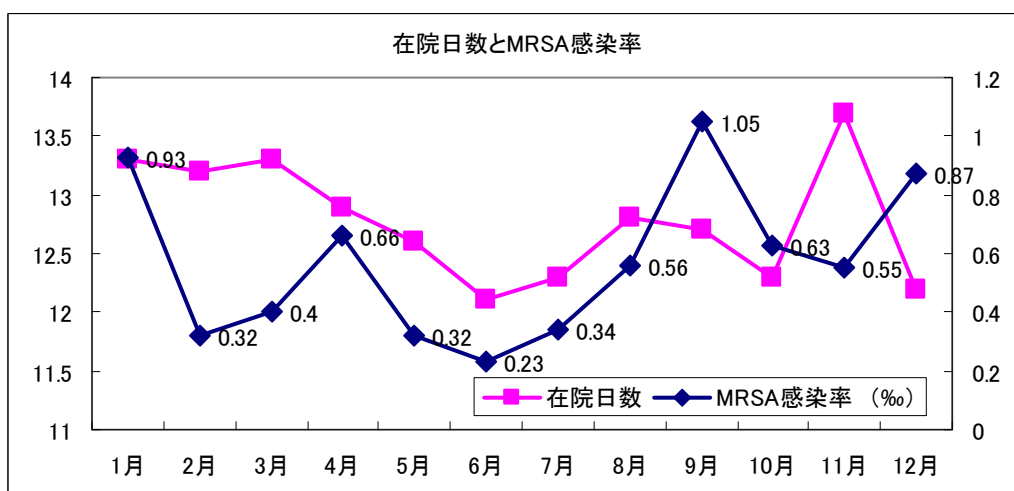
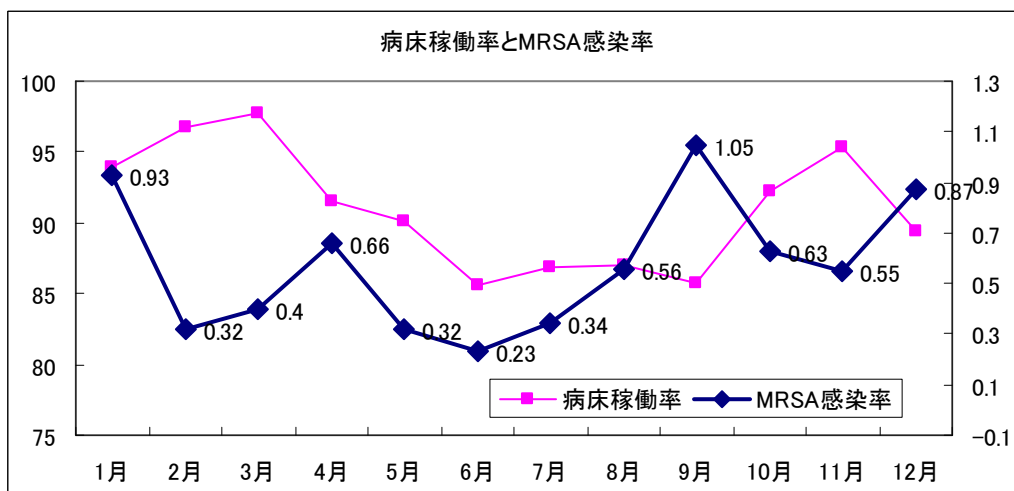
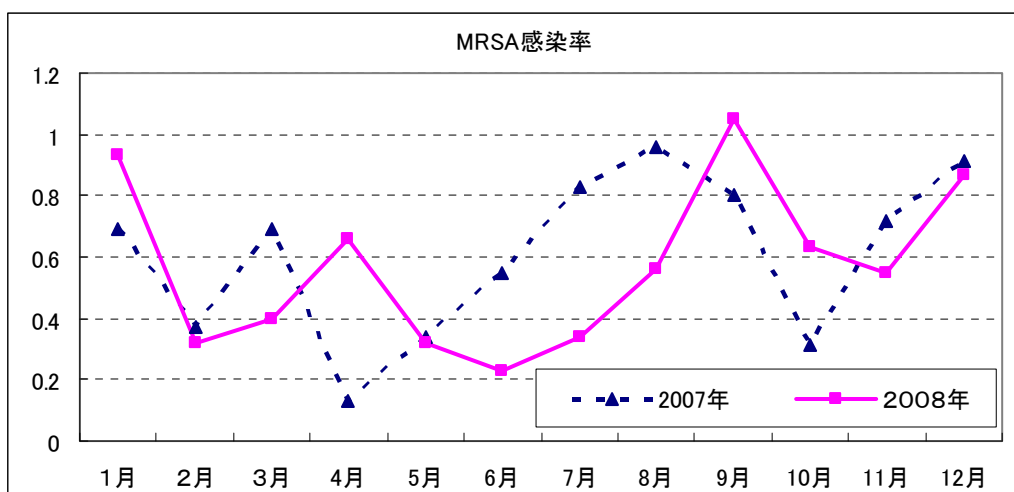
当院で検出頻度の高い上位 10 菌種の抗菌薬別感受性率を示した

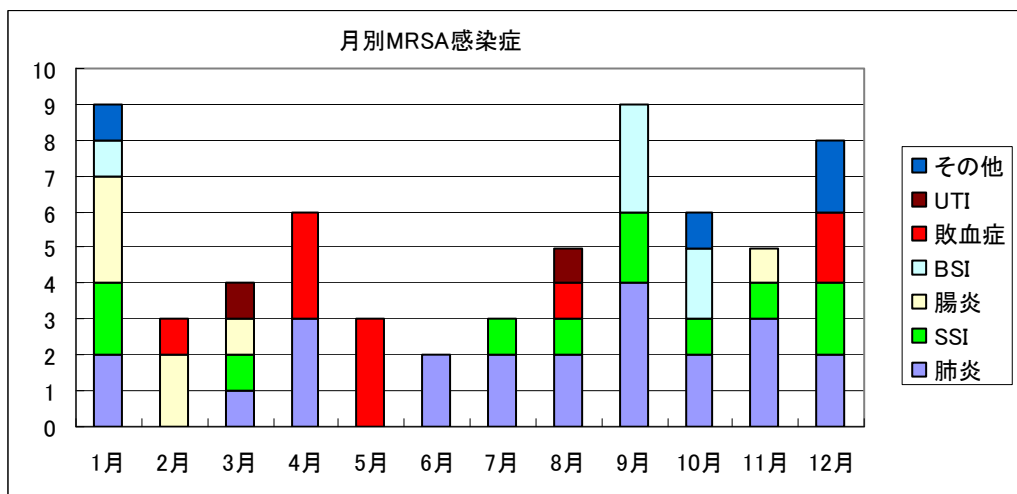
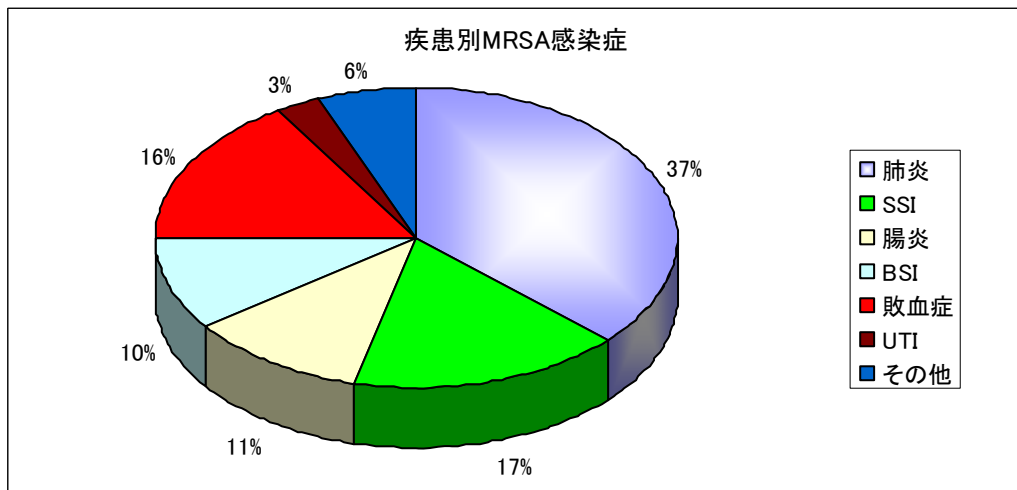
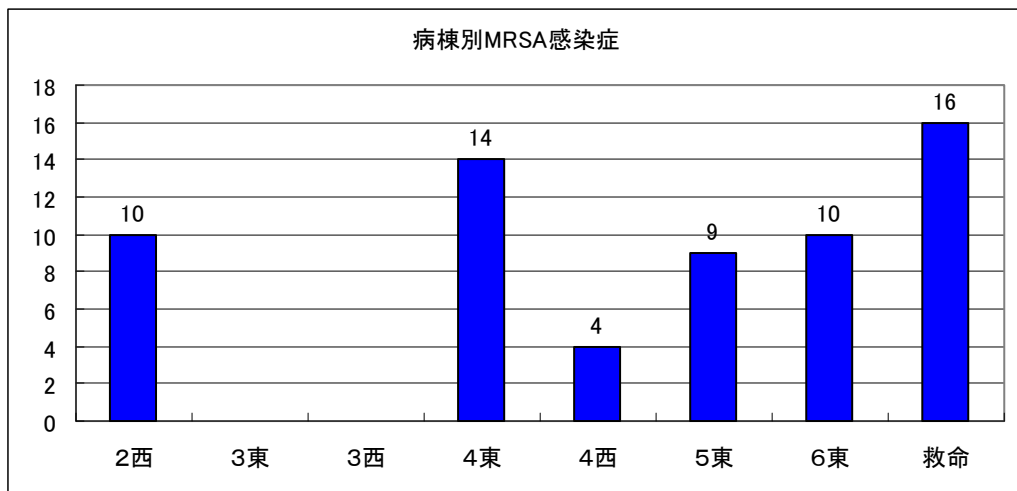
4. MRSA サーベイランス結果

① 2008 年 MRSA 感染率

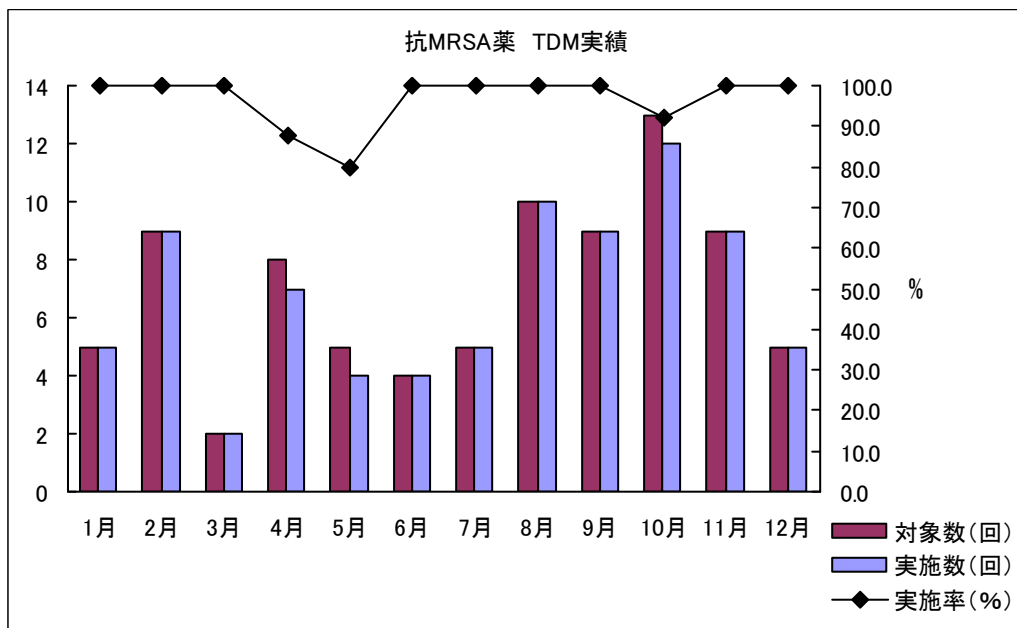
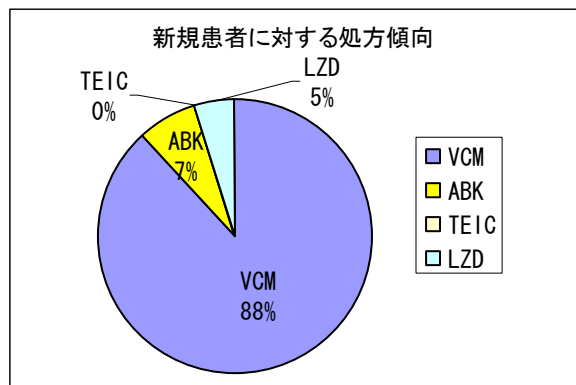
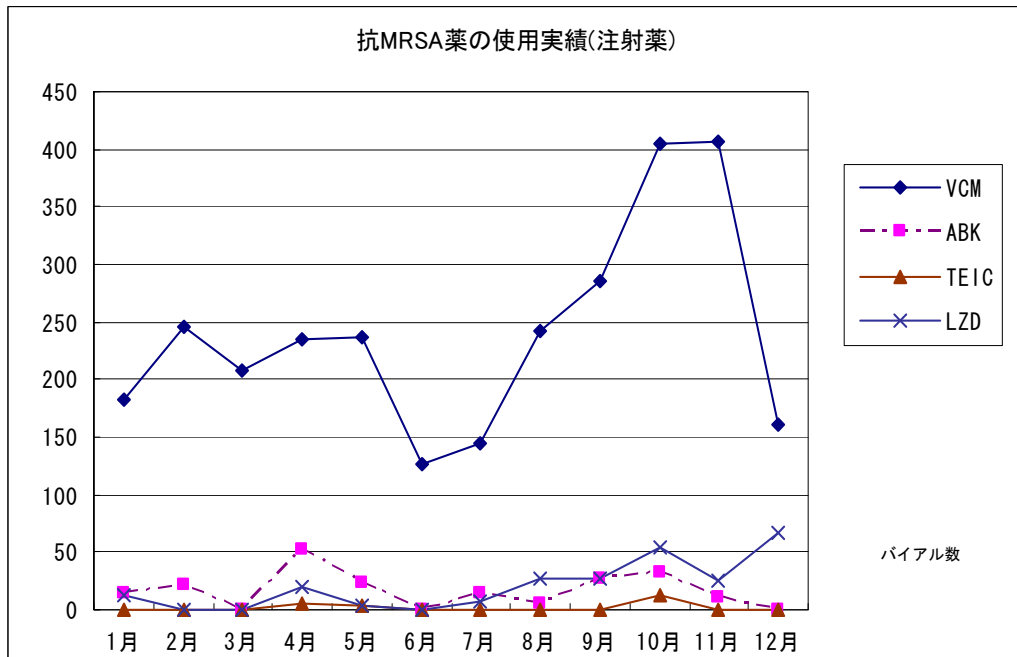
資料 1—① MRSA サーベイランス (2008 年 1 月～12 月)







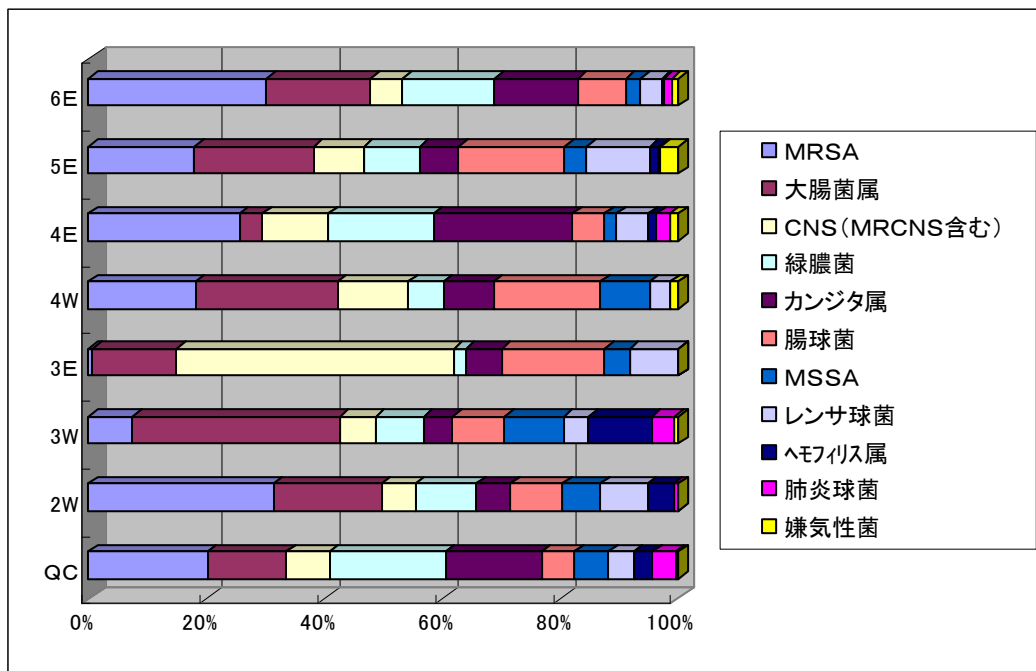
② 抗MRSA薬使用実績 TDM実績、抗菌薬使用実績（薬剤部）



③ MRSA・緑膿菌・肺炎球菌の PCG 感受性率（細菌検査）

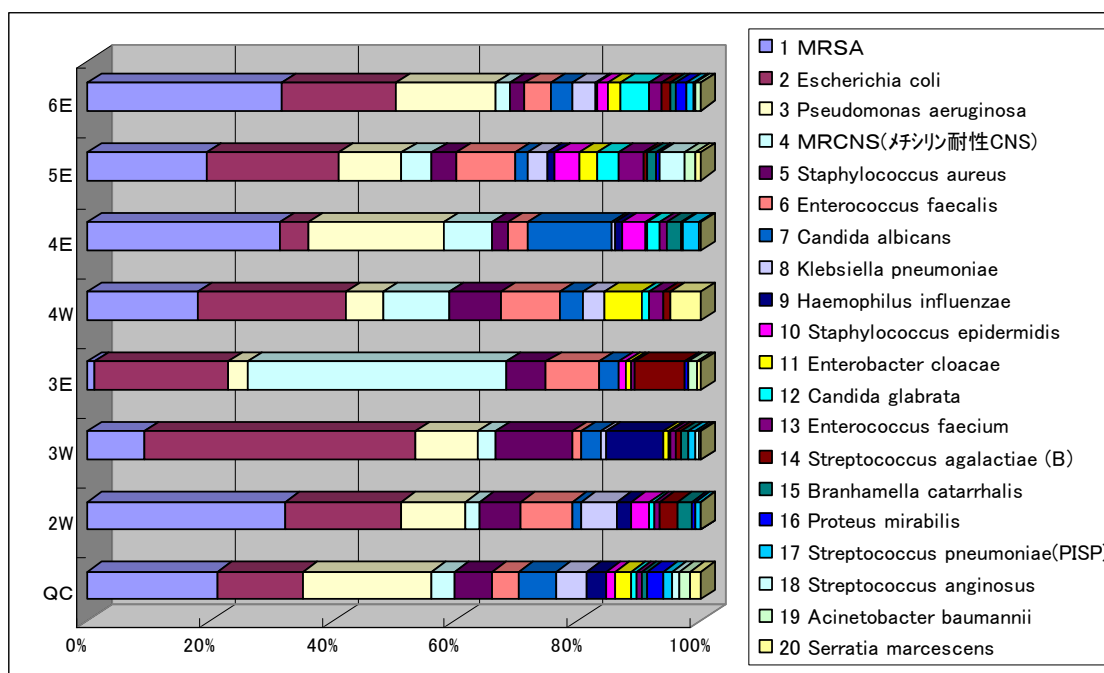
2008 年病棟別検出菌件数 *重複患者含む

	QC	2W	3W	3E	4W	4E	5E	6E	合計
MRSA	94	43	23	2	15	86	59	85	407
大腸菌属	62	25	108	41	20	13	66	50	385
CNS(MRCNS含む)	34	8	19	137	10	38	28	15	289
緑膿菌	92	14	25	6	5	60	31	44	277
カンジタ属	76	8	15	18	7	80	22	40	266
腸球菌	26	12	27	51	15	18	59	23	231
MSSA	27	9	31	12	7	7	12	7	112
レンサ球菌	20	11	13	24	3	18	35	10	134
ヘモフィス属	15	6	33	0	0	5	5	1	65
肺炎球菌	18	1	12	0	0	7	1	4	43
嫌気性菌	2	0	2	0	1	5	10	3	23



2008 年病棟別検出菌上位 20 *重複患者含む

		QC	2W	3W	3E	4W	4E	5E	6E	合計
1	MRSA	94	43	23	2	15	86	59	85	407
2	Escherichia coli	62	25	108	41	20	13	66	50	385
3	Pseudomonas aeruginosa	92	14	25	6	5	60	31	44	277
4	MRCNS(メチリン耐性 CNS)	17	3	7	79	9	22	15	6	158
5	Staphylococcus aureus	27	9	31	12	7	7	12	7	112
6	Enterococcus faecalis	20	11	3	16	8	9	29	11	107
7	Candida albicans	27	2	8	6	3	37	6	10	99
8	Klebsiella pneumoniae	22	8	2	0	3	2	10	10	57
9	Haemophilus influenzae	14	3	23	0	0	3	4	1	48
10	Staphylococcus epidermidis	6	4	0	2	0	10	12	4	38
11	Enterobacter cloacae	12	0	2	2	5	1	9	6	37
12	Candida glabrata	4	1	1	0	1	6	10	12	35
13	Enterococcus faecium	3	1	2	1	2	3	13	6	31
14	Streptococcus agalactiae (B)	1	4	2	15	1	0	2	4	29
15	Branhamella catarrhalis	4	3	3	0	0	6	4	2	22
16	Proteus mirabilis	11	1	0	1	0	1	2	5	21
17	Streptococcus pneumoniae(PISP)	7	1	3	0	0	7	0	3	21
18	Streptococcus anginosus	5	0	1	0	0	0	12	1	19
19	Acinetobacter baumannii	7	0	1	3	0	0	5	2	18
20	Serratia marcescens	8	0	0	1	4	1	3	0	17



MRSA感受性率

	S	I	R	合計(件数)
PCG			100.00%	197
MPIPC			100.00%	197
CEZ			100.00%	197
CTX			100.00%	197
CMZ			100.00%	197
IPM/CS			100.00%	197
SBT/ABPC			100.00%	197
LVFX	3.00%	15.20%	81.70%	197
EM	6.00%		93.90%	197
CLDM	9.10%		90.80%	197
FOM	32.40%		67.50%	197
GM	69.00%	3.00%	27.90%	197
MINO	73.10%		26.90%	197
RFP	94.90%	4.00%	1.00%	197
AMK	97.40%		2.50%	197
CP	98.90%	0.50%	0.50%	197
ABK	100.00%			197
VCM	100.00%			197
ST	100.00%			197
TEIC	100.00%			197

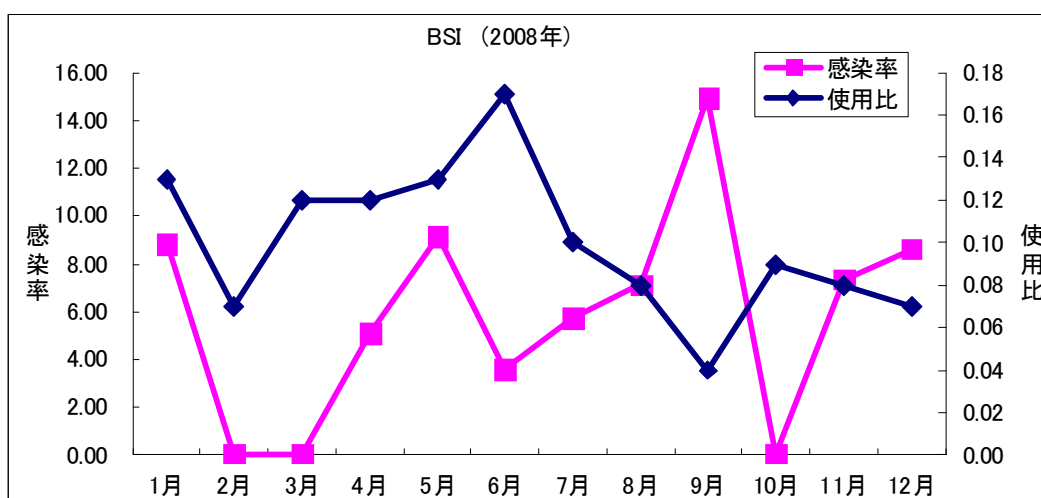
肺炎球菌感受性率

	S	I	R	合計(件数)
EM	12.70%	15.20%	72.00%	204
TC	16.10%	4.30%	79.50%	205
PCG	16.60%	60.20%	23.00%	204
ST	59.00%	34.10%	6.80%	205
AMPC	74.00%	23.00%	2.90%	204
CP	79.90%		20.10%	204
OFLX	85.30%	13.60%	0.90%	205
CTX	89.20%	9.20%	1.40%	205
CTRX	93.10%	5.80%	0.90%	204
IPM/CS	97.00%	2.90%		204
VCM	100.00%			196

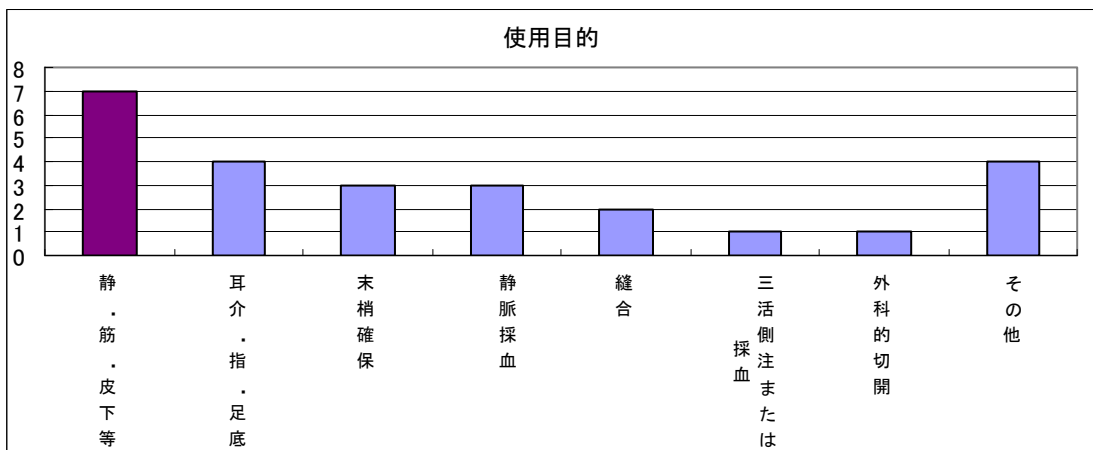
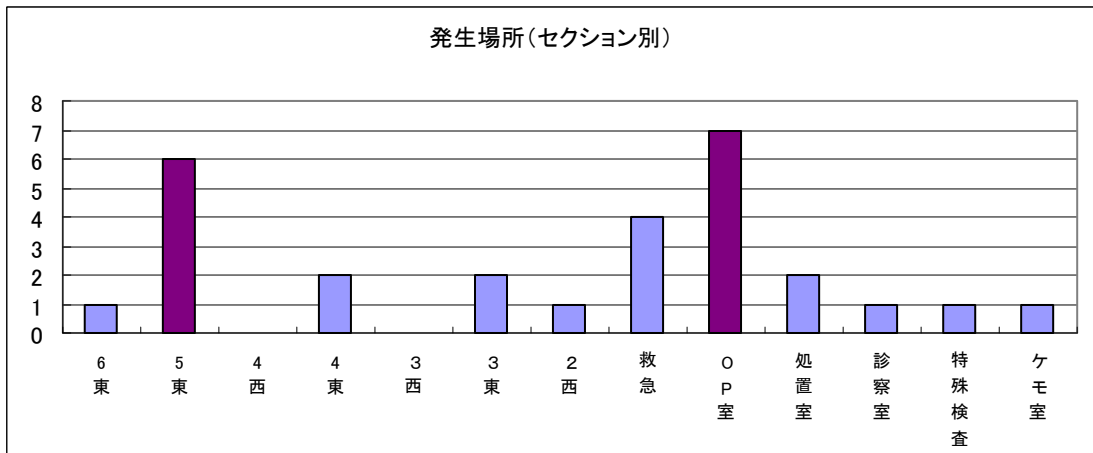
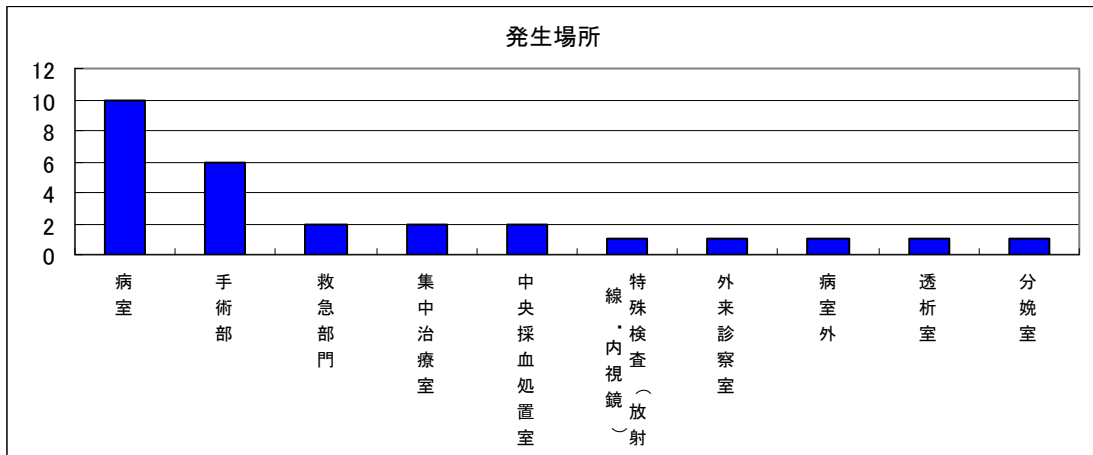
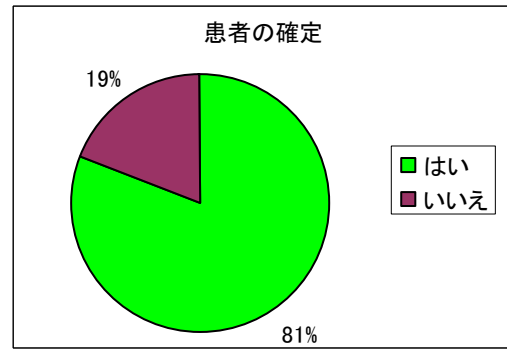
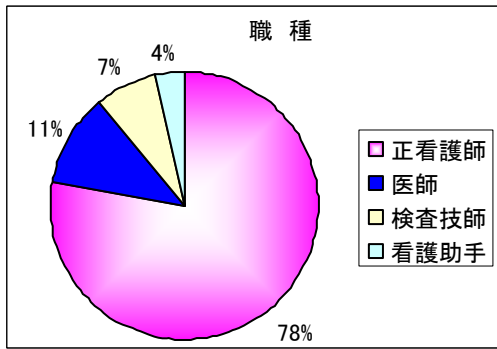
緑膿菌感受性率

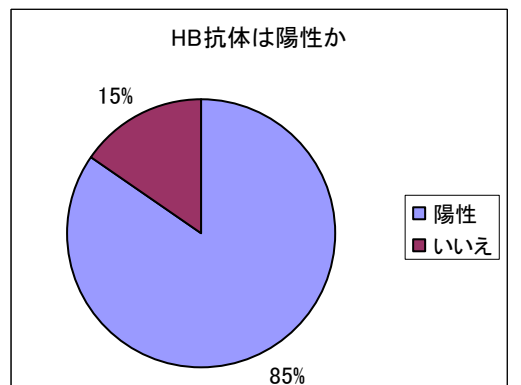
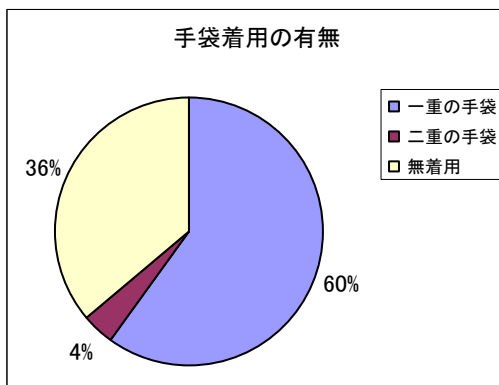
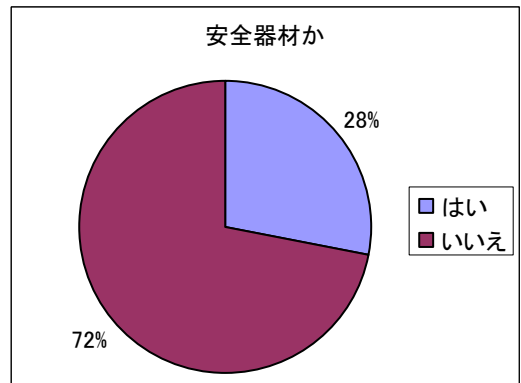
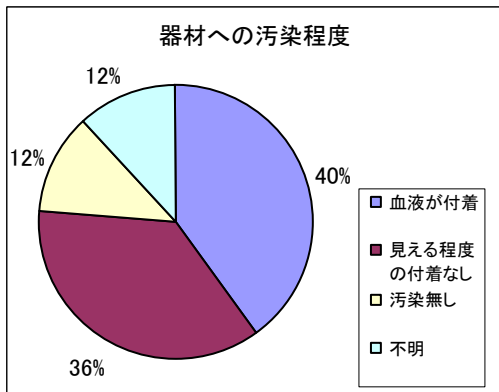
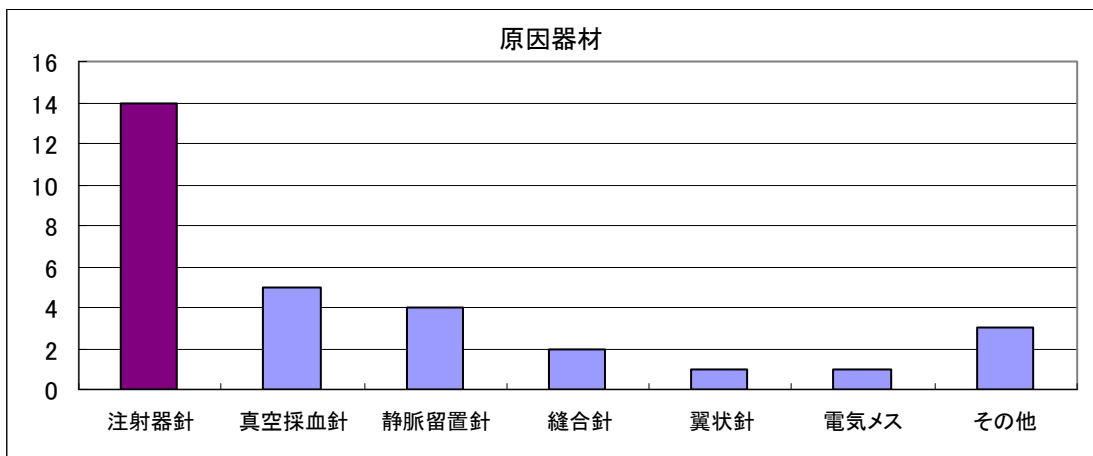
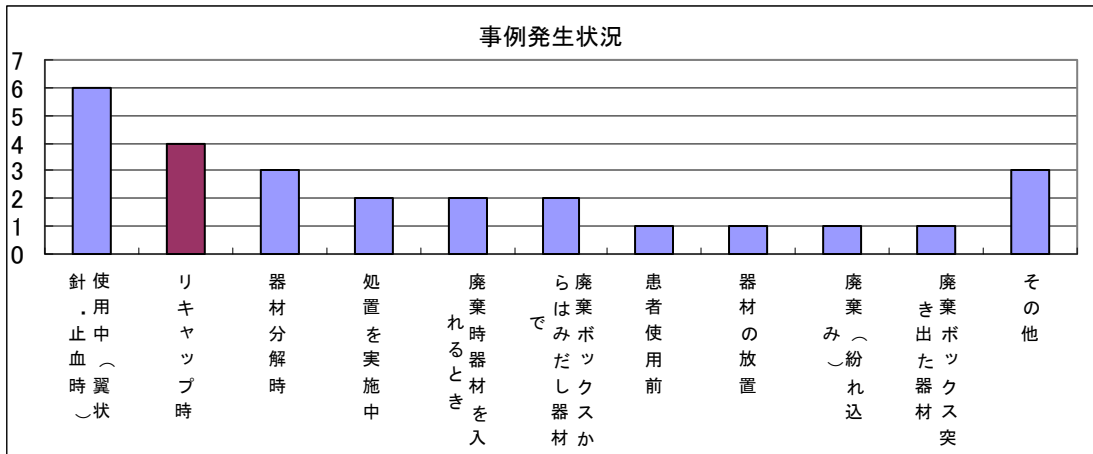
	S	I	R	合計(件数)
ABPC			100.00%	137
CEZ			100.00%	137
GFX			100.00%	137
FMOX		0.70%	99.20%	137
SBT/ABPC		0.70%	99.20%	137
CP	0.70%		99.20%	136
ST	0.70%		99.20%	137
CTX	1.40%		98.50%	136
MINO	1.40%		98.50%	137
AZT	54.00%	27.00%	18.90%	137
CPFX	69.30%	13.80%	16.70%	137
IPM/CS	70.80%	11.60%	17.50%	137
LVFX	73.70%	10.90%	15.30%	137
MEPM	81.00%	4.30%	14.60%	137
CAZ	86.00%	11.00%	2.90%	136
CFPM	93.40%	4.30%	2.10%	137
CZOP	94.80%	2.90%	2.10%	137
PIPC	97.70%		2.20%	136
GM	98.50%	1.40%		137
AMK	99.20%	0.70%		137

5. 血流感染サーベイランス



6. 針刺し・切創サーベイランスのまとめ





7. 職員インフルエンザワクチン接種率 () は 2007 年

職員接種率：95.7% (94.8%)

看護師 95.7% (93.7%)

看護介助士 100% (100%)

医師 87.3% (96.6%)

研修医 95.2% (94.7%)

コメディカル 98.6% (98.5%)

事務職員 98.4% (93.8%)

委託業者：名 151 名 (142 名)

インフルエンザ罹患率 2.75% (3.23%)

8. Infection Control News の発行

毎月 1 回、サーベイランス情報、感染防止情報、お知らせなど発信した。

9. 病院事業庁主催の看護特別研修会 (感染管理) 開催

3 日間コース 研修生 94 名 (県内看護師対象) 講師：倉田 垣内

9. 講演会開催 (院内)

開催月日	対象者	主催	参加者	テーマ	研修時間	講師
2月29日	院内職員	感染対策室	71 名	新しい院内感染防止の考え方	90 分	大久保 憲
8月1日	院内職員	感染対策室	60 名	結核接触者感染対策	60 分	吉田 正道

院 外

6 月 3 日	施設内職員	老健つつじの里	80 名	施設における感染対策	90 分	倉田
6 月 12 日	施設内職員	老健あのを	130 名	施設における感染対策	90 分	倉田
7 月 12 日	院内職員	一志病院	60 名	針刺し・節操対策・職業感染対策	90 分	倉田
7 月 15 日					90 分	倉田
8 月 22 日	訪問看護師	ナースセンター	29 名	感染防止の基本 在宅ケア時の感染対策、他	3 時間	倉田
8 月 28 日					3 時間	倉田
10 月 3 日	施設内職員	老健やまゆり	80 名	施設における感染対策	90 分	倉田
10 月 21 日	潜在看護師	ナースセンター	11 名	感染対策の基礎	3 時間	倉田
11 月 4 日	院内職員	草の実りハビリ	20 名	感染防止のために	60 分	倉田

10. 感染症法による発症届 報告

3 類感染症：O-157 4 件

4 類感染症：レジオネラ感染 1 件

5 類感染症：後天性免疫不全症候群 2 件、

成人麻疹：1 件

11. 研究発表実績

第 5 回三重県院内感染対策研究会 (2008 年 9 月)

「当院看護師の結核感染状況について」～二段階法ツ反と Q F T との対比を中心に～

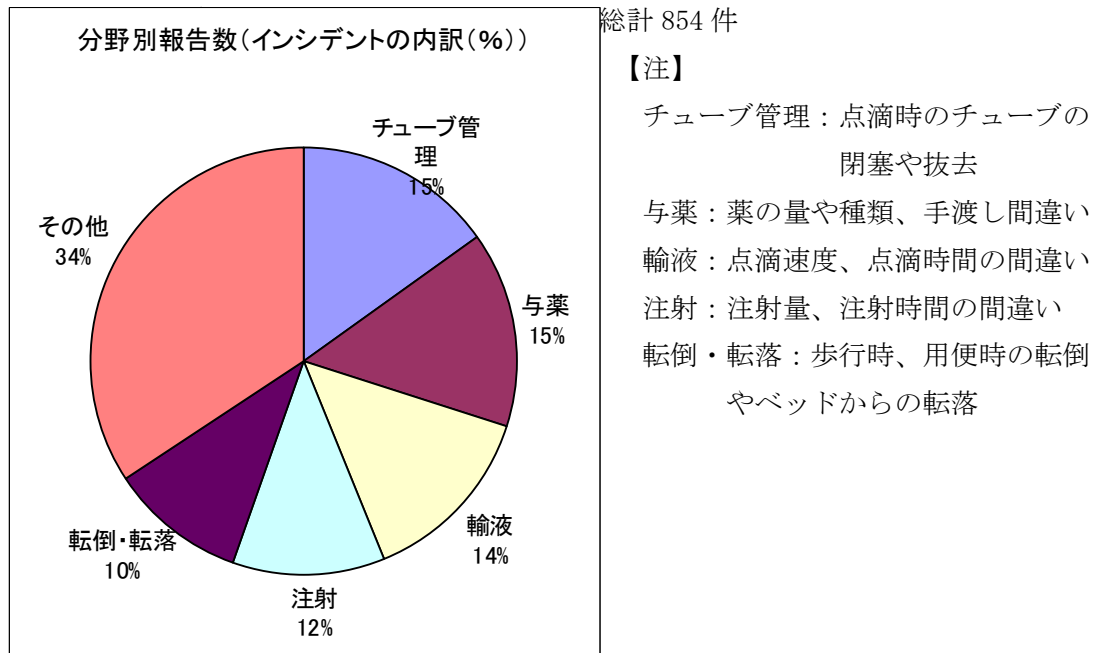
○垣内由美 倉田みち子 吉田正道 森外由美

医療安全管理部 医療安全対策室

1 平成 20 年度のインシデントとアクシデント事例について

全職員から、日常の診療における「ヒヤリ」「ハッ」とした経験（インシデント：間違いには至らなかった、または患者さんに有害な結果が発生しなかったこと）や、結果的に患者さんにとって本来の治療目的に反した有害な事象（アクシデント：事故）が報告されます。アクシデントは、三重県の公表基準に従って公表しています。

平成 20 年度の総数は以下のとおりです。また詳細は資料 1 のとおりです。



いずれも大事には至りませんでした。全ての報告は医療安全対策室で目を通し、事故防止対策に繋がっています。

(2) アクシデント（医療事故）

平成 20 年度は、公表基準に該当する医療事故はありませんでした。

2 平成 20 年度に実施した医療安全対策について

院内からのインシデント・アクシデント報告を受け、あるいは院外で起こった事故の情報を収集して、事故防止のための対策を立てています。平成 20 年度に実施した主な対策・取組みは次のとおりです。

- ① 患者確認を徹底するための院内キャンペーンの実施
- ② 皮膚の弱い患者さんの足が傷つくのを防止するため車椅子のフットレストカバーを導入
- ③ ハイリスク薬剤オーダー時に注意を喚起するため、オーダーリングシステム上の表示を変更
- ④ ベッド柵の間に挟まる事故を防止するため、スペーサーの使用状況の確認ラウンドを繰り返し、調査結果を現場にフィードバック

これらの対策は、各部門の代表者からなるリスクマネジメント部会で決定し、毎月メールマガジンとして院内に配信して周知を図り、情報の共有に努めています。

3 研修会の実施について

毎年2回、全職員を対象に医療安全管理の研修・講習会を実施しています。平成20年度は、医薬品・医療機器を安全に使用するために必要な知識の再確認、院内で迷惑行為に遭遇した時の対処を学ぶことを目的として以下の講演会を実施しました。

第1回 平成20年5月27日
講師 当院薬剤師及び臨床工学技士
タイトル 医薬品・医療機器の安全使用を目指して

第2回 平成20年6月24日
講師 四日市南警察署刑事課長
タイトル 院内暴力対策講演会

4 院内暴力対策について

全国的に、患者さんやその家族から病院職員に対する暴力行為や、病院の運営を妨げる迷惑行為が問題となっています。これに対し当院では、医療安全対策室が中心となり対応に取り組んでいます。上記の「院内暴力対策講演会」もその一環であり、その他にも下記の取組みを行っています。

(1) 平成20年度の暴力行為、迷惑行為への対応

平成20年度に医療安全対策室が報告を受けた暴力行為、迷惑行為は9件でした。そのうち3件については、警察に通報、相談等の対応を取りました。

(2) 連絡会議の開催

特に迷惑行為の対応に苦勞する救急外来を持つ公的病院と関係者が集まり、現状と対応について話し合いを持ちました。会議の中では、制服姿の警官が定期的に病院を巡回すること、恐怖を感じる事があればすぐ110番することなどを確認しました。

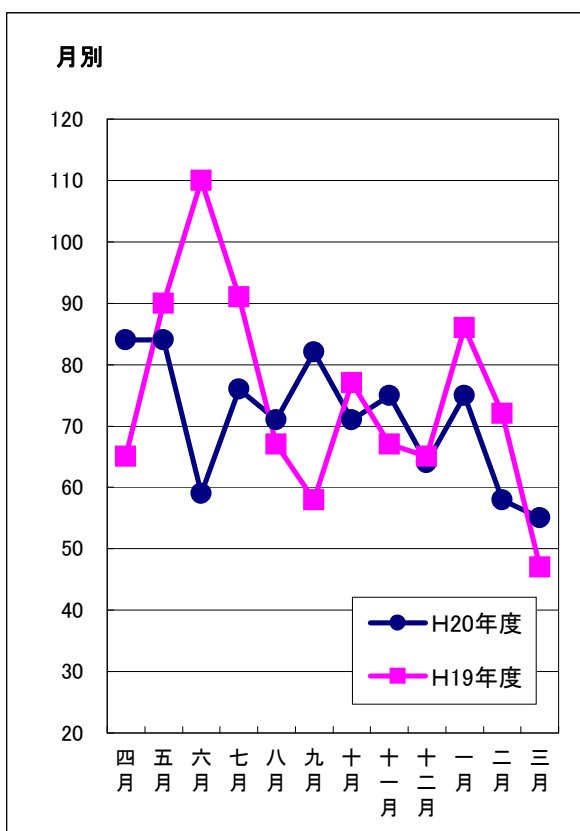
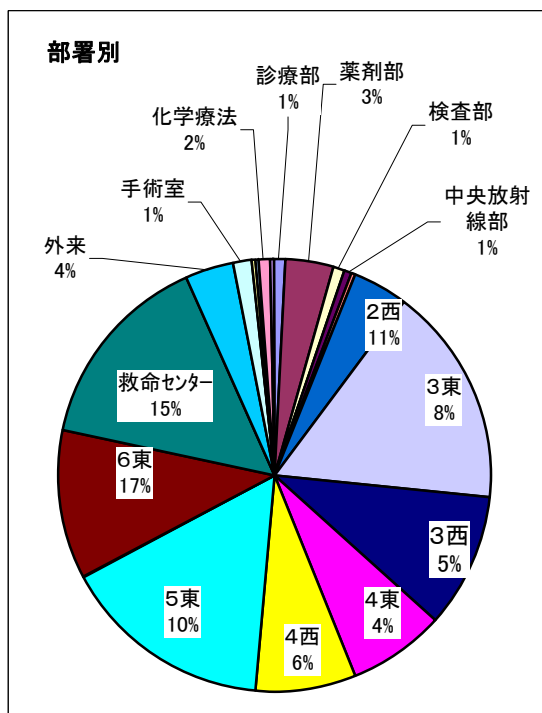
開催日 平成20年6月4日

出席者 市立四日市病院、四日市社会保険病院、四日市南警察署、
四日市北警察署、四日市市消防本部、県立総合医療センター

資料

1. ヒヤリ・ハット体験報告件数

合計 854件
 (前年比 -41件)
 最多報告部署 3東病棟 140件
 最多報告月 4月・5月 84件



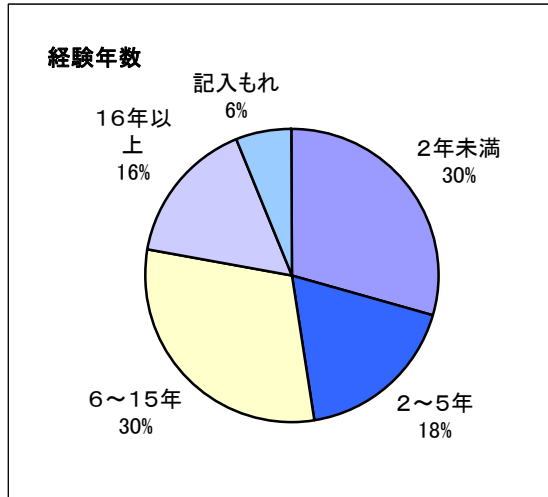
H20年度部署別内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
診療部	1	1	0	0	0	0	2	1	2	1	0	0	8	
薬剤部	0	5	3	5	3	3	3	4	2	0	1	0	29	
中央検査部	0	0	0	0	1	0	2	1	2	1	0	0	7	
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
中央放射線部	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3	0	6	
血液浄化療養部	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	
看護部	2西病棟	3	4	3	0	1	10	4	0	3	2	3	1	34
	3東病棟	7	16	11	10	4	13	9	12	9	14	12	23	140
	3西病棟	14	15	7	7	9	9	8	7	1	4	3	3	87
	4東病棟	11	4	2	4	10	5	6	7	2	5	1	4	61
	4西病棟	2	3	5	3	5	6	4	5	9	10	8	4	64
	5東病棟	17	8	10	17	17	21	11	8	3	6	9	9	136
	5西病棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6東病棟	13	11	5	11	14	7	2	6	11	9	4	2	95
	救命センター	8	14	10	15	4	6	12	12	11	18	12	6	128
	救急外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	5	0	1	3	1	1	4	6	5	1	1	3	31
	手術室	1	2	1	0	0	1	2	0	0	3	1	0	11
	中材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中央放射線部	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
透析室	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
化学療法室	2	0	1	1	2	0	0	0	1	1	0	0	8	
看護部計	81	77	55	70	65	79	62	67	54	72	54	55	791	
運営調整部	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	
合計	84	84	59	76	71	82	71	75	64	75	58	55	854	

2. ヒヤリ・ハット発生状況の傾向

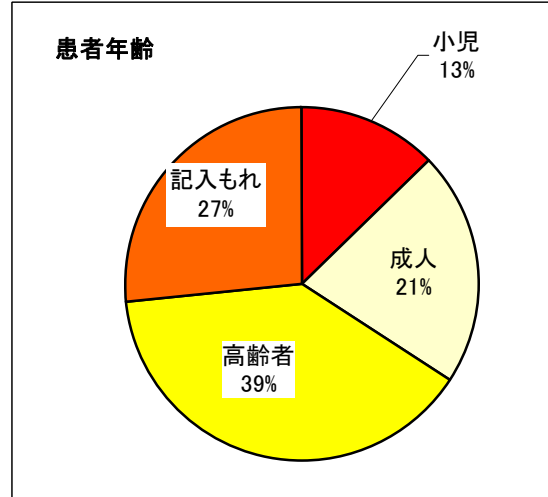
①報告者の経験年数

2年未満の職員は、職員数が少ないにも関わらず報告の30%を占め、体験する確率が高いと言える。



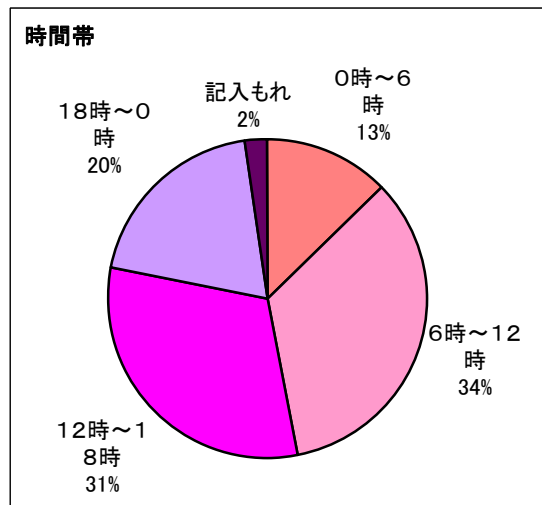
②患者の年齢

患者が高齢者であることが多い。なお、入院患者は概ね5割以上が高齢者である。



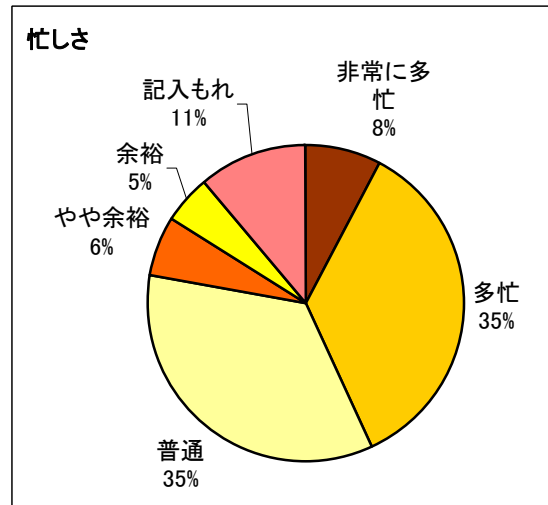
③時間帯

日中に多く発生している。

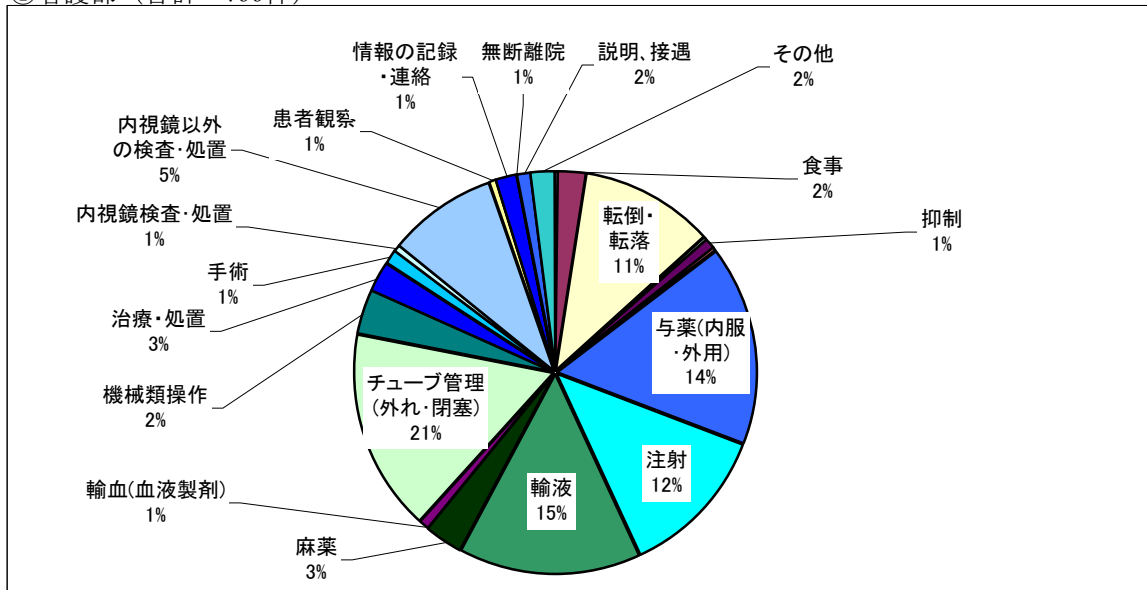


④忙しさ

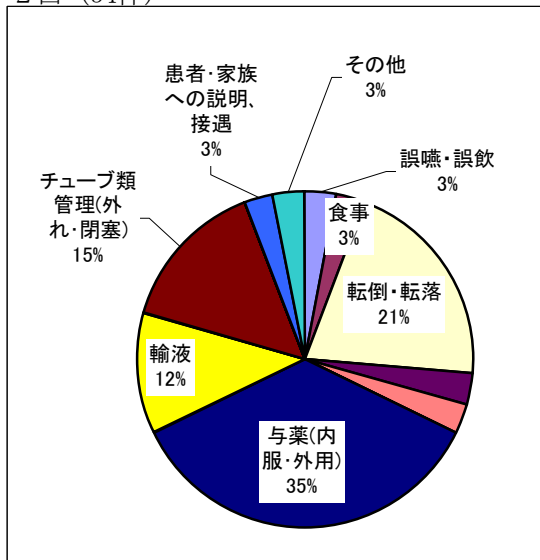
忙しいと感じない状況でも多数発生。



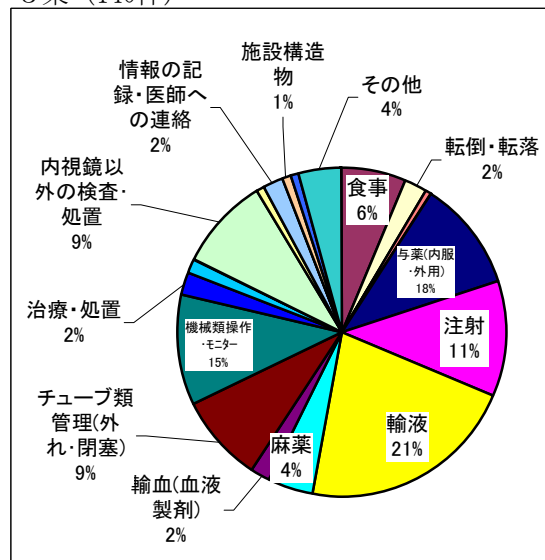
3. 部署別 ヒヤリ・ハット内容の傾向
 ①看護部 (合計 799件)



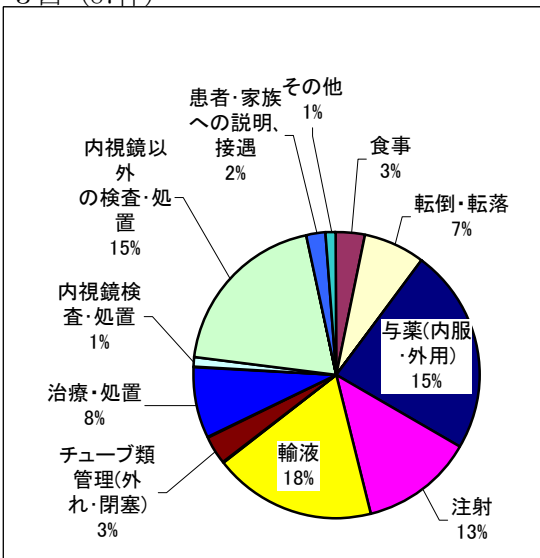
2 西 (34件)



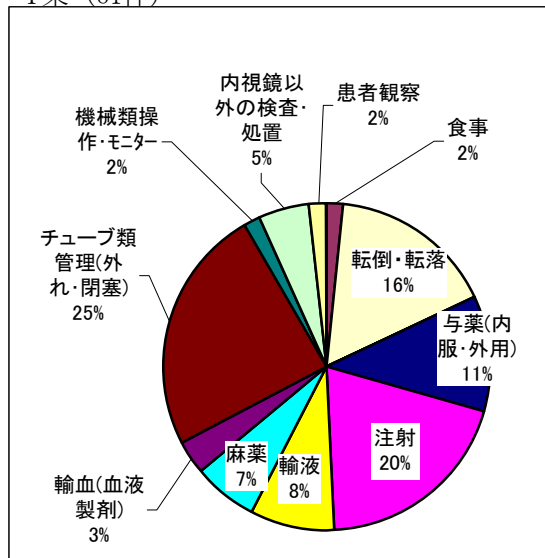
3 東 (140件)



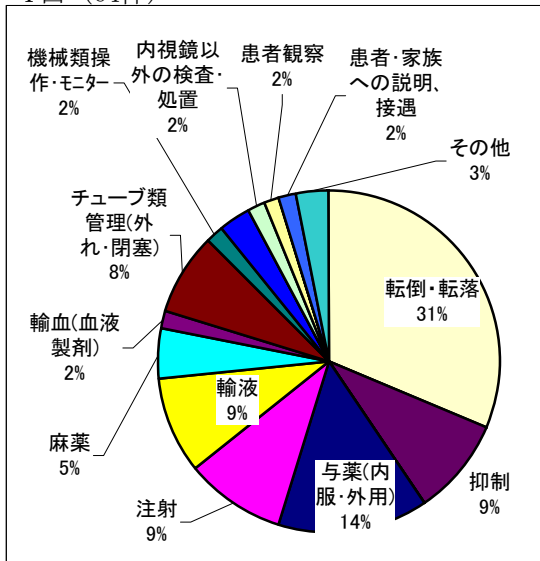
3 西 (87件)



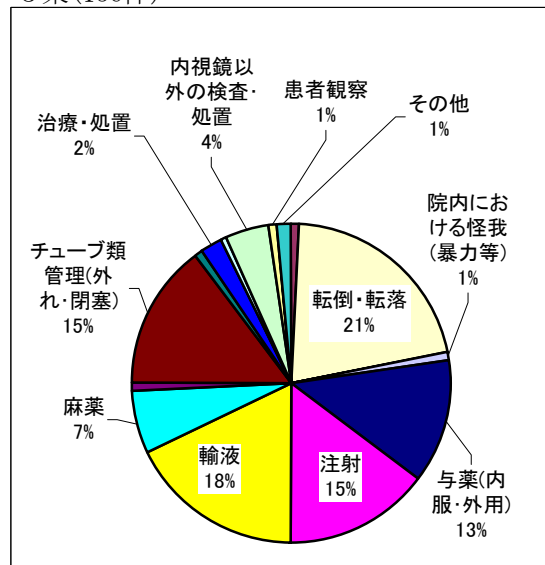
4 東 (61件)



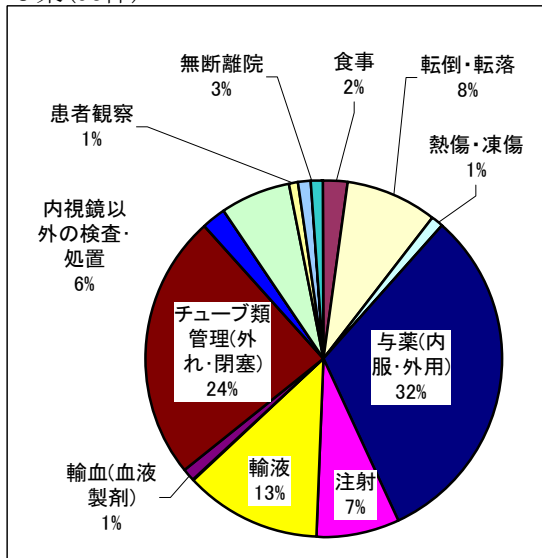
4 西 (64件)



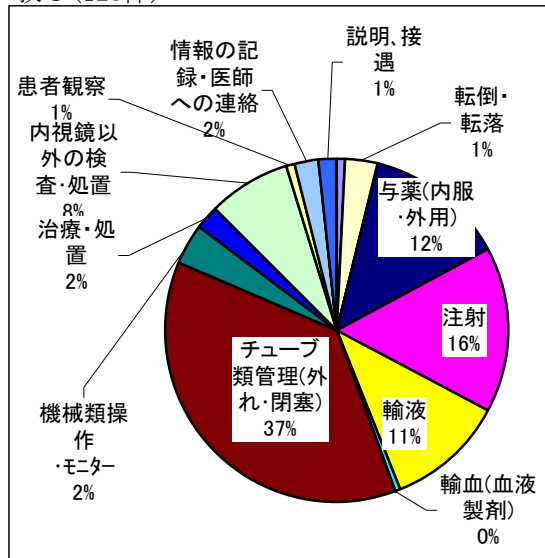
5 東 (136件)



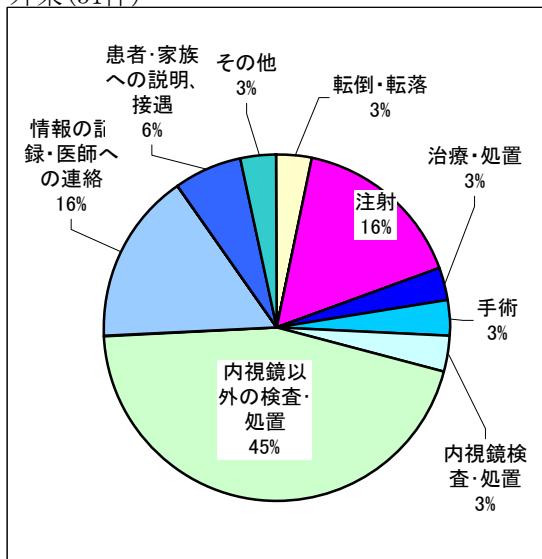
6 東 (95件)



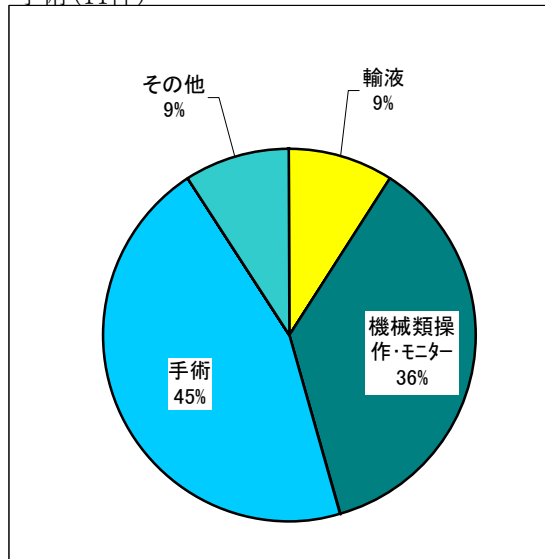
救C (128件)



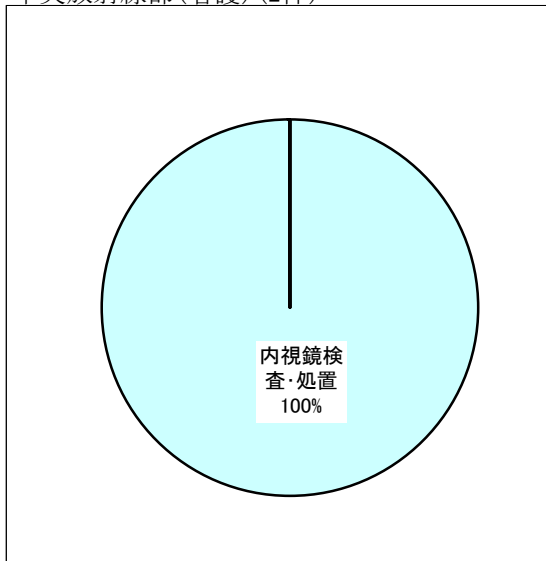
外来 (31件)



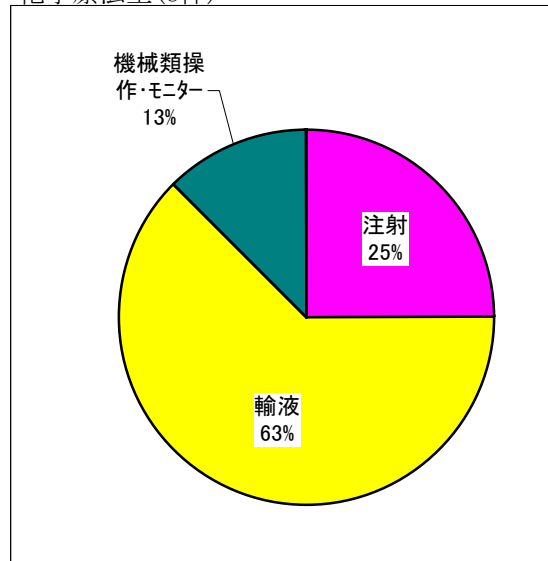
手術 (11件)



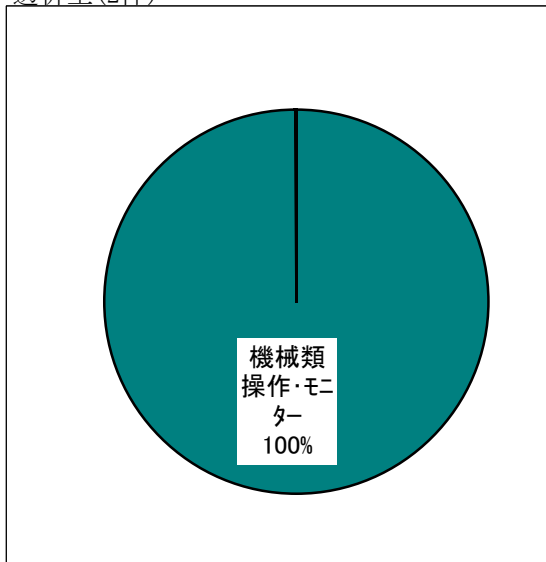
中央放射線部(看護) (2件)



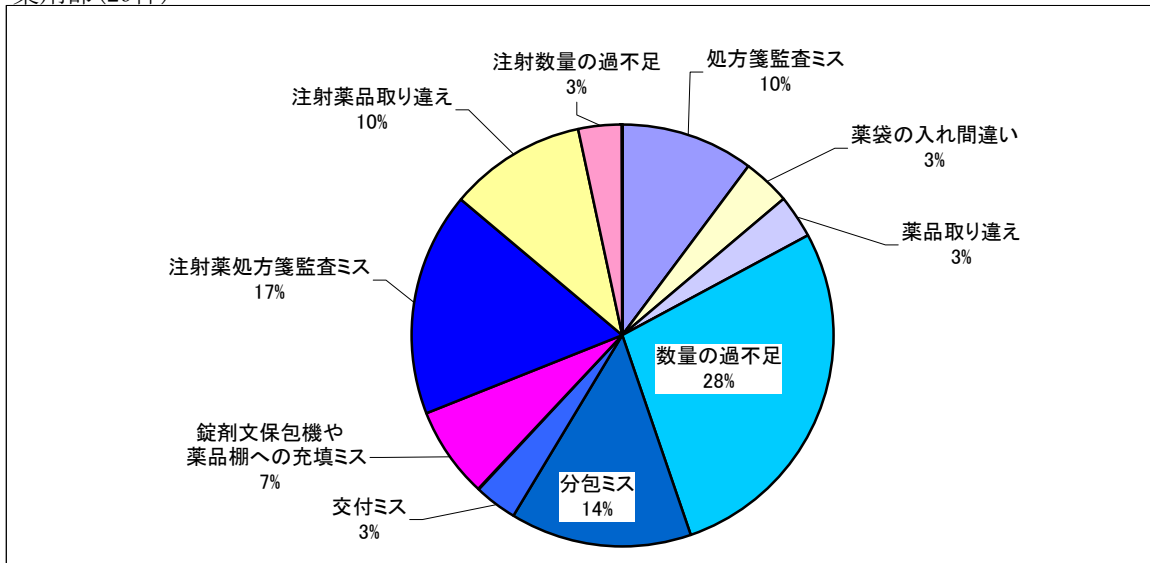
化学療法室 (8件)



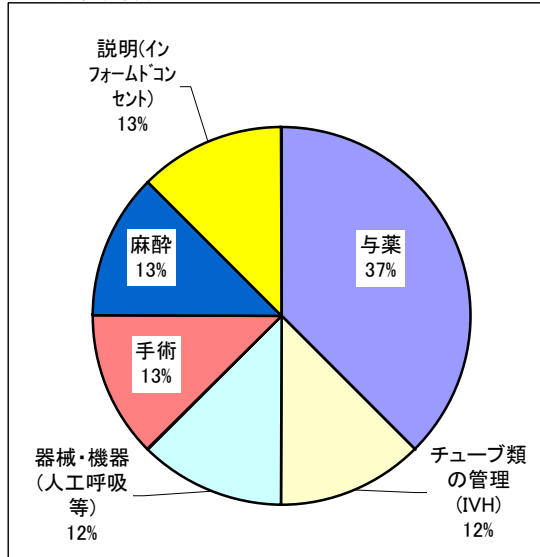
透析室 (2件)



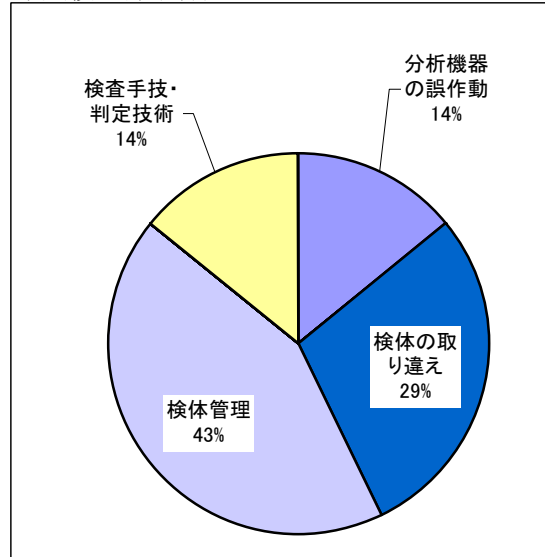
②看護部以外
薬剤部(29件)



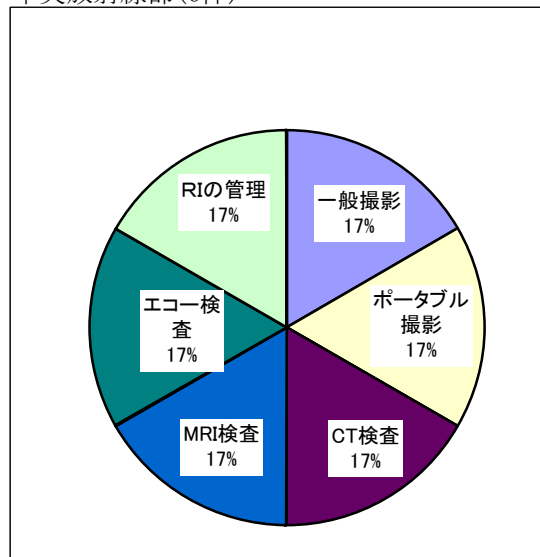
診療部(8件)



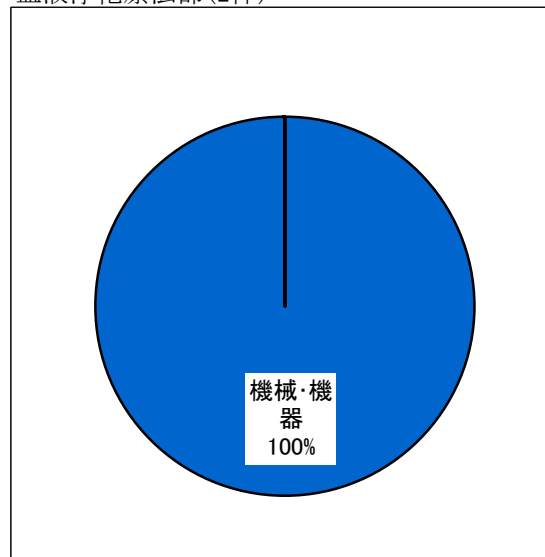
中央検査部(7件)



中央放射線部(6件)

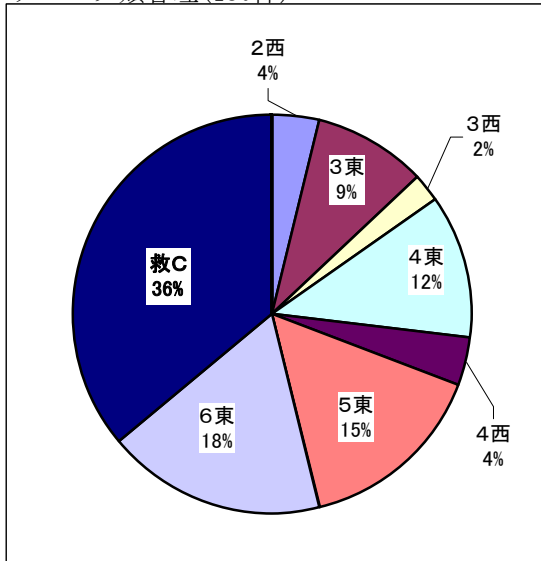


血液浄化療法部(2件)

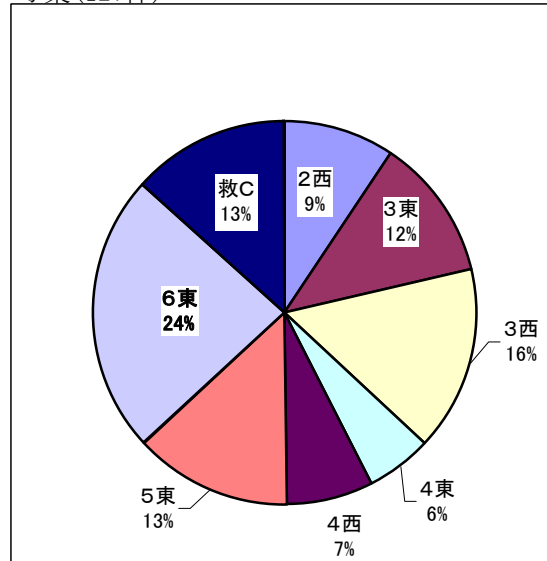


4. ヒヤリ・ハット内容別 発生場所の傾向

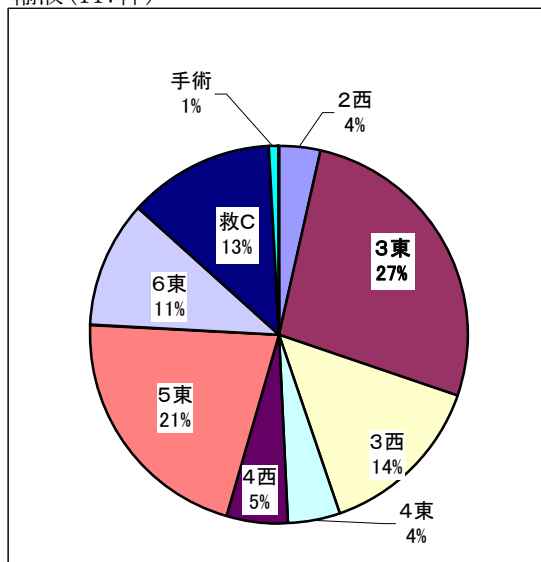
チューブ類管理(130件)



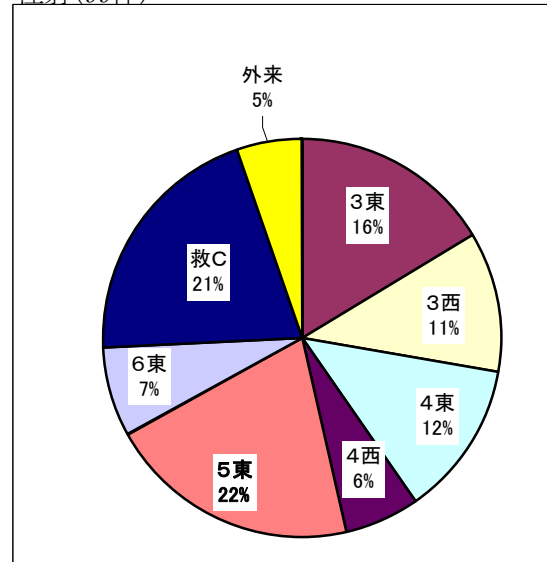
与薬(127件)



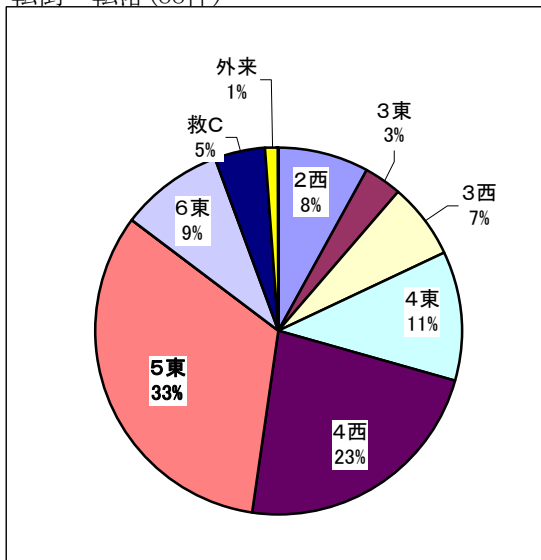
輸液(117件)



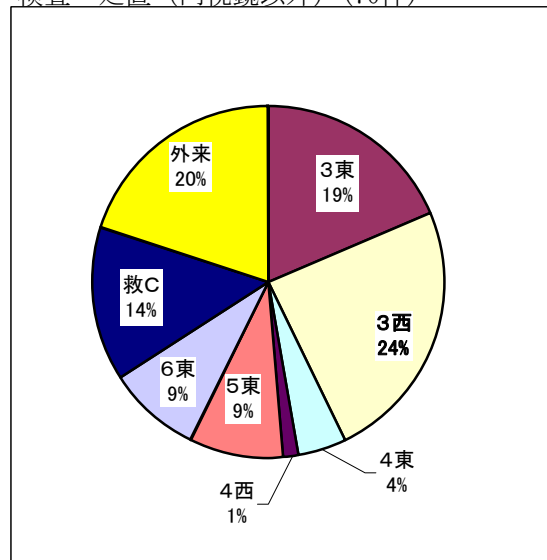
注射(99件)



転倒・転落(88件)



検査・処置(内視鏡以外)(70件)



(10) 学会・研究会発表および論文発表実績

循環器科

<学会発表>

第 204 回日本内科学会東海地方会 平成 20 年 2 月 16 日

胸部大動脈瘤気管穿通の 1 例

櫻井正人、谷村宗義、熊谷直人、加藤慎也、森木宣行、牧野克俊、小西得司

日本心血管インターベンション学会東海地方会 平成 20 年 4 月 12 日

Coronary stenting による側枝解離の 1 例

熊谷直人、牧野克俊、谷村宗義、加藤慎也、櫻井正人、森木宣行、小西得司

第 131 回日本循環器学会東海地方会 平成 20 年 6 月 21 日

急性腎不全で発症した腹部大動脈瘤-下大静脈穿通の 1 例

谷村宗義、櫻井正人、熊谷直人、加藤慎也、森木宣行、牧野克俊

第 206 回日本内科学会東海地方会 平成 20 年 10 月 4 日

運動後に右上肢の腫脹を認めた一例

近藤哲、森木宣行、熊谷直人、加藤慎也、櫻井正人、牧野克俊

第 206 回日本内科学会東海地方会 平成 20 年 10 月 4 日

Cheyne Stokes 呼吸合併慢性心不全に対して ASV 導入が著効した一例

熊谷直人、加藤慎也、櫻井正人、森木宣行、牧野克俊、高瀬幸次郎

第 132 回日本循環器学会東海地方会 平成 20 年 11 月 6 日

冠動脈奇形の 2 例

熊谷直人、加藤慎也、櫻井正人、森木宣行、牧野克俊

<研究会>

第 92 回三重循環器研究会 平成 20 年 3 月 6 日

Coronary stenting による側枝解離の 1 例

熊谷直人、牧野克俊、谷村宗義、加藤慎也、櫻井正人、森木宣行、小西得司

第 93 回三重循環器研究会

平成 20 年 6 月 6 日

急性腎不全で発症した腹部大動脈瘤-下大静脈穿通の 1 例

谷村宗義、櫻井正人、熊谷直人、加藤慎也、森木宣行、牧野克俊

第 94 回三重循環器研究会

平成 20 年 10 月 2 日

冠動脈奇形の 2 例

熊谷直人、加藤慎也、櫻井正人、森木宣行、牧野克俊

呼吸器科

<学会・地方会>

第 111 回日本結核病学会東海地方学会・第 93 回日本呼吸器学会東海地方学会

H20. 6. 21-6. 22 名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）

気管扁平上皮癌を合併した肺小細胞癌の 1 例

○都丸敦史、藤原研太郎、浦和昌史、大西真裕、丸山貴也、中原博紀、油田尚総、
吉田正道

エリスロマイシンが無効であった重症マイコプラズマ肺炎の 1 例

○藤原研太郎、都丸敦史、浦和昌史、大西真裕、丸山貴也、中原博紀、油田尚総、
吉田正道

血漿交換が奏効した肺胞出血を伴った顕微鏡的多発血管炎の 1 例

○浦和昌史、都丸敦史、藤原研太郎、大西真裕、丸山貴也、中原博紀、油田尚総、
吉田正道

肺嚢胞内に血腫を形成し喀血を来たした 1 例

○大西真裕、藤原研太郎、都丸敦史、浦和昌史、丸山貴也、中原博紀、油田尚総、
吉田正道

当院で新規に肺 MAC 症と診断した症例の検討

○油田尚総、都丸敦史、藤原研太郎、浦和昌史、大西真裕、丸山貴也、中原博紀、
吉田正道

第 112 回日本結核病学会東海地方学会・第 94 回日本呼吸器学会東海地方学会

H20. 11. 23-11. 24 岐阜市文化産業交流センター（じゅうろくプラザ）

スリガラス状陰影を呈した悪性リンパ腫の 1 例

○都丸敦史、藤原研太郎、浦和昌史、大西真裕、丸山貴也、中原博紀、油田尚総、吉田正道

エリスロマイシンが無効であった重症マイコプラズマ肺炎の 1 例

○藤原研太郎、都丸敦史、浦和昌史、大西真裕、丸山貴也、中原博紀、油田尚総、吉田正道

当院で経験した溺水 2 症例の検討

○浦和昌史、都丸敦史、藤原研太郎、大西真裕、丸山貴也、中原博紀、油田尚総、吉田正道

肺多型癌の 1 例

○大西真裕、都丸敦史、藤原研太郎、浦和昌史、丸山貴也、中原博紀、油田尚総、吉田正道

検診で発見され急速に増大した原発性肺クリプトコッカス症の 1 例

○中原博紀、都丸敦史、藤原研太郎、浦和昌史、大西真裕、丸山貴也、油田尚総、吉田正道

当院医師および看護師の結核感染状況について

○吉田正道、都丸敦史、藤原研太郎、浦和昌史、大西真裕、丸山貴也、中原博紀、油田尚総

第 207 回日本内科学会東海地方会

H21. 2. 14 三重県医師会館

急速進行性の間質性肺炎を契機に診断された皮膚筋炎の 1 剖検例

○内山智子、都丸敦史、藤原研太郎、浦和昌史、大西真裕、丸山貴也、中原博紀、油田尚総、吉田正道

<研究会>

第 6 回三重肺癌研究会

平成 20 年 6 月 28 日 三重大学医学部臨床第 2 講義室

気管扁平上皮癌を合併した肺小細胞癌の 1 例

○都丸敦史、藤原研太郎、浦和昌史、大西真裕、丸山貴也、中原博紀、油田尚総、吉田正道

第 13 回三重肺癌キモセラピー研究会 平成 20 年 7 月 11 日 グリーンパーク津
エルロチニブが著効した非小細胞肺癌の 1 例
○ 油田尚総、都丸敦史、藤原研太郎、浦和昌史、大西真裕、丸山貴也、中原博紀、
吉田正道

第 102 回三重胸部疾患症例検討会 平成 21 年 1 月 13 日 四日市都ホテル
急速に増大した結節性病変
○ 中原博紀、都丸敦史、藤原研太郎、浦和昌史、大西真裕、丸山貴也、油田尚総、
吉田正道

< 講演 >

第 278 回北勢地区呼吸器談話会 平成 20 年 4 月 21 日 四日市医師会館
最近経験した症例から 吉田正道

第 280 回北勢地区呼吸器談話会 平成 20 年 6 月 23 日 四日市医師会館
肺 MAC 症についてー見つけ方・診断基準を中心にー 油田尚総

第 282 回北勢地区呼吸器談話会 平成 20 年 9 月 22 日 四日市医師会館
最近経験した症例から 吉田正道

第 284 回北勢地区呼吸器談話会 平成 20 年 11 月 17 日 四日市医師会館
胸部 X 線読影 油田尚総

第 287 回北勢地区呼吸器談話会 平成 21 年 2 月 16 日 四日市医師会館
息切れを考える 吉田正道

南部病診連携の会 平成 20 年 7 月 14 日 笹川内科胃腸科クリニックホール
当院呼吸器科の現状。円滑な病診連携に向けて 吉田正道

三重県呼吸器教室・市民公開講座 平成 20 年 11 月 3 日 松阪市民文化会館大ホール
最近「息切れ」していませんか 吉田正道

三重中央地区 COPD セミナー 平成 21 年 2 月 13 日 三重中央医療センター講堂
COPD について 吉田正道

消化器科

<学会発表>

日本内科学会 第206回東海地方会 平成20年10月4日

間質性腎炎を呈した ANCA 関連腎炎の一例

貝沼圭吾、草川聡子、野尻圭一郎、森谷勲、山口由美、田嶋学、杉本和史、
高瀬幸次郎

日本消化器病学会 東海支部第108回例会 平成20年6月28日

ベンズブプロロンにより顕性化し、ステロイド加療中に *Edwardsiella tarda* による

敗血症を来たした自己免疫性肝炎の一例

草川聡子、野尻圭一郎、森谷勲、山口由美、田嶋学、杉本和史、高瀬幸次郎

三重肝胆膵研究会 平成20年11月26日 アスト津

肝生検にて診断しえた intravascular lymphoma の1例

近藤哲、草川聡子、森谷勲、山口由美、田嶋学、高瀬幸次郎

日本内科学会 第207回東海地方会 平成21年2月14日

Leriche 症候群を背景とした急性上腸間膜動脈閉塞症の1例

貝沼圭吾、草川聡子、森谷勲、山口由美、田嶋学、高瀬幸次郎、森木宣行、牧野克俊

神経内科

<学会>

第4回南部病診連携の会 平成20年12月8日

当院神経内科の現状

三重県立総合医療センター：鈴木賢治

第207回日本内科学会東海地方会 平成21年2月14日

横紋筋融解症にて発見された利尿剤、芍薬甘草湯による偽性アルドステロン症の1例

三重県立総合医療センター：小西章仁、河合寿謔、貝沼圭吾、古田智之、鈴木賢治

北勢地区学術講演会 平成21年3月4日

座長

三重県立総合医療センター：鈴木賢治

第123回日本神経学会東海北陸地方会 平成21年3月7日

rt-PA 投与を考慮し、脳梗塞を合併した大動脈解離の3例

三重県立総合医療センター：古田智之、鈴木賢治

第 5 回菰野地区脳卒中を考える会 平成 20 年 7 月 10 日

講演

三重県立総合医療センター：鈴木賢治

北勢地区学術講演会 地域連携パスを用いた脳梗塞治療

平成 20 年 9 月 2 日

座長

三重県立総合医療センター：鈴木賢治

慢性期における脳梗塞治療戦略

平成 20 年 6 月 18 日

座長

三重県立総合医療センター：鈴木賢治

第 3 回三重脳卒中医療連携研究会学術講演会

平成 20 年 3 月 27 日

パネリスト

三重県立総合医療センター：鈴木賢治

日経メディカル座談会

平成 20 年 2 月 14 日

パネリスト

三重県立総合医療センター：鈴木賢治

外科

<学会>

第 269 回三重外科集談会

津 2008.3.22

当科での下部消化管悪性腫瘍手術に於ける吻合方法の実際

尾嶋英紀、井上靖浩、川本文、森本雄貴、廣純一郎、問山裕二、小林美奈子、
荒木俊光、三木誓雄、楠正人

第 108 回日本外科学会定期学術集会

北海道 2008.5.16

Rendezvous method による術中 EST の経験

小西尚巳、池田哲也、西川隆太郎、伊藤秀樹、木下恒材、重盛千香、登内仁、
松本収生

第 108 回日本外科学会定期学術集会

長崎 2008.5.15-17

大腸癌における腫瘍組織中 MCP-1 発現の臨床病理学的意義

渡部秀樹、井上靖浩、横江毅、廣純一郎、尾嶋英紀、問山裕二、小林美奈子、
三木誓雄、楠正人

第 63 回日本消化器外科学会総会 札幌 2008.7.16-17

空腸癌異時性両側卵巣転移の 1 例

池田哲也、伊藤みのり、西川隆太郎、伊藤秀樹、小西尚巳、木下恒材、重盛千香、
登内仁

第 63 回日本消化器外科学会総会 北海道 2008.7.18

大腸穿孔症例の術後肺炎に関する検討

小西尚巳、西川隆太郎、伊藤秀樹、木下恒材、重盛千香、池田哲也、登内仁

日本乳癌学会 大阪 2008.9.27

地方中核病院におけるセンチネルリンパ節生検の取り組み

重盛千香、小椋剛寛、豊田俊、草野五男、岩田広治

日本乳癌学会 大阪 2008.9.27

乳がん診療における看護師による心的サポートー当院での取り組みー

村林麻子、古阪和代、谷口智香子、多田羅紀子、伊藤久仁子、重盛千香

第 276 回 東海外科学会 津 2008.10.5

当院におけるセンチネルリンパ節生検の取り組み

重盛千香、渡部秀樹、尾嶋英紀、伊藤秀樹、小西尚巳、木下恒材、池田哲也、
小椋剛寛、草野五男、豊田俊、登内仁、岩田広治

第 256 回東海外科学会 津 2008.10.5

腹腔鏡下に整復した S 状結腸間膜窩ヘルニアの一例

宮木崇典、渡部秀樹、尾嶋英紀、小西尚巳、伊藤秀樹、木下恒材、重盛千香、
池田哲也、登内仁

第 9 回バイオモジュレーション研究会 津 2008.10.10

腹腔鏡下に整復した内ヘルニアの 2 例

渡部秀樹 尾嶋英紀 小西尚巳 伊藤秀樹 木下恒材 重盛千香 池田哲也 登内 仁

第 46 回 日本癌治療学会総会 名古屋 2008.11.1

進行・再発胃癌に対する weekly CDDP/TS-1 療法の検討

木下恒材、渡部秀樹、尾嶋英紀、伊藤秀樹、小西尚巳、重盛千香、池田哲也、登内仁

三重がんフォーラム 津 2008.11.14

当科における直腸癌術前化学放射線療法の導入

尾嶋英紀、渡部秀樹、小西尚巳、伊藤秀樹、木下恒材、重盛千香、池田哲也、登内仁

<論文>

Postoperative weight loss during hospital stays in patients with gastric cancer undergoing surgical resection.

Tonouchi H, et al.

Hepatogastroenterology. 2008 Mar-Apr; 55(82-83):803-6.

Decreased expression of monocyte chemoattractant protein-1 predicts poor prognosis following curative resection of colorectal cancer.

Watanabe H, et al.

Dis Colon Rectum 2008 Dec;51(12):1800-5.

イレウスで発症した静脈硬化性大腸炎の1例

伊藤秀樹, 肥満智紀, 小西尚巳, 重盛千香、木下恒材, 池田哲也, 本泉誠

三重医学 第51巻, 第1-4号,9-13 2008.3

心臓血管外科・呼吸器外科

<学会・研究会発表>

第36回日本血管外科学会総会

平成20年4月17-18日 東京

急性A型大動脈解離の保存的治療例の検討

近藤智昭、天白宏典、井上健太郎、真栄城亮

Intramural hematomaを呈した急性A型解離の4例

天白宏典、近藤智昭、井上健太郎、真栄城亮

第25回日本呼吸器外科学会総会

平成20年5月29-30日 宇都宮

画像上Solitary fibrous tumor(SFT)の再々発と診断し手術を施行した1例

井上健太郎、天白宏典、真栄城亮、近藤智昭

術後早期に多発脳転移をきたし治療に難渋した縦隔卵黄嚢腫瘍の1例

天白宏典、真栄城亮、井上健太郎、近藤智昭

第51回関西胸部外科学会

平成20年6月19-20日 富山

僧帽弁疾患を合併しない心房細動例における左房内巨大球状血栓に対する1手術例

真栄城亮、井上健太郎、天白宏典、近藤智昭

大量出血によりショックを来たした胸部外傷の2例

天白宏典、近藤智昭、井上健太郎、真栄城亮

第94回三重循環器研究会

平成20年10月2日 四日市

発見様式の異なる Marfan 症候群に認めた AAE の 3 例

井上健太郎、近藤智昭、天白宏典、真栄城亮

第 276 回東海外科学会

平成 20 年 10 月 5 日 津

急速に腎不全に陥った腹部大動脈瘤—下大静脈瘻の 1 手術例

真栄城亮、天白宏典、井上健太郎、近藤智昭

第 49 回日本肺癌学会

平成 20 年 11 月 13-14 日 北九州

当科で経験した肺多形癌の 2 例

井上健太郎、天白宏典、真栄城亮、近藤智昭、油田尚総、吉田正道

周術期に脳転移をきたした非小細胞肺癌症例の検討

天白宏典、井上健太郎、近藤智昭、真栄城亮、吉田正道、油田尚総、中原博紀

脳神経外科

< 学会 >

神経救急学会

1 月 1 8 - 1 9 日

術前診断できなかった blood blister like aneurysm の 2 治験例

亀井裕介 梅田靖之 岡田昌彦

東海頭蓋底研究会

3 月 1 5 日

Petroclival meningioma の 2 例

亀井裕介 梅田靖之 岡田昌彦

第 1 0 回三重・大阪脳腫瘍カンファランス

5 月 1 6 日

優位脳静脈還流路側よりアプローチした petroclival meningioma の 1 例

亀井裕介 梅田靖之 藤本昌志 岡田昌彦 三浦洋一 石田藤麿 霜坂辰一

日本脊髄外科学会

6 月 1 1 - 1 3 日

髄内出血を繰り返した脊髄髄内海綿状血管種の一例

梅田靖之 亀井裕介 藤本昌志

頸椎前方固定術における移植腸骨固定にシリンダーケージを用いた一例

亀井裕介 梅田靖之 藤本昌志

第 1 0 回三重大阪脊椎脊髄外科シンポジウム

6 月 2 0 日

上位腰椎椎間板ヘルニアの 1 例

藤本昌志 亀井裕介 岡田昌彦

第59回三重脳神経外科集談会 7月4日

Interhemispheric transcallosal approachにて緊急開頭血腫除去術を行った、
鋳型脳室内血腫を伴う尾状核出血の2例

藤本昌志 梅田靖之 亀井裕介 岡田昌彦

第41回中部脊髄外科ワークショップ 8月30日

多発頸部動脈損傷を伴った頸椎骨折、頸髄損傷の一例

亀井裕介 藤本昌志 梅田靖之 岡田昌彦

第73回日本脳神経外科学会中部支部学術集会 10月25日

R A - M C A (M 2) bypassを一時的に用いてクリッピングを行った paraclinoid
Aneurysm の一例

亀井裕介 藤本昌志 梅田靖之 岡田昌彦

第67回日本脳神経外科学会学術総会 10月1-3日

内頸動脈前壁動脈瘤の4例

亀井裕介 藤本昌志 梅田靖之 岡田昌彦

第60回三重脳神経外科集談会 10月31日

多発頸部動脈損傷を伴った頸椎骨折、頸髄損傷の1例

藤本昌志 亀井裕介 岡田昌彦

第18回三重大学医学部脳神経外科同門会 12月13日

内頸動脈閉塞症に対し、急性期 embolectomy を施行した2例

藤本昌志 亀井裕介 岡田昌彦

Computational Fluid Dynamics を用いた頸部頸動脈内膜切除術後再狭窄メカニズム
の検討

梅田靖之 藤本昌志 亀井裕介 岡田昌彦

今年しびれた動脈瘤の2例 ―血栓との戦い―

亀井裕介 藤本昌志 岡田昌彦 三浦洋一 石田藤麿 霜坂辰一

小児科

<学会発表>

第242回日本小児科学会東海地方会（2008. 2. 11）

2006年度当科における血液培養694例の検討

内菌 広匡

第243回日本小児科学会東海地方大会（2008. 5. 11）

生後1ヶ月時に発症した良性乳児部分てんかんの1例

大槻 静

第244回日本小児科学会東海地方大会（2008. 10. 19）

痙攣重積型脳症の三例

内菌 広匡

第44回中部日本小児科学会（2008. 8. 24）

髄膜炎罹患時に発見されたOCRL1異常を持つDent病の1例

大槻 静

第44回日本周産期新生児医学会（2008. 7. 15）

当科で昨年度経験したHIV感染妊婦に対する母子感染防止

杉山 賢二

第304回北勢地区小児科臨床懇話会

生後1ヶ月時に発症した良性乳児部分てんかんの1例

太田 穂高

第306回北勢地区小児科臨床懇話会

無菌性髄膜炎罹患時に発見された蛋白尿症

大槻 静

第310回北勢地区小児科臨床懇話会

三重大医学部海外実習につきあって

タンザニア共和国 ムヒンビリ大学病院での実習

西森 久史

第3回三重卒後研修委員会 OSKE 大会

OTC欠損症の1歳女児例

佐々木 豪

産婦人科

<論文・著書>

- 1) 塚原優己、今井光信、松岡恵、谷口晴紀、井上孝実、源河いくみ、山田里佳、大金美和、嶋貴子、小林裕幸、矢永由里子、沼直美、内山正子、高田千恵子、辻麻里子：HIV母子感染予防対策マニュアル（第5版）．平成19年度厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)「HIV感染妊婦の早期診断と治療および母子感染予防に関する臨床的・疫学的研究」班 分担研究「わが国独自のHIV母子感染予防対策マニュアルの作成・改訂に関わる検討」グループ．2008年3月
- 2) 山田里佳、嶋貴子、今井光信、谷口晴記、和田裕一、塚原優己、稲葉憲之．妊婦HIVスクリーニング検査の偽陽性に関する検討．日本性感染症学会誌．19(1)：122-126, 2008.
- 3) 田中浩彦：日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医：後期研修のための専門医まる三重ガイド -MMC 後期研修ガイド 2009-
- 4) 田中浩彦：日本内視鏡外科学会技術認定医：後期研修のための専門医まる三重ガイド -MMC 後期研修ガイド 2009-
- 5) 田中浩彦：われわれの行う子宮癌手術 -ガイドラインに基づく婦人科癌治療- れんけい 2008

学会発表

- 1) 小林巧, 谷口晴記, 一尾卓生, 松野忠明, 田中浩彦, 川戸浩明, 関義長, 樋口恭仁子, 小林良成：巨大子宮筋腫の1例, 第4回 MMC 卒後研修臨床懇話会, 2008. 1. 20 (四日市)
- 2) 吉田佳代, 田中浩彦, 朝倉徹夫, 谷口晴記：我々が経験した胃型形質を発言する頸管腺過形成 endocervical glandular hyperplasia (EGH)の1例, 第122回東海産婦人科学会, 2008. 2. 18. (名古屋)
- 3) 草川聡子, 杉本和史, 橋本明, 森尚義, 谷口晴記：いきなりエイズの1例, 平成19年度三重 HIV 会議, 2008. 3. 14. (津)
- 4) 谷口晴記, 田中浩彦, 吉田佳代, 樋口恭仁子, 朝倉徹夫：特別な支援を必要とした外国人 HIV 感染妊婦の3症例, 第60回日本産婦人科学会総会, 2008. 4. 12 -16 (横浜)
- 5) 塚原優己, 井上孝実, 谷口晴記, 山田里佳, 明城光三, 大島教子, 林公一, 蓮尾泰之, 佐久本薫, 喜多恒和, 和田裕一, 稲葉憲之：わが国独自の「HIV 母子感染予防

対策マニュアル」改訂の骨子. 第 60 回日本産科婦人科学会総会. 2008. 04. 12-15 (横浜)

- 6) 森尚義, 谷口晴記: 多剤耐性に苦慮した 1 症例, 三重 HIV 講演会, 2008. 5. 30. (津)
- 7) 伊藤 譲子, 吉田 佳代, 田中 浩彦, 朝倉 徹夫, 谷口 晴記: 巨大未分化癌の一例, 三重県産婦人科腫瘍研究会, 2008. 6. 12 (津)
- 8) 谷口晴記, 塚原優己, 井上孝実, 山田里佳, 大金美和, 辻麻里子, 内山正子, 渡邊英恵, 源河いくみ, 外川正生, 喜多恒和, 稲葉憲之, 和田裕一: HIV 母子感染予防対策—マニュアル・改訂第 5 版について, 第 26 回日本産婦人科感染症研究会, 2008. 6. 14 (宮崎)
- 9) 田中浩彦, 伊藤譲子, 吉田佳代, 朝倉徹夫, 谷口晴記: 体内法腹腔鏡下手術後に判明した卵巣甲状腺腫性カルチノイドの 1 例: 第 48 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2008. 7. 31.-8. 2. (横浜)
- 10) 伊藤譲子, 吉田佳代, 田中浩彦, 朝倉徹夫, 谷口晴記, 帝王切開後に頭痛, 視覚異常を来し, 脊麻後頭痛が疑われた RPLS の一例, : 第 123 回東海産婦人科学会, 2008. 9. 07 (名古屋)
- 11) 谷口晴記, 伊藤譲子, 吉田佳代, 田中浩彦, 朝倉徹夫: HIV 母子患者のマネジメント—HIV 母子感染予防対策マニュアル・改訂第 5 版から—, 第 2 回日本医療マネジメント学会三重地方会, 2008. 9. 20 (津)
- 12) 谷口晴記, 塚原優己, 井上孝美, 山田里佳, 大金美和, 辻麻理子, 内山正子, 渡邊英恵, 源河いくみ, 吉野直人, 外川正生, 喜多恒和, 稲葉憲之, 和田裕一: HIV 母子感染予防対策マニュアル・改訂第 5 版の概要, 第 22 回日本エイズ学会, 2008. 11. 27 (大阪)
- 13) 森尚義, 谷口晴記: Darunavir と Raltegravir の併用が奏効した多剤耐性の症例, 第 22 回日本エイズ学会, 2008. 11. 28. (大阪)
- 14) 田中浩彦: 不妊症患者に対して腹腔鏡下子宮筋腫核出術を施行した 2 例: 第 1 回病診連携症例検討会 2008.12.3 (四日市)

講演会・座長

- 1) 座長: 谷口晴記: HIV の母子感染、第 82 回日本感染症学会ワークショップ (8)、2008. 4. 17-18 (島根)

整形外科

<学会発表>

第 18 回 三重関節鏡・関節外科研究会

20/10/30 津

モザイク形成術後 ACL 再建を施行した 2 例

森本剛司 松本寿夫 北尾 淳 川村豪伸 村木 真

第 30 回三泗整形医会

20/10/30 四日市

当院における軟骨損傷に対する治療の実際

北尾 淳 松本寿夫 森本剛司 川村豪伸 村木 真

第 2 回東海人工関節研究会

21/1/31 名古屋

UKA 施行後早期に大腿骨外顆骨折を生じ、TKA への再置換を行った一例

村木 真 松本寿夫 北尾 淳 森本剛司 川村豪伸

<講演>

骨と関節の日

20/10/18 四日市

変形性膝関節症の手術療法について

北尾 淳

皮膚科

<学会発表>

第 9 回 三重大学皮膚科同門会学会

平成 20 年 2 月 3 日

男性で著明な掻痒性皮疹と多発関節痛を伴った成人 S t i l l 病の 1 例

加古智子

泌尿器科

<学会>

第 43 回三重泌尿器科医会

(1 月 27 日・津市)

三重県立総合医療センター-泌尿器科における手術統計(2007)

栃木宏水、神田英輝、松浦 浩、亀田晃司、荒瀬栄樹

第 48 回 中北勢泌尿器科医会

(4 月 11 日・四日市市)

腎癌との鑑別に苦慮した腎周囲の膿瘍の 1 例

松浦 浩、神田英輝、栃木宏水、亀田晃司

騎乗型会陰部打撲による尿道断裂の 1 例

神田英輝、松浦 浩、栃木宏水、亀田晃司

< 誌上発表 >

Naftopidil, a selective α -1 adrenoceptor antagonist, inhibits growth of human prostate cancer cells by G1 cell cycle arrest

Hideki Kanda, Kenichiro Ishii, Yuji Ogura, Tetsuya Imamura, Masahiro Kanai, Kiminobu Arima, Yoshiki Sugimura

International Journal of Cancer 122 : 444-451, 2008

Improvement to predict tumorigenic phenotype of androgen-insensitive human LNCaP prostatic cancer cell subline in recombination with rat urogenital sinus mesenchyme

Masahiro Kanai, Kenichiro Ishii, Hideki Kanda, Yuji Ogura, Hideaki Kise, Kiminobu Arima, Yoshiki Sugimura

Cancer Science 99(12) : 2435-2443, 2008

耳鼻咽喉科

< 研究会発表 >

第 92 回 北勢耳鼻咽喉科談話会

平成 20 年 3 月 13 日 ロワジュールホテル四日市

「喉頭肉芽腫症と薬物治療」

三重県立総合医療センター 耳鼻咽喉科 鈴木慎也

< 研究会座長 >

小児アレルギーフォーラム in 四日市 2008

平成 20 年 2 月 21 日 ロワジュールホテル四日市

三重県立総合医療センター 耳鼻咽喉科 有馬忍

第 93 回 北勢耳鼻咽喉科談話会

平成 20 年 11 月 6 日 ロワジュールホテル四日市

三重県立総合医療センター 耳鼻咽喉科 有馬忍

麻酔科

< 学会・研究発表 >

合併症予防のポイント 18

OPE nursing 2008 vol.23 No8 84-88

古橋一壽

日本麻酔科学会東海・北陸支部第 6 回学術集会

平成 20 年 9 月 13 日 岐阜市文化産業交流センター

下肢麻痺を伴う病的肥満患者の腹臥位手術の 1 症例

木崎理絵、岩佐愛子、川端広憲、古橋一壽

3. 統計データ

(1) 患者統計

平成19年 診療科別外来延べ患者数

科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	571	516	642	553	589	467	567	649	532	546	554	818	7,004
外科	1,059	891	1,103	1,023	1,102	1,108	1,105	1,158	964	1,134	1,156	1,091	12,894
心臓血管外科	181	127	170	138	139	151	151	140	148	168	129	146	1,788
脳神経外科	447	428	470	461	493	491	504	505	461	482	528	491	5,761
小児科	1,031	1,077	1,183	1,031	1,087	1,028	1,032	1,108	881	1,078	1,072	1,345	12,953
産婦人科	1,173	1,124	1,141	1,038	1,198	1,187	1,227	1,278	1,109	1,337	1,117	1,126	14,055
整形外科	1,112	1,016	1,210	1,092	1,202	1,122	1,154	1,280	1,087	1,327	1,245	1,162	14,009
リハ科	439	380	438	457	484	415	472	494	358	463	460	437	5,297
皮膚科	605	521	602	600	704	635	708	250	650	674	638	571	7,158
泌尿器科	715	747	750	716	754	696	749	797	669	806	759	699	8,857
眼科			1		2								3
耳鼻咽喉科	564	533	530	533	564	569	473	604	512	705	652	742	6,981
精神科	542	547	579	566	585	547	584	641	518	603	565	553	6,830
放射線科	153	248	225	208	178	213	241	265	185	243	319	198	2,676
神経内科	320	362	405	372	345	381	418	405	382	400	363	376	4,529
循環器科	1,272	1,241	1,407	1,249	1,299	1,271	1,365	1,350	1,126	1,372	1,244	1,170	15,366
呼吸器科	979	903	1,008	991	1,022	1,038	977	996	881	1,089	1,017	1,055	11,956
消化器科	1,358	1,327	1,433	1,307	1,317	1,280	1,315	1,265	1,210	1,374	1,332	1,274	15,792
呼吸外科	25	25	37	22	25	31	43	30	26	32	43	40	379
合計	12,546	12,013	13,334	12,357	13,089	12,630	13,085	13,215	11,699	13,833	13,193	13,294	154,288

平成19年 診療科別外来延べ患者数

科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科			6										6
外科	1,037	871	909	762	1,106	1,185	1,199	1,278	1,219	1,414	1,333	1,431	13,744
心臓血管外科	262	347	388	378	386	404	383	281	255	194	335	471	4,084
脳神経外科	561	470	651	725	679	700	836	679	677	610	617	615	7,820
小児科	989	943	753	814	858	774	899	907	819	827	910	1,119	10,612
産婦人科	901	765	883	869	973	914	827	816	795	898	848	757	10,246
整形外科	903	867	878	698	841	979	934	814	802	1,042	1,120	1,177	11,055
リハ科													
皮膚科	21	71	31	33	55	34	43		3	22	24	12	349
泌尿器科	218	232	320	216	256	279	318	364	378	412	358	341	3,692
眼科													
耳鼻咽喉科	141	164	166	154	211	94	74	108	134	284	242	183	1,955
精神科													
放射線科													
神経内科	456	337	416	342	444	513	450	537	575	685	600	523	5,878
循環器科	968	850	868	867	796	872	726	783	701	814	949	953	10,147
呼吸器科	1,085	1,056	1,194	1,079	1,069	1,246	1,586	1,386	1,092	1,018	1,061	1,125	13,997
消化器科	880	919	982	774	858	1,041	1,132	1,244	1,171	1,414	1,134	963	12,512
呼吸外科	227	180	189	253	257	125	210	200	174	133	132	204	2,284
合計	8,649	8,072	8,634	7,964	8,789	9,160	9,617	9,397	8,795	9,767	9,663	9,874	108,381

入退院状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
新入院数	696	648	685	634	732	675	694	656	621	756	740	709	8,246
内紹介入院数	89	74	78	68	86	80	85	67	57	77	73	85	919
内救急入院数	135	75	88	96	99	103	94	99	103	118	129	163	1,302
転科入院数	32	43	31	26	32	26	37	31	30	41	39	31	399
退院数	619	647	715	631	682	708	665	687	612	726	721	795	8,208
内死亡退院数	26	20	27	29	20	25	24	29	23	23	23	33	302
転科退院数	32	43	31	26	32	26	37	31	30	41	39	31	399
平均在院日数	13.2	12.5	12.3	12.6	12.4	13.2	14.2	14.0	14.3	13.2	13.2	13.1	13.2

外来通院状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
延患者数	12,546	12,013	13,334	12,357	13,089	12,630	13,085	13,215	11,699	13,833	13,193	13,294	154,288
初診数	1,647	1,579	1,719	1,643	1,839	1,747	1,837	1,865	1,594	1,744	1,726	2,004	20,944
内紹介患者数	369	397	421	445	456	493	535	476	418	541	522	433	5,506
内救急患者数	922	858	916	846	934	689	867	891	874	813	831	1,331	10,772
平均通院日数	7.6	7.6	7.8	7.5	7.1	7.2	7.1	7.1	7.3	7.9	7.6	6.6	7.4

(2) 図書蔵書状況

蔵書状況(2008年12月31日現在)

	図書	製本雑誌	視聴覚資料	計
外国	149冊	0冊	0巻	149
国内	1236冊	0冊	79巻	1315
合計	1385冊	0冊	79巻	1464

雑誌受入タイトル数

外国雑誌	75タイトル
国内雑誌	86タイトル
計	161タイトル

A	ACTA RADIOLOGICA ONCOLOGY AMERICAN HEART JOURNAL AMERICAN JOURNAL OF CARDIOLOGY AMERICAN JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY AMERICAN JOURNAL OF KIDNEY DISEASES AMERICAN JOURNAL OF MEDICINE AMERICAN JOURNAL OF NEURORADIOLOGY AMERICAN JOURNAL OF OBSTETRICS & GYNECOLOGY AMERICAN JOURNAL OF OPHTHALMOLOGY AMERICAN JOURNAL OF PSYCHIATRY AMERICAN JOURNAL OF RESPIRATORY AND CRITICAL CARE MEDICINE AMERICAN JOURNAL OF RESPIRATORY CELL AND MOLECULAR BIOLOGY AMERICAN JOURNAL OF ROENTGENOLOGY AMERICAN JOURNAL OF SURGERY ANESTHESIOLOGY ANESTHESIA & ANALGESIA ANNALS OF INTERNAL MEDICINE ANNALS OF OTOTOLOGY, RHINOLOGY & LARYNGOLOGY ANNALS OF SURGERY ANNALS OF THORACIC SURGERY ARCHIVES OF DERMATOLOGY ARCHIVES OF DISEASE IN CHILDHOOD ARCHIVES OF NEUROLOGY ARCHIVES OF OPHTHALMOLOGY ARCHIVES OF OTOLARYNGOLOGY HEAD & NECK SURGERY AURIS NASUS LARYNX	24 – 40 <1985 – 1999>/ 117 – 156<1989 – 2008>+ 65 – 83 <1990 – 1999>/ 85 – 101<1990 – 2006>/ 43 – 48, 52<2004 – 2008>/ 78 – 112 <1985 – 2002>/ 17 – 23<1996 – 2002>/ 162 – 181<1990 – 1999>/ 109 – 140<1990 – 2005>/ 141 – 158 <1984 – 2001>/ 145 – 178<1992 – 2008>+ 17 (3) <1997>/ 144 – 191<1985 – 2008>+ 163 – 194, 195(1-3) <1992 – 2008>/ 62 – 109<1985 – 2008>+ 104 – 107<2007 – 2008>+ 102 – 149 <1985 – 2008>+ 95 – 108<1986 – 1999>/ 211 – 248<1990 – 2008>+ 58 – 86<1994 – 2008>+ 126 – 135<1990 – 1999>/ 65 – 81 <1990 – 1999>/ 59 – 60 <2002 – 2003>/ 97 – 117<1979 – 1999>/ 112 – 134<1994 – 2008>+ 29 – 35<2002 – 2008>+
B	BJU INTERNATIONAL BLOOD BRITISH JOURNAL OF SURGERY BRITISH JOURNAL OF UROLOGY (BJU)	73 – 102<1989 – 2008>+ 75 – 94 <1985 – 1999>/ 79 – 95<1992 – 2008>+ 69 – 82 <1992 – 1998>/
C	CANCER CANCER CYTOPATHOLOGY CHEST CIRCULATION CLINICAL INFECTIOUS DISEASES CLINICAL OBSTETRICS AND GYNECOLOGY CLINICAL ORTHOPAEDICS AND RELATED RESEARCH CURRENT OPINION IN ANESTHIOLOGY	62 – 89<1988 – 2000>/ 93<2001>/ 127 – 134<2005 – 2008>+ 73 – 118<1986 – 2008>+ 34 – 39<2002 – 2004>/ 28 – 35<1985 – 1992>/ 418 – 466<2004 – 2008>+ Online (18 – 19<2005 – 2006>/)
D	DIABETES : A JOURNAL OF THE AMERICAN DIABETES ASSOCIATION DIGESTIVE DISEASES & SCIENCES DISEASES OF THE COLON & RECTUM	38 – 53<1989 – 2004>/ 35 – 37<1990 – 1992>/ 34 – 43<1991 – 2000>/
E	ENDOSCOPY	24 – 31 <1992 – 1999>/
G	GASTROENTEROLOGY GYNECOLOGIC ONCOLOGY	110 – 135<1996 – 2008>+ 60 – 95<1996 – 2004>/
H	HEPATOLOGY	31 – 40 <2000 – 2004>/
J	JOURNAL OF ALLERGY AND CLINICAL IMMUNOLOGY JOURNAL OF BONE AND JOINT SURGERY JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY JOURNAL OF CLINICAL ENDOCRINOLOGY & METABOLISM JOURNAL OF CLINICAL INVESTIGATION JOURNAL OF HEPATOLOGY JOURNAL OF NEUROLOGY NEUROSURGERY & PSYCHIATRY JOURNAL OF NEUROSURGERY JOURNAL OF ORTHOPAEDICS SCIENCE JOURNAL OF PEDIATRICS JOURNAL OF THE AMERICAN COLLEGE OF CARDIOLOGY JOURNAL OF THORACIC AND CARDIOVASCULAR SURGERY JOURNAL OF UROLOGY	75 – 108 <1985 – 2001>/ 67 – 90<1985 – 2008>+ 20 – 21,26<2002 – 2008>/ 70 – 84<1990 – 1999>/ 85 – 103 <1990 – 1999>/ 44 – 49<2006 – 2008>+ 72 – 77<2002 – 2006>/ 102 – 109<2005 – 2008>+ 13 <2008 – 2008>+ 116 – 153<1990 – 2008>+ 27 – 50<1996 – 2007>/ 89 – 136<1985 – 2008>+ 143 – 180<1990 – 2008>+
N	NATURE NATURE MEDICINE NEUROLOGY NEUROLOGY IN PRACTICE NEW ENGLAND JOURNAL OF MEDICINE	355 – 396<1992 – 1998>/ 6<2000>/ 64 – 71<2005 – 2008>+ 72 – 78<2002 – 2007>/ 327 – 347, 348(14 – 28) , 349 – 359 <1992 – 2008>+
L	LANCET LARYNGOSCOPE	335 – 336,342 – 344,347 – 352,354 – 371<1990 – 2008>+ 118<2008 – 2008>+
O	OBSTETRICS & GYNECOLOGY	95 – 112<2000 – 2008>+
P	PEDIATRICS PEDIATRIC CLINICS PEDIATRICS INTERNATIONAL POSTGRADUATE MEDICINE	98 – 122 <1996 – 2008>+ 32 – 42 <1985 – 1995>/ 50 <2008 – 2008>+ 115 – 117,118(1-5),119(1,2) <2004 – 2006>/
S	STROKE SURGERY, GYNECOLOGY & OBSTETRICS SURGICAL CLINICS SURGICAL NEUROLOGY	26 – 35<1995 – 2004>/ 160 – 161, 163 – 181<1985 – 1995>/ 65 – 81 <1985 – 2001>/ 45 – 62<1996 – 2004>/
U	UROLOGY	40 – 72<1992 – 2008>+

A	CLINICAL ENGINEERING CLINICAL NEUROSCIENCE CLINICAL PRACTICE JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION LISA MEDICAL TECHNOLOGY MEDICINA RAD FAN THE MEDICAL & TEST JOURNAL	17<2006-2006>/ 20-26<2002-2008>+ 23-25, 26(1-8) <2004-2007>/ 13-16<2004-2007>/ 9-14<2004-2006>/ 30-36<2002-2008>+ 45 <2008-2008>+ 3-6<2005-2008>+ <2002-2004> /
あ	医学のあゆみ 胃と腸 医薬ジャーナル 医療経営最前線看護部マネジメント編 栄養評価と治療	136-199<1983-2001>/ 20-42<1985-2007>/ 31-37 <1995-2001>/ 172-176<2003-2003>/ 22-25<2005-2008>+ 45-60<1992-2008>+ 35-49<1989-2008>+ 18-24, 28-29<1993-2004>/ 1 <2008-2008>+ 3-6<2005-2008>+ 31-45 <1985-1999>/ 1<2004-2004>/ 30-32<2006-2008>+ 55-57<2002-2004>/ 47-70<1985-2008>+ 27-38 <1985-1996> / 52-85 <1985-2001>/ 24-39<1992-1999> / 13-22<1999-2008>+ 91 <2008-2008>/ 44-45 <2002-2003>/ 30-36<2002-2008>+ 5-6<2007-2008>/ 33-47<1985-1999>/
か	看護 看護教育 看護展望 がんケアナビ がんサポート 癌の臨床 がんを治す完全ガイド 救急医学 胸部外科 外科 外科診療 外科治療 血液・腫瘍科 月刊地域医学 月刊福祉 月刊薬事 検査と技術 呼吸器ケア 呼吸と循環	45-60<1992-2008>+ 35-49<1989-2008>+ 18-24, 28-29<1993-2004>/ 1 <2008-2008>+ 3-6<2005-2008>+ 31-45 <1985-1999>/ 1<2004-2004>/ 30-32<2006-2008>+ 55-57<2002-2004>/ 47-70<1985-2008>+ 27-38 <1985-1996> / 52-85 <1985-2001>/ 24-39<1992-1999> / 13-22<1999-2008>+ 91 <2008-2008>/ 44-45 <2002-2003>/ 30-36<2002-2008>+ 5-6<2007-2008>/ 33-47<1985-1999>/
さ	産科と婦人科 産婦人科治療 産婦人科の実際 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 周産期医学 手術 消化器外科 小児科 小児科診療 小児科臨床 小児外科 小児内科 神経内科 心身医学 診断と治療 整形・災害外科 整形外科 精神医学 精神科治療学 脊椎骨髄ジャーナル 総合リハビリテーション 総合臨床	52-66 <1985-1999> / 55-97<1987-2008>+ 34-52<1985-2003>/ 63-80<1991-2008>+ 34-37<2004-2007>/ 61-62<2007-2008>+ 27-31<2004-2008>+ 26-32<1985-1991>/ 52-64 <1989-2001>/ 38-61<1985-2008>+ 13-23<1981-1991>/ 17-40<1985-2008>+ 56-69<2002-2008>+ 27-40 <1987-2000> / 73-96<1985-2008>+ 33-51<1990-2008>+ 36-42, 47-59<1985-2008>+ 33-41 <1991-1999>/ 16-23<2001-2008>+ 21 <2008-2008>+ 33-36<2005-2008>+ 34-56<1985-2007>/ 72-83<1990-2001>/ 10-14<2004-2008>+ 4-5 <2002-2003>/ 47-102<1981-2008>+ <1998-2004>/ 45-62<1987-2004>/ 42-44<1991-1993>/ 61-67<2002-2008>+ 33-34<2005-2006>/ 15-18<2005-2008>+ 37-47, 56-59<1985-2007>/
た	治療 調剤と情報	72-83<1990-2001>/ 10-14<2004-2008>+
な	ナースマネージャー 内科 日本医事新報 日本臨床 日本眼科紀要 日本胸部臨床 脳神経外科 脳神経外科速報 脳と神経	4-5 <2002-2003>/ 47-102<1981-2008>+ <1998-2004>/ 45-62<1987-2004>/ 42-44<1991-1993>/ 61-67<2002-2008>+ 33-34<2005-2006>/ 15-18<2005-2008>+ 37-47, 56-59<1985-2007>/
は	泌尿器外科 皮膚科の臨床 病院 婦長主任新事情	13-21<2000-2008>+ 27-50<1985-2008>+ 63-66<2004-2007>/ 1-3, 6-7<1996-2002>/
ま	麻酔	44-48, 54-57<1995-2008>+
や	薬局	55-59<2004-2008>+
ら	理学療法 臨床栄養 臨床画像 臨床眼科 臨床看護 臨床外科 臨床整形外科 臨床精神医学 臨床脳波 臨床泌尿器科 臨床婦人科産科 臨床放射線 臨床麻酔 レジデントノート	24-25<2007-2008> + 88-113<1996-2008>+ 18-24<2002-2008>+ 45-59<1991-2005>/ 22-34<1996-2008>+ 40-61<1985-2006>/ 23-43<1988-2008>+ 14-33 <1985-2004>/ 27-33<1985-1991>/ 43-62<1989-2008> + 39-45, 62<1985-2008> + 37-53<1992-2008>+ 31-32<2007-2008> + 5(10-12), 6-10<2003-2008>+

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C0239	皮膚の良性新生物	男女	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0240	乳房の良性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0241	子宮平滑筋腫	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0242	卵巣の良性新生物	男女	84	0	0	0	0	84	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0243	泌尿器の良性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0244	中枢神経系のその他の新生物	男女	47	0	1	0	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0245	その他の新生物	男女	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
C0300	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	男女	9	0	0	0	6	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0
C0301	鉄欠乏性貧血	男女	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0302	その他の貧血	男女	118	0	12	0	2	0	1	0	13	18	0	0	3	67	2
C0303	出血性の病態並びにその他の血液、造血器	男女	61	0	4	0	2	0	19	1	0	7	0	0	0	26	2
C0304	免疫機構の障害	男女	16	0	1	0	0	6	0	0	1	0	1	5	0	2	0
C0400	内分泌、栄養及び代謝疾患	男女	22	0	6	0	0	6	0	1	0	0	3	0	5	1	0
C0401	甲状腺中毒症	男女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
C0402	甲状腺炎	男女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
C0403	その他の甲状腺障害	男女	3	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
C0404	インスリン依存性糖尿病	男女	8	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	4	0	0
C0405	インスリン非依存性糖尿病	男女	9	0	0	0	0	3	0	0	1	0	1	3	0	1	0
C0406	その他の糖尿病	男女	11	0	6	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0
C0407	卵巣機能障害	男女	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0408	栄養失調及びビタミン欠乏症	男女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0409	肥満症	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0410	高脂血症	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0411	体液量減少	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0412	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	男女	3	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0
C0500	精神及び行動の障害	男女	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	7	4	5	0
C0501	血管性及び詳細不明の痴呆	男女	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	4	4	2	6
C0502	アルコール使用による精神及び行動の障害	男女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0
C0503	その他の精神作用物質使用の精神、行動障害	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0504	精神分裂病、分裂病及び妄想性障害	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0505	気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0506	神経症性障害、ストレス及び身体表現性障害	男女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
C0507	精神遅滞	男女	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3	0
C0508	その他の精神及び行動の障害	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0600	神経系の疾患	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0601	髄膜炎	男女	7	0	0	0	0	5	0	0	0	2	0	0	0	0	0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C0602	中枢神経系の炎症性疾患	男女	6	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0
C0603	脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	男女	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0
C0604	パーキンソン病	男女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
C0605	アルツハイマー病	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0606	多発性硬化症	男女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
C0607	てんかん	男女	45	0	0	0	6	22	0	0	0	0	16	0	1	0	0
C0608	片頭痛及びその他の頭痛症候群	男女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0609	一過性脳虚血性発作及び関連性症候群	男女	10	0	0	0	3	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0
C0610	睡眠障害	男女	11	0	0	0	0	4	0	0	0	5	0	2	0	0	0
C0611	神経、神経根及び神経そのの障害	男女	8	0	0	0	0	1	0	3	0	0	3	1	0	0	0
C0612	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	男女	3	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
C0613	自律神経系の障害	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0614	その他の神経系の疾患	男女	37	0	1	0	17	1	0	0	0	0	13	1	1	3	0
C0700	眼及び付属器の疾患	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0701	麦粒腫及びさん粒腫	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0702	涙器の障害	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0703	結膜炎	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0704	角膜炎	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0705	白内障	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0706	網膜剥離及び裂孔	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0707	網膜血管閉塞症	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0708	緑内障	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0709	斜視	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0710	屈折及び調節の障害	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0711	盲く失明及び低視力	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0712	その他の眼及び付属器の疾患	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0800	耳及び乳様突起の疾患	男女	36	0	0	0	6	0	0	0	0	23	2	3	0	2	0
C0801	外耳炎	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0802	耳垢栓塞	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0803	その他の外耳疾患	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0804	中耳炎	男女	12	0	0	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0
C0805	耳管炎	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0806	耳管閉塞	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0807	中耳真珠腫	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0808	その他の中耳及び乳様突起の疾患	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0809	メニエール病	男女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C0810	中枢性めまい	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0811	その他の内耳疾患	男女	20	0	0	0	0	0	0	0	0	13	2	3	0	2	0
C0812	難聴	男女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
C0813	その他の耳疾患	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0900	循環器系の疾患	男女	806	0	7	87	95	2	0	2	0	0	115	462	10	25	1
C0901	本態性高血圧	男女	457	0	7	34	92	7	4	1	0	0	64	221	11	16	0
C0902	高血圧性心疾患	男女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
C0903	高血圧性腎疾患	男女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
C0904	高血圧性心腎疾患	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0905	二次性高血圧症	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0906	狭心症	男女	221	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	198	0	0	0
C0907	急性心筋梗塞	男女	55	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	51	0	0	0
C0908	冠動脈硬化症	男女	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49	1	0	0
C0909	陳旧性心筋梗塞	男女	24	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	18	1	3	0
C0910	その他の虚血性心疾患	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0911	慢性リウマチ性心疾患	男女	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
C0912	慢性非リウマチ性心内膜疾患	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0913	心筋症	男女	15	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0
C0914	不整脈及び伝導障害	男女	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0
C0915	心不全	男女	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	1	0	0
C0916	その他の心疾患	男女	20	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	18	0	1	0
C0917	くも膜下出血	男女	82	0	0	4	0	0	0	0	0	0	2	71	4	1	0
C0918	脳内出血	男女	72	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	69	1	0	0
C0919	脳梗塞	男女	13	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	8	1	2	0
C0920	脳動脈硬化	男女	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	2	2	0
C0921	その他の脳血管疾患	男女	10	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
C0922	肺塞栓症	男女	48	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0
C0923	動脈硬化	男女	48	0	0	0	46	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
C0924	大動脈瘤及び解離	男女	127	0	0	0	9	1	0	0	0	0	110	2	2	3	0
C0925	レイノー症候群	男女	75	0	0	0	6	0	0	0	0	0	58	7	3	1	0
C0926	動脈の塞栓症及び血栓症	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0927	その他の動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0928	静脈炎、静脈の塞栓症及び血栓症	男女	34	0	0	0	32	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
C0929	下肢の静脈瘤	男女	21	0	0	0	17	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
C0930	痔核	男女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
C0931	食道静脈瘤	男女	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C0932	低血圧症	男女	2 5	0 0	0 0	0 0	1 5	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0933	その他の循環器系の疾患	男女	2 4	0 0	0 0	1 0	0 0	0 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	1 0
C1000	呼吸器系の疾患	男女	700 320	0 0	0 2	0 0	248 141	0 1	0 0	0 0	0 0	81 39	1 3	31 16	297 109	7 6	35 2
C1001	急性鼻咽頭炎	男女	5 5	0 0	0 0	0 0	4 3	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 1	0 0	0 0
C1002	急性副鼻腔炎	男女	1 2	0 0	0 0	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0
C1003	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	男女	45 17	0 0	0 0	0 0	27 11	0 0	0 0	0 0	0 0	17 6	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0
C1004	急性喉頭炎及び気管炎	男女	3 4	0 0	0 0	0 0	3 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1005	その他の急性上気道感染症	男女	15 16	0 0	0 0	0 0	8 5	0 0	0 0	0 0	0 0	5 8	0 0	0 0	2 3	0 0	0 0
C1006	インフルエンザ	男女	10 5	0 0	0 0	0 0	8 4	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 1	1 0	0 0	0 0
C1007	肺炎	男女	207 107	0 0	0 2	0 0	51 34	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2	20 9	131 58	3 2	2 0
C1008	急性気管支炎	男女	70 48	0 0	0 0	0 0	69 46	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 2	0 0	0 0
C1009	急性細気管支炎	男女	13 7	0 0	0 0	0 0	12 7	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0
C1010	アレルギー性鼻炎	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1011	慢性副鼻腔炎	男女	16 5	0 0	0 0	0 0	3 0	0 0	0 0	0 0	0 0	13 5	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1012	その他の鼻及び副鼻腔の疾患	男女	4 6	0 0	0 0	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	3 5	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1013	扁桃及びアデノイドの慢性疾患	男女	15 7	0 0	0 0	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	14 6	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1014	その他の上気道の疾患	男女	30 8	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	29 8	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1015	急性、慢性と明示されない気管支炎	男女	4 3	0 0	0 0	0 0	3 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0
C1016	慢性閉塞性肺疾患	男女	30 5	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	28 4	0 0	1 0
C1017	喘息	男女	69 37	0 0	0 0	0 0	50 20	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 2	18 15	0 0	0 0
C1018	気管支拡張症	男女	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 1	0 0	0 0
C1019	じん肺	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1020	間質性肺疾患	男女	20 7	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	16 6	2 0	2 1
C1021	気胸	男女	80 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	59 1	0 0	21 0
C1022	その他の呼吸器系の疾患	男女	62 29	0 0	0 0	0 1	6 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 1	6 3	38 18	2 3	9 1
C1100	消化器系の疾患	男女	559 322	0 0	253 143	0 0	2 9	16 5	0 1	0 0	1 1	2 1	0 0	6 3	9 5	270 154	0 0
C1101	う蝕	男女	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0
C1102	歯肉炎及び歯周疾患	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1103	その他の歯及び歯の支持組織の障害	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1104	口内炎及び関連疾患	男女	3 1	0 0	0 0	0 0	3 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1105	その他の口腔、唾液腺及び顎の疾患	男女	2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1106	胃潰瘍	男女	41 12	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	2 0	1 0	37 11	0 0
C1107	十二指腸潰瘍	男女	20 5	0 0	9 1	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	10 3	0 0
C1108	部位不明の消化性潰瘍	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1109	胃炎及び十二指腸炎	男女	4 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	4 1	0 0
C1110	その他の食道、胃及び十二指腸の疾患	男女	15 10	0 0	6 1	0 0	2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2	7 7	0 0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C1111	虫垂の疾患	男女	44	0	40	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0
			27	0	25	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1112	鼠径ヘルニア	男女	78	0	77	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
			19	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1113	その他のヘルニア	男女	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			15	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
C1114	クローン病	男女	6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
			1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1115	潰瘍性大腸炎	男女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
			4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
C1116	腸閉塞	男女	59	0	22	0	0	4	0	0	0	0	0	0	1	32	0
			40	0	13	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	24	0
C1117	過敏性腸症候群	男女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1118	便秘	男女	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0
			4	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0
C1119	裂肛及び痔瘻	男女	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1120	その他の胃腸の疾患	男女	44	0	15	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	27	0
			35	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0
C1121	腹膜炎の疾患	男女	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			7	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0
C1122	アルコール性肝疾患	男女	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9	0
			2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
C1123	慢性肝炎	男女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
			5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
C1124	肝硬変	男女	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
			6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	0
C1125	その他の肝疾患	男女	26	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	23	0
			16	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	14	0
C1126	胆石症	男女	93	0	45	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	45	0
			62	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	0
C1127	胆のう炎	男女	24	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	14	0
			8	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
C1128	急性膵炎	男女	13	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0
			3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
C1129	慢性膵炎	男女	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1130	その他の膵疾患	男女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1131	その他の消化器系の疾患	男女	51	0	11	0	2	1	0	0	0	0	0	2	1	34	0
			37	0	10	0	0	2	2	0	0	0	0	3	0	20	0
C1200	皮膚及び皮下組織の疾患	男女	32	0	0	1	0	8	0	6	9	0	2	0	1	4	0
			33	0	2	3	0	9	0	2	6	0	1	0	4	2	4
C1201	皮膚及び皮下組織の感染症	男女	23	0	0	1	0	6	0	4	5	0	2	0	0	4	0
			20	0	2	3	0	7	0	0	0	0	1	0	3	2	0
C1202	アトピー性皮膚炎	男女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1203	接触皮膚炎	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1204	その他の皮膚炎及び湿疹	男女	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
			3	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0
C1205	幹せん及びその他の丘疹落せつ性障害	男女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1206	じんま疹	男女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
C1207	爪の障害	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1208	脱毛症	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1209	ざ瘡	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1210	色素異常症	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1211	うおのめ及びべんち	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1212	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	男女	4	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0
			9	0	0	0	0	1	0	2	4	0	0	0	0	2	0
C1300	筋骨格系及び結合組織の疾患	男女	179	0	2	2	47	10	0	93	0	0	0	4	4	8	9
			192	0	2	0	23	17	0	136	0	0	0	4	3	6	1
C1301	慢性関節リウマチ	男女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
			4	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C1302	痛風	男 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1303	その他の炎症性多発性関節障害	男 3	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
		女 11	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
C1304	関節症	男 16	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	1	0	0	0	0
		女 64	0	2	0	0	0	0	62	0	0	0	0	0	0	0	0
C1305	四肢の後天性変形	男 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1306	膝内障	男 20	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 25	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0
C1307	関節痛	男 1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1308	その他の関節障害	男 9	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 7	0	0	0	0	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0
C1309	全身性エリテマトーデス	男 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1310	乾燥症候群	男 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1311	ベーチェット病	男 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
		女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1312	その他の全身性結合組織障害	男 10	0	0	0	0	6	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0
		女 9	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
C1313	脊椎障害	男 63	0	0	0	40	0	0	18	0	0	2	1	2	0	0	0
		女 32	0	0	0	19	0	0	9	0	0	3	1	0	0	0	0
C1314	椎間板障害	男 22	0	2	0	7	0	0	11	0	0	1	0	0	1	0	0
		女 10	0	0	0	3	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
C1315	頸腕症候群	男 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1316	腰痛症及び坐骨神経痛	男 4	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0
		女 1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
C1317	その他の背部痛	男 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1318	その他の脊柱障害	男 3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1319	軟部組織障害	男 10	0	0	1	0	2	0	3	0	0	0	1	1	2	0	0
		女 14	0	0	0	0	0	0	10	0	0	1	1	2	0	0	0
C1320	肩の傷害	男 2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
		女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1321	骨粗しょう症	男 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1322	その他の骨の密度及び構造の障害	男 1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 4	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
C1323	骨髄炎	男 7	0	0	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0
		女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1324	若年性骨軟骨症	男 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1325	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	男 4	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0
		女 10	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0
C1400	尿路器系の疾患	男 130	0	6	1	0	10	0	0	0	63	0	3	20	17	8	2
		女 250	0	4	1	0	9	178	0	0	13	0	1	11	11	22	0
C1401	急性及び急速進行性腎炎症候群	男 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1402	ネフローゼ症候群	男 2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
C1403	その他の糸球体疾患	男 1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1404	腎尿細管間質性疾患	男 22	0	2	0	0	1	0	0	0	11	0	0	5	3	0	0
		女 26	0	2	0	0	2	0	0	0	4	0	1	5	6	6	0
C1405	慢性腎不全	男 10	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	6	1	0	0
		女 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
C1406	その他の腎不全	男 11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	3	2	2	0
		女 2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
C1407	尿路結石症	男 3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0
		女 10	0	0	0	0	0	1	0	0	6	0	0	0	0	3	0
C1408	膀胱炎	男 1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女 2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
C1409	その他の尿路系の疾患	男 32	0	1	0	0	6	0	0	0	4	0	1	6	9	5	0
		女 25	0	0	0	0	4	0	0	0	2	0	0	4	5	10	0
C1410	前立腺肥大	男 29	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0
		女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1411	その他の男性性器の疾患	男 19	0	1	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	2	0	2
		女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C1412	乳房の障害	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1413	卵管炎及び卵巣炎	男 女	0 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1414	子宮頸部の炎症性疾患	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1415	その他の女性骨盤臓器の炎症性疾患	男 女	0 13	0 0	0 0	0 0	0 0	0 13	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1416	子宮内膜症	男 女	0 55	0 0	0 0	0 0	0 0	0 55	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1417	女性性器脱	男 女	0 19	0 0	0 0	0 0	0 0	0 19	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1418	卵巣、卵管及び子宮広間膜の非炎症性障害	男 女	0 21	0 0	1 0	0 0	0 0	20 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1419	月経障害	男 女	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1420	閉経期及びその他の閉経周辺期障害	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1421	女性不妊症	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1422	その他の女性性器の疾患	男 女	0 67	0 0	1 0	0 0	0 0	66 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1500	妊娠、分娩及び産じょく	男 女	0 507	0 0	0 0	0 0	0 0	0 507	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1501	自然流産	男 女	0 16	0 0	0 0	0 0	0 0	0 16	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1502	医学的人工流産	男 女	0 14	0 0	0 0	0 0	0 0	0 14	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1503	その他の流産	男 女	0 30	0 0	0 0	0 0	0 0	0 30	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1504	妊娠中毒症	男 女	0 19	0 0	0 0	0 0	0 0	0 19	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1505	妊娠早期の出血	男 女	0 20	0 0	0 0	0 0	0 0	0 20	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1506	前置胎盤、胎盤早期剥離及び分娩前出血	男 女	0 7	0 0	0 0	0 0	0 0	0 7	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1507	胎児、羊膜腔の母体のケア、分娩の諸問題	男 女	0 139	0 0	0 0	0 0	0 0	0 139	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1508	早産	男 女	0 4	0 0	0 0	0 0	0 0	0 4	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1509	分娩後出血	男 女	0 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1510	単胎自然分娩	男 女	0 184	0 0	0 0	0 0	0 0	0 184	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1511	その他の妊娠及び分娩の障害及び合併症	男 女	0 70	0 0	0 0	0 0	0 0	0 70	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1512	産じょくに関連する合併症	男 女	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1600	周産期に発生した病態	男 女	120 87	0 0	0 0	0 0	120 87	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1601	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	男 女	22 25	0 0	0 0	0 0	22 25	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1602	出産外傷	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1603	周産期に特異な呼吸障害及び心血管障害	男 女	29 15	0 0	0 0	0 0	29 15	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1604	周産期に特異な感染症	男 女	3 4	0 0	0 0	0 0	3 4	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1605	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	男 女	13 10	0 0	0 0	0 0	13 10	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1606	その他の周産期に発生した病態	男 女	53 33	0 0	0 0	0 0	53 33	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1700	先天奇形、変形及び染色体異常	男 女	21 19	0 0	0 0	1 2	11 9	0 1	0 0	2 0	0 0	3 3	0 1	1 3	0 0	0 0	0 0
C1701	二分脊椎	男 女	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1702	その他の神経系の先天奇形	男 女	1 2	0 0	0 0	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0
C1703	心臓の先天奇形	男 女	2 3	0 0	0 0	1 0	0 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0
C1704	その他の循環器系の先天奇形	男 女	1 8	0 0	0 0	0 2	1 0	0 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 3	0 0	0 0	0 0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C1705	唇裂及び口蓋裂	男女	1 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1706	小腸の先天欠損、閉鎖及び狭窄	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1707	その他の消火器系の先天奇形	男女	4 1	0 0	0 0	0 0	2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1708	停留精巣	男女	2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1709	その他の尿路性器系の先天奇形	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1710	股関節部の先天奇形	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1711	足の先天奇形	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1712	脊柱及び骨性胸部の先天奇形	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1713	その他の筋骨格系の先天奇形及び変形	男女	1 1	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1714	その他の先天奇形	男女	4 2	0 0	0 0	0 0	1 0	2 0	0 0	0 0	0 0	1 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1715	染色体異常	男女	4 2	0 0	0 0	0 0	4 1	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1800	症状、徴候及び異常臨床、検査所見	男女	106 91	0 0	4 4	0 0	4 2	48 40	0 0	1 0	0 0	0 2	11 7	9 10	16 14	11 12	2 0
C1801	腹痛及び骨盤痛	男女	3 5	0 0	1 1	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 3	0 0
C1802	めまい	男女	12 7	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	6 1	4 2	2 1	2 2	0 1	0 0
C1803	不明熱	男女	6 5	0 0	0 0	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	1 2	0 0	3 1	0 0	0 0
C1804	頭痛	男女	2 1	0 0	0 0	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0
C1805	老衰	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1806	症状、徴候及び異常臨床、検査所見	男女	83 73	0 0	3 3	0 0	3 2	47 37	0 0	1 0	0 0	0 1	4 4	4 7	13 12	6 7	2 0
C1900	損傷、中毒及びその他の外因の影響	男女	507 456	0 0	90 61	9 5	75 32	10 6	0 7	279 298	4 4	7 2	1 2	0 11	9 18	11 5	6 3
C1901	頭蓋骨及び顔面骨の骨折	男女	10 1	0 0	2 0	0 0	8 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1902	頸部、胸部及び骨盤の骨折	男女	46 27	0 0	16 9	0 0	1 0	0 0	29 17	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1
C1903	大腿骨の骨折	男女	46 118	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	46 118	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1904	その他の四肢の骨折	男女	102 67	0 0	10 7	0 0	0 0	0 0	92 60	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1905	多部位の骨折	男女	1 1	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1906	多部位の脱臼、捻挫及びストレイン	男女	94 97	0 0	5 4	0 0	0 1	0 0	89 92	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1907	眼球及び眼窩の損傷	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1908	頭蓋内損傷	男女	45 29	0 0	2 6	0 0	41 23	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0
C1909	その他の内臓の損傷	男女	19 6	0 0	10 3	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	3 1	0 0	0 0	0 0	0 2	0 0	5 0
C1910	挫滅損傷及び外傷性切断	男女	1 1	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1911	部位不明及び多部位の損傷	男女	89 39	0 0	38 23	3 3	24 7	1 1	0 0	19 3	1 0	1 1	0 0	0 0	1 0	0 0	0 1
C1912	自然開口部からの異物侵入の作用	男女	5 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 1	2 1	2 1	0 0	0 1
C1913	熱傷及び腐食	男女	9 12	0 0	4 5	0 0	0 0	0 0	1 1	3 4	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1
C1914	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒	男女	8 24	0 0	0 1	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	4 2	5 10	1 5	2 5	0 0
C1915	薬用を主としない物質の毒作用	男女	3 2	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 1	0 0	0 0
C1916	虐待症候群	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1917	その他及び詳細不明の外因の作用	男女	15 11	0 0	2 1	0 0	0 0	4 4	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 2	6 4	1 0	0 0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科	
C1918	外傷の早期合併症	男	13	0	0	5	0	3	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0
		女	19	0	0	1	1	0	7	6	0	1	0	0	3	0	0	0
C1919	損傷、中毒及び外因による影響の続発・後遺	男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2100	健康状態に影響をおよぼす要因、保健	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
C2101	検査及び診査のための保健サービスの利用者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2102	無症候性ヒト免疫不全ウイルス感染状態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2103	予防接種	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2104	伝染病に関する健康障害をきたす恐れのある者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2105	避妊管理	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2106	分娩前スクリーニング及び妊娠管理	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2107	生殖に関連する保健サービスの利用者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2108	分娩後のケア及び検査	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2109	歯の補てつ	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2110	特定の処置及び保健ケアの保健サービス利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
C2111	腎透析依存	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2112	その他の理由による保健サービスの利用者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※上記コードは疾病分類表（小分類）であり、数字は退院患者数と他科へ転科した患者数を合計した数です。